

平成 26 年度

まちづくり懇談会 記 録 誌



平成 27 年 2 月

入 善 町

《 目 次 》

【1】まちづくり懇談会の概要

(1) 実 施 要 項	1
(2) 開 催 次 第	2
(3) 参加者数及び各会場の内容	3

【2】懇 談 会

町長あいさつ「もっといい街、住みよい入善」を目指して
議題「各地区設定のテーマ」（地区提言・要望等）

1. 入 善 地 区	9
2. 上 原 地 区	21
3. 青 木 地 区	31
4. 飯 野 地 区	41
5. 小摺戸地区	49
6. 新 屋 地 区	59
7. 櫛 山 地 区	69
8. 横 山 地 区	77
9. 舟 見 地 区	85
10. 野 中 地 区	93
11. ご意見カード	101

———— 平成 26 年度「まちづくり懇談会」実施要項 ————

1. 趣 旨

入善町の財政状況や主要施策などに関する情報公開を行い、まちづくりや地域づくりの課題等の解決に向け、直接町民と意見交換を行い、互いに情報を共有し、相互理解のもとに信頼関係を築き、支え合いによるまちづくりを推進するため「まちづくり懇談会」を開催する。

2. 開催テーマ 「もっといい街、住みよい入善」を目指して

3. 開催内容

(1) 懇談会：地区議題 「地区設定のテーマについて」(1～3 程度自由設定)

(2) 出席者：町長、副町長、教育長、全課長等

(3) ご意見カード：

- ・出席者にまちづくり、地域づくり等について、意見、提言、要望等を記入してもらい、終了後に回収する。
- ・記録として意見提言をまとめ、町政執行上の参考とする。

(4) 記 録：内容をとりまとめ、各地区に配布及び町ホームページで公開する。

4. 開催期間

平成 26 年 10 月 10 日(金) ～ 11 月 26 日(水)

5. 開催時間

午後 7 時 30 分 ～ 午後 9 時

———— 平成 26 年度「まちづくり懇談会」開催次第 ————

日 時： 平成 26 年 10 月 10 日(金) ～ 11 月 26 日(水)
午後 7 時 30 分～
会 場： 町内 10 地区公民館等

1. あいさつ

2. 町長あいさつ

「もっといい街、住みよい入善」を目指して

3. 懇 談 会

議題「各地区設定のテーマ」（地区提言・要望等）

4. 閉 会

——平成 26 年度「まちづくり懇談会」参加人数及び各会場の内容——

地 区 名	開 催 日	参加人数	25 年 度	前 年 比
1. 入 善	11月14日(金)	98	85	13
2. 上 原	11月 4 日(火)	102	95	7
3. 青 木	11月 7 日(金)	57	62	△ 5
4. 飯 野	11月26日(水)	107	62	45
5. 小摺戸	10月23日(木)	70	70	0
6. 新 屋	10月27日(月)	64	57	7
7. 梶 山	10月29日(水)	76	92	△ 16
8. 横 山	10月10日(金)	53	61	△ 8
9. 舟 見	10月22日(水)	80	62	18
10. 野 中	10月20日(金)	35	37	△ 2
合 計		742	683	59

地 区		1. 入 善	2. 上 原
開 催 日		11 月 14 日(金)	11 月 4 日(火)
開催場所		うるおい館	産業展示会館
区長会長		水野 勝利	佐伯 雄逸
司 会		五十里智治	小沢 秋夫
座 長		五十里智治	武村 俱子
地域課題		○歩道の安全確保について ○北陸新幹線「黒部宇奈月温泉駅」へのアクセス利便性の確保について ○町道外八幡線の道路舗装の改修について	○防犯対策について ○防災対策について ○空き家対策について ○上野吉原線の整備について ○少子化対策について ○子育て支援について ○地域の活性化について
出席者	三 役	町長 教育長	町長 教育長
	課 長	総務課長 企画財政課長 建設下水道課長 健康福祉課長 会計管理者 住民環境課長 税務課長 農水商工課長 教育委員会事務局長 議会事務局長	総務課長 企画財政課長 建設下水道課長 健康福祉課長 会計管理者 住民環境課長 税務課長 農水商工課長 教育委員会事務局長 議会事務局長
	議 員	五十里 国明 五十里 忠茂 田中 伸一 中瀬 淳哉 本田 均	中瀬 範幸
	事務局	財政係長 企画調整係長 企画調整係	財政係長 企画調整係長 企画調整係
参加者数		98 人	102 人
世 帯 数		2, 370 世帯	944 世帯

地 区		３．青 木	４．飯 野
開 催 日		11 月 7 日 (金)	11 月 26 日 (水)
開催場所		広域働く 婦人の家	農村環境改善センター
区長会長		中村 文博	屋木 健人
司 会		松本 昭則	志摩 廣作
座 長		松本 昭則	志摩 廣作
地域課題		○今後の農業について ○のらんマイ・カーの運行について ○青木保育所跡地の利用について	○通学路の安全確保について ○東狐五郎八線の拡幅計画と農村環境 改善センター跡地の整備計画につい て ○津波対策について ○防災について
出席者	三 役	町長 教育長	町長 教育長
	課 長	総務課長 企画財政課長 建設下水道課長 健康福祉課長 住民環境課長 税務課長 農水商工課長 教育委員会事務局長 議会事務局長	総務課長 企画財政課長 建設下水道課長 健康福祉課長 会計管理者 住民環境課長 税務課長 農水商工課長 教育委員会事務局長 議会事務局長 C A T V 放送センター所長
	議 員	松澤 孝浩	井田 義孝 山下 勇
	事務局	財政係長 企画調整係長 企画調整係	財政係長 企画調整係長 企画調整係
参加者数		57 人	107 人
世 帯 数		583 世帯	1,574 世帯

地 区		5 . 小 摺 戸	6 . 新 屋
開 催 日		10 月 23 日 (木)	10 月 27 日 (月)
開催場所		小摺戸公民館	新屋公民館
区長会長		谷川 但	大林 松雄
司 会		伊林 雅夫	米田 章
座 長		松島 雅広	永井 隆
地域課題		○子供たちの通学における安全の確保について ○進む少子高齢化・人口減少への対応について ○安全・安心のまちづくりについて	○北陸新幹線高架下道路の黒部川架橋建設について ○墓ノ木自然公園の管理の充実について ○公立総合病院への利便性の確保について
出席者	三 役	町長 教育長	町長 副町長 教育長
	課 長	総務課長 企画財政課長 建設下水道課長 健康福祉課長 会計管理者 住民環境課長 税務課長 農水商工課長 教育委員会事務局長	総務課長 企画財政課長 建設下水道課長 健康福祉課長 住民環境課長 税務課長 農水商工課長 教育委員会事務局長 議会事務局長
	議 員	鬼原 征彦	鬼原 征彦
	事務局	財政係長 企画調整係長 企画調整係	財政係長 企画調整係長 企画調整係
参加者数		70 人	64 人
世 帯 数		412 世帯	546 世帯

地 区		7. 梶 山	8. 横 山
開 催 日		10 月 29 日(水)	10 月 10 日(金)
開催場所		梶山公民館	漁村センター
区長会長		鍋嶋 太郎	西田 義嗣
司 会		中田 邦夫	舟渡 義光
座 長		鍋嶋 太郎	土居 久哲
地域課題		○防犯カメラの設置について ○老朽家屋や屋敷跡対策及び空き家対策について ○再生広場のリサイクル品受入れの規制について	○町道春日荒又線の一部拡幅について ○町道春日藤原線の拡幅について ○J R 古黒部地内の踏切の拡幅について
出席者	三 役	町長 教育長	町長 副町長 教育長
	課 長	総務課長 企画財政課長 建設下水道課長 健康福祉課長 会計管理者 住民環境課長 税務課長 農水商工課長 教育委員会事務局長 議会事務局長	総務課長 企画財政課長 建設下水道課長 健康福祉課長 会計管理者 住民環境課長 税務課長 農水商工課長 教育委員会事務局長 議会事務局長
	議 員	谷口 一男	佐藤 一仁 松田 俊弘
	事務局	財政係長 企画調整係長 企画調整係	財政係長 企画調整係長 企画調整係
参加者数		76 人	53 人
世 帯 数		811 世帯	550 世帯

地 区		9. 舟 見	10. 野 中
開 催 日		10 月 22 日(水)	10 月 20 日(月)
開催場所		舟見交流センター	野中地区交流センター
区長会長		大田 茂久	金森 一洋
司 会		高邑 欣市	池田 克則
座 長		高邑 欣市	池田 克則
地域課題		○舟見地区の観光資源整備について ○舟見山、中谷の砂防堰堤整備について ○空き家・空き地対策について	○道路改良の促進について ○安全・安心なまちづくりについて ○有害獣対策について
出席者	三 役	町長 教育長	町長 教育長
	課 長	総務課長 企画財政課長 建設下水道課長 健康福祉課長 会計管理者 住民環境課長 税務課長 農水商工課長 教育委員会事務局長	総務課長 企画財政課長 建設下水道課長 健康福祉課長 住民環境課長 税務課長 農水商工課長 教育委員会事務局長
	議 員	野島 浩	野島 浩
	事務局	財政係長 企画調整係長 企画調整係	財政係長 企画調整係長 企画調整係
参加者数		80 人	35 人
世 帯 数		423 世帯	221 世帯

【2】懇 談 会

1. 入善地区

開催日：平成 26 年 11 月 14 日(金)

会 場：うるおい館イベントホール

町長あいさつ

「もっといい街、住みよい入善」を目指して

★町長

私は、9月1日に、第7代目の入善町長に就任させていただきました。以来、1カ月余りが経過し、あらためて、その職責の重さを痛感している日々であります。町民の皆さんの負託に応えるため、全力で町政の執行に取り組んでまいり所存であります。

それでは、新たに町政の舵取りを担当するにあたり、私の所信の一端を述べさせていただきます。私の目指すまちは「もっといい街、住みよい入善」であります。その具体化に向け、「皆さんの笑顔があふれるまちづくり」「子どもたちの声が響き合う地域づくり」を目指したいと考えております。

まず、「皆さんの笑顔があふれるまちづくり」について申し上げます。

私たちが生活する上で大切なことは、「安全」で、「健康」で、「豊かな暮らし」に支えられ、かつ、「自分の町への自信と誇り」をもつことであると思います。

そのため私は第一に「安全・安心のまちづくり」を目指してまいりたいと考えております。

去る8月26日、日本海側の大規模地震に関する政府調査検討会が、北海道から長崎までの沿岸市町村における津波の高さをまとめた推計を公表しました。入善町では、「最大津波高7.5m」と、県内で最大となる推計であります。この内容を新たな知見と捉え、国や県等とも連携しながら町防災計画などの更新を図るほか、「備えあれば憂いなし」の言葉どおり、災害発生時の体制づくりや対応策を講じてまいります。特に、地震・津波対策として、海岸地域の住宅密集地の方々の避難道路の整備や、老朽化した公共施設の更なる耐震化が必要と考えます。

次に、「健康」について申し上げます。本町の高齢化率が30%を超えた中、高齢者の社会参加の促進と生きがい対策を進め、健康年齢の引き伸ばしに努めたいと思います。また、保健センター機能をフルに活用し、子どもから高齢者まで、それぞれのステージにおける健康診査や健康教室、健康相談の充実を図り、笑顔があふれる「健康なまち」を目指してまいります。

次に、「豊かな暮らし」について申し上げます。

まず、「地域産業の活性化」についてであります。農業を基幹産業とする本町において、いかに安定的な農業経営を目指すかが重要であります。本年は、天候にも恵まれ一等米比率が98%と高いようではありますが、近年は、コシヒカリの一等米比率や食味ランクが低下しており、農業所得の減少につながる局面にあることから、今後も優良米の産地としての名声を堅持しながら、安定的な農業経営を確立することが必要であり、JA、県との連携強化と、積極的な支援体制の構築を急ぎます。また、農・水・商工との連携による六次産業化の推進にも力を入れなければなりません。ジャンボ西瓜やチューリップ球根などへの支援はもちろん、町の農産物や水産物を活用した新たな特産品の開発にも支援してまいります。

続いて「企業誘致の推進」であります。本町には、広大な農地や、黒部川からの表層水や地下水、そして全国にも誇れる海洋深層水などの水資源に加え、勤勉性の高い労働力があり

ます。これらの資源・魅力を求めて、近年、液晶用偏光板製造の「サンリッツ」や無菌包装米飯製造の「ウーケ」など、優良企業が立地、さらには、この7月には海洋深層水でカキを蓄養する「日本かきセンター」が進出されました。私は、入善町の強みを生かし、情報収集やトップセールスに努め、積極的な企業誘致を図ってまいります。また、町内にはたくさんの中小企業が大手産業の下支えをしておられます。これら中小企業に対する支援体制を早急に立ち上げたいと考えます。

次に、「公共交通網と都市空間の整備」についてであります。黒部川扇状地の特性を考えた、町全体の交通弱者対策を早急に講じる必要があります、近隣市町との連携を図りながら、デマンド方式も含めた公共交通の在り方を、スピード感を持って構築しなければなりません。また、平成27年3月14日開業となる北陸新幹線の「黒部宇奈月温泉駅」と入善町を結ぶ二次交通の整備をはじめ、並行在来線「あいの風とやま鉄道」開業に向け入善駅、西入善駅での利便性の向上を図ってまいりたいと考えます。さらに、中心市街地の活性化を図るためにも、元気な商店への支援策と市街地の住環境空間を整備し、「コンパクトなまちづくり」いわゆる「歩いて生活できるまちづくり」に努めたいと思います。

続いて、「自分の町への自信と誇り」をもつための「観光振興」について申し上げます。北陸新幹線開業や立山黒部の「日本ジオパーク」認定は、町の観光振興にとって大きなチャンスになることは間違いありません。本町には、水や扇状地、海洋深層水など他に誇れる資源がたくさんあり、町のもつ様々な魅力を全国に向けて発信できる体制づくりが急務であります。これら観光資源を特化するために、「黒部川扇状地フィールドミュージアム」の整備を検討したいと思います。

次に、「子どもたちの声が響き合う地域づくり」について申し上げます。

日本創成会議の「人口減少問題検討分科会」によれば、2040年までに全国自治体の半数で出産適齢期の女性が半減し、人口が減り、自治体運営そのものが困難になると言われています。入善町における近年の出生数は、約150人前後であり、人口減少の大きな要因になっております。少子化や高齢化、そして人口減少化は全国的な傾向とは言え、我々にとっては決して諦めてはいけない大きな課題であると考えております。

私は、まず、「少子化対策」に力を注ぎます。町として、結婚相談員制度を創設し、結婚を希望する方々への支援に努めてまいります。

次に、「子育て支援の充実」に努め、出生率の向上を目指します。結婚、妊娠、出産、保育所入所、入学など、節目の支援体制を整備するとともに、これまでの「子宝支援金制度」を強化し、保護者の経済的負担の軽減に努めます。

続いて、「保育・教育環境の整備」についてであります。今、勤務体系が複雑化し、夫婦共稼ぎ世帯が増加する中で、保護者の保育ニーズは多様化しており、入所基準の見直しや手続きの簡素化、保育システムの弾力化や保育士の確保など、時代に合致した体制づくりに取り組みます。また、3人目以降の保育料無料化をはじめ、1小学校区1保育所体制の整備を進めたいと思います。

次に、「学童保育の充実」についてであります。今、町の学童保育は、施設面や指導員数による制約などで、対象者全員が学童保育に参加できる状況にはありません。私は、希望者全

〔 1.入善地区 〕

員が参加できる体制づくりに全力を注いでまいります。また、平成 27 年 4 月からの「子ども・子育て支援新制度」スタートに伴い、学童保育の対象年齢が引き上げられることから、入善町でも小学 6 年生までの受入体制を早急に構築しなければならないと考えます。

入善町では、平成元年に約 29,700 人であった人口が、現在は 26,200 人と減っております。町の活力と元気のためには、この人口減少に歯止めをかける方策の構築が欠かせません。「人口減少を緩やかにする政策」と「子育て支援策の充実強化」が必須であり、まず、手始めに、「少子化対策・子育て支援担当係」を設置するとともに、専門のワーキングチームを立ち上げ、課の垣根を越えた施策の重点化に着手しました。

今日の日まぐるしく変化する時代の流れを的確に捉え、常に町民の皆さんの声を聴き、皆さんの目線に立ち、スピード感を持って新しいまちづくりに取り組みたいと考えておりますので、町民の皆さんのご理解ご支援をお願い申し上げます。

議題「入善地区設定のテーマ」

（１）歩道の安全確保について

☆住民

葬送会館いずみから町へ抜けるカットスタジオビダンまでの歩道に、140 本ほどのイチョウ等が植樹されている。地域住民の通勤、通学、買い物、散歩に利用されているが、近年樹木の生長に伴って根が舗装を隆起させ、アスファルトの亀裂や縁石の盛り上がりが発生している。通行人の転倒の危険があるため、歩道の改修を要望した。先ほど見てきたところ、早速今週から取り掛かっていたが、残りの部分もお願いしたい。

★建設下水道課長

町道君島櫛山寺線は、両側の歩道にクスノキやイチョウの木が立ち並び、景観に配慮した安らぎのある歩行空間になっている。ただし、ご指摘のとおり木がかなり大きくなり、根が隆起して歩道路面を傷めたり、大きくなった木が繁茂してきたりしている。町としても随時修繕を行っており、歩道の傷みがひどいところから順に 2 年前から整備を進めている。今年も歩道の改修整備をしている。また、枝も繁茂して苦情も多々受けていることもあり、9 月議会で予算を補正し、街路樹の全面的剪定を行うことにした。発注は済んだところであり、作業は冬場にかかるかもしれないが、なるべく早く進めていきたい。歩道環境の整備については、今後も適切な管理に努めていくので、ご理解いただきたい。

（２）北陸新幹線「黒部宇奈月温泉駅」へのアクセス利便性の確保について

☆住民

入善駅、西入善駅での利便性の向上、黒部宇奈月温泉駅と入善を結ぶ二次交通の整備の 2 点について、まだ正式な新幹線のダイヤは発表されていないが、8 月末の J R の発表によると、各駅停車のはくたかは 1 日 14 往復となっている。東京～糸魚川間が約 2 時間、黒部宇奈月温泉駅だともう 10 分くらいかかると思うが、入善地区の人については、入善駅から並行在

来線に乗り、糸魚川駅で新幹線に乗り継ぐ方が多くなると思う。糸魚川駅で10分から20分くらいで連結できればいい訳で、そうすると糸魚川から30分、待ち時間を合わせても3時間に満たない。今の特急はくたかと上越新幹線の乗り継ぎで3時間10分なので、かなり便利になる。そこで、入善駅、西入善駅の利便性の向上は、地区の活性化の重要なテーマだと思う。三セクのいろいろな問題もあるし、三セクのダイヤもまだ分からない訳だが、入善町として三セクへの働きかけをどうしていくか、目指しているものがあれば聞きたい。

2点目に、関西方面を考えると糸魚川駅という訳にはいかないので、富山駅か黒部宇奈月温泉駅を利用することになる。外から見れば入善町は黒部宇奈月温泉駅に近いと思われるので、黒部川扇状地全体の観光振興も含めて、黒部宇奈月温泉駅と入善町との二次交通は、非常に大事である。具体的に何か考えていければ聞きたい。

★農水商工課長

来春の新幹線開業で、県や町も観光やビジネス面で期待をしている。新幹線開業効果を最大限に上げていくため、公共交通としっかり連携していくことが重要であり、いろいろな移動手段を想定しながら進めて行く必要がある。現状は、黒部宇奈月温泉駅から直接入善にアクセスする方法がない。地鉄の新駅が併設されるが、そこから魚津へ出て入善に来ると、非常に長い時間がかかる。また糸魚川駅で降りて、三セクに乗って入善に来る方法もあるが、直接県境をまたぐ列車がほとんどない状況で、泊駅での乗換えも必要になり、これもかなり時間がかかる。車の方に関しては、周辺に500台の無料駐車場が整備されるので、そこを利用して行くか、送迎ということになる。どうしても公共交通を使わなければいけない方は、相当数いると町では考えている。

町長も言ったとおり、二次交通という言葉を使うが、町から直接新幹線駅に乗り入れるバスを運行できないか考えている。14往復、長野発着を入れると15往復、30本の新幹線が停車するので、全てについてバスを連絡させるのも、非現実的である。どの便にニーズがあるのかしっかりと見極めながら、効率的な町営バスの運営ができればいいと考えている。ダイヤについてはまだ発表されていないので、そのダイヤを見て整備をしたい。また、黒部市においても、現在のJR黒部駅と新幹線駅にアクセスする公共交通がないため、バスの運行を考えていると聞いている。黒部市とも上手く連携しながら整備していきたい。

★企画財政課長

東京方面については、基本的には黒部宇奈月温泉駅を使う方法か、糸魚川駅で乗り継ぐ方法がある。あいの風とやま鉄道は、泊から金沢までで、一部糸魚川にも乗り入れる。新潟のえちごトキめき鉄道は、泊駅まで乗り入れる。場合によっては入善駅で乗車して泊駅で1度降りて、乗り換えて糸魚川駅まで行くことになる。そこで先日、滑川市から糸魚川市までの市町議会の議長や並行在来線の特別委員会の委員が、石井知事や新潟県知事へ利便性の確保ということで要望をしてきた。

また、町としても毎年県への要望にあわせて、あいの風とやま鉄道にも県境を越えての利便性の確保を強く要望している。あいの風とやま鉄道のダイヤは、12月の新幹線のダイヤ発表とあわせて発表されるのではないかと考えている。幹事会などで私も発言しているが、入

〔 1.入善地区 〕

善町では糸魚川駅での乗り継ぎも多くなることが想定されるので、糸魚川駅までの乗入れについて利便性を図ってほしい、あるいは待ち時間が少ない列車を走らせてほしいと強く言ってきた。その結果がダイヤにつながると期待している。あいの風とやま鉄道は、これから運営が始まるわけであり、今後も不便なところについては町として様々な要望をしていきたい。

また、関西方面については、早朝に魚津発のサンダーバードがあるが、それがなくなり、金沢発になる。現在は普通列車の場合、富山駅で乗り換えて金沢まで行くというのが通常だったと思うが、あいの風とやま鉄道では、泊駅から金沢駅まで乗換えなしの直通列車を走らせるダイヤを組みたいと聞いている。快速列車も3往復に増えるということで、その利用も可能と考えている。乗継ぎをなくす形で金沢まで行くというのが基本的な考え方なので、一定の利便性は確保してくれるのではないかな。関西方面であれば金沢駅でサンダーバードに乗換えになるが、金沢駅まで乗換えなしにするという利便性を考えてもらっているということで、ご理解いただきたい。

また、入善駅については相当古くなっているが、駅舎の新築や改築は自治体でやってほしいというのがあいの風とやま鉄道の考えである。町としても、いろいろ財源を見つけながらやっていきたい。また、エレベーターの設置についても考えている。町としても駅の利便性の向上を考えてやっているの、で、よろしくをお願いしたい。

☆住民

えちごトキめき鉄道の話は聞いていたが、あいの風との接続がかなりスムーズになると思っていたので、その辺いろいろ働きかけて、糸魚川との利便性が高まるようにお願いしたい。

★企画財政課長

私たちも努力していくので、皆さんのお力添えをよろしくお願いしたい。

（3）町道外八幡線の道路舗装の改修について

☆住民

田中豆腐店横から、県道吉原入善線までの約 200mの区間には、あまりにもひびが多いため、私は区長になってすぐに問題点を建設下水道課に要望したが、3年経ってもいまだに改修してもらえない。今年の10月に要望していないところを舗装していった。それは舗装ではなくて、消雪の傷みがあるからと聞いたが、消雪の修理と約5m四方の舗装をしていった。私が要求したのは、そこから20m離れた十字路だったが、そこはすごくひどい状態になっているのに、なぜ一緒にやってもらえなかったのか。大きな機械を持って来て舗装するのだから、約20m離れた所も同時にしたら良かったのではないかな。町は効率の悪いやり方をするのだなという思いもあるので、その点について聞きたい。

★建設下水道課長

田中豆腐店から高登川までの間の道路の、ひび割れがひどいので何とかしてほしいというのは、前々から区長から要望を受けている。その要望を受けて何とかしようと改修の計画を立てたが、調べてみるとこぶし公園の交差点のところが低くて水が溜まりやすく、そこを高

くしないと水溜りがはけない。縦道横道共に消雪があるが、その消雪を1回持ち上げないと道路自体が持ち上がらない。要望のひび割れ対策のため、今回消雪を持ち上げて舗装した。町としては区長の要望に応えたという気持ちでいる。

☆住民

それは、私以前の人が要求したところだと思う。私は、そこから20m離れた所にもっとひどい所があると言っていたはずで、そこをやっていないので効率の悪いやり方だと言っている。大正時代からあった、今で言うならメインストリートだったのだが、それが見捨てられているのかなと思った。そういう所を監査する人はいるのかということも聞きたい。

★建設下水道課長

気持ちはよく分かるが、限られた予算で、入善町全域を対応しなければならない。集中的にやるのは必要だと思うが、なかなかそこまで手が回らないのが現状である。また、現場に出たら他の道路も回って、何か不都合はないかパトロールしながら対応している。地元の方からの連絡で現場に行き、自分たちで対応できるものはすぐに対応し、規模の大きいものは業者に頼むというやり方で、町でも一生懸命対応しているので、ご理解いただきたい。

☆住民

これは苦情だが、要望書を提出して返答があっても、訳の分からない返答が多い。もっと真正直に、要望したものができないなら、こういう理由でできないと言うなら納得もするが、ビックリするような回答が返ってくる。もう少し若い人に教育していただきたい。

★建設下水道課長

その辺は十分注意していくように指導していきたい。

☆住民

先ほどの舗装の件だが、町全体であまりにも多いなら、議員の方と相談されて予算を組んでもらったらどうか。1箇所1箇所やる度に大きな機械を持って来て、それで20メートルしか離れていない所をなぜやらないのか。一般社会ではそんな効率の悪いやり方はしていない。もし、町内に何十箇所あっても、補修だけの項目を作って予算を組んで修理した方が、すごく効率がいいと思う。

★町長

町とすればいろいろな要望が出されるが、全てを聞き入れるのは難しく、内容を精査しながら、やれる所から順次やっていきたい。また、効率的な仕事をせよというのは、おっしゃるとおりである。ただ、今回の場合は消雪の分野と道路の分野があり、まず必要な消雪から取りかかった。今後また現場を見させていただき、適切に対応できるように努めていきたい。

[1.入善地区]

☆住民

田中の踏切から西に 100m くらいのところに、保護柵がある。去年言ったときにはあまりにも訳の分からない返答で黙っていたのだが、去年よりもっと崩れている。それに対して本当にパトロールしているのか。

★建設下水道課長

今言われたところには、注意喚起のためにコーンを 1 つ置いているが、そこは改修する対応を今進めている。線路のすぐそばなので、工事にあたっては J R との事前協議が必要であり、その協議のために時間がかかっている。予算を確保して進めているので、もうしばらくお待ちいただきたい。

(4) その他

☆住民

私は田中に住んでいるが、今の状態だと田中踏切の上下は完全に分断しているので、泊のように何とか地下道を作って分断を解消してほしい。泊で実際やっているのだから、入善でできないことはないと思う。田中に地下道を作って、東洋紡の下もあと 2 m ほどくぐる。そうしないと、田中の踏切を通るのにずっと並んでいて、そのために歩行者も怖い思いをしている。泊のように、4 m くらいの地下道を作って上に歩道を通してほしい。田中と東洋紡の前をきちんと整備しないといけない。子供は大事だと言っているのに、子供が事故にあったらどうしようもない。

★建設下水道課長

J R を横断する地下道については、膨大な事業費がかかってくる。その中で、どこに J R 横断施設を作っていけばいいのかということについては、町としては都市計画道路というものがある。西については上野吉原線で上の方 600m ほどできているが、それを延伸して J R を横断できるような計画道路がある。

東洋紡のアンダーについては、現在のアンダーの拡幅となると、安全対策をして電車を通しながら広げていくことになる。これも巨額な費用がかかってくるのが予想されるので、難しいと思っている。費用の面、費用対効果の面など、いろいろあるので今後 J R 横断についても検討していかなくてはいけないと思っている。

★企画財政課長

子供たちの安全、歩道の確保についての話だと思う。県道であるので、歩道の確保を県に要望しているが、J R 協議は非常に難しい。

☆住民

難しい難しいと言っているが、実際に泊にはあるし、栢山にも通っている。なんで難しいと言うのか。全然できないというのなら分かるが。もっとしっかりやってもらいたい。

☆住民

先ほどから町長の声をはじめ、子供の声とか安全という言葉がたくさん出てきている。私もそれに関係していると思うのでお願いしたい。

高登川の、駅前から駅南住宅に抜ける道路の橋が架かっているすぐ山側に落差工があるが、老朽化で完全に壊れてしまい、両側の土砂が流された。去年の年末、郵便局の駐車場の川寄りに約 50 cm の丸い穴があり、のぞいて見ると深さは約 2 m、幅 1.5 ～ 2 m の空洞ができていた。この原因は、用水の床が壊れてみんな吸い取っていったからである。上は舗装があるので約 50 cm、すぐにベニアをひき、改良区へ連絡したところすぐ来てくれたが、うちではなく役場の管轄だと言われた。土曜日だったが、連絡したら幸い建設下水道課の方がいて、すぐに来て赤いコーンを 5、6 本設置し、人が落ちないようにしてくれた。もし人が落ちると、子供だったらアウトである。1 週間くらいして建設下水道課だと思うが、きちんと土砂を入れて埋めていったが、春になってまた抜けた。そのときも建設下水道課が直したのだと思うが、西側ががっばり穴が開いている。

私の家の車庫は基礎にコンクリートがあるので、今のところは下がることはないが、もう少し進行すると車庫を壊さなくてはならない。落差工のところをもう一度作り直してほしい。また、農協の駐車場にも去年夏に抜けたところがある。同じように、民家のところでも穴が開いた所があるはず。川底を見ると、水面から下は石ばかりでコンクリートは見えないほど老朽化している。私の家の横を早急に直すのと、全体が老朽化しているので、とてもお金がかかると思うが、県か国か分からないが早急に町として働きかけていただきたい。先日、上田県議、田中町議をはじめ、何人かは現場を見ている。なるべく早くお願いしたい。

★町長

その件は、私も担当から説明を受けている。まずやらなくてはいけないのは、安全対策だと思っている。ただ、そのエリアだけでなく、その前後も相当老朽化していると聞いており、計画的にやっていく必要がある。私たちも気を付けているが、何かあれば役場に連絡してもらい、早急に対応できるような体制でいきたい。

☆住民

ただ直すのではなく、直しながら落差を利用して発電機を付けてほしい。

☆住民

先ほど歩道の話が出たが、その歩道に椅子を設けてもらえないかと要望した。除雪面などで問題が多々あるということだが、ぜひとも椅子の設置をお願いしたい。

もう 1 つは、災害時要援護者カードについてである。このカードはたぶん、消防署と各地区の社協の会長、民生委員に配布されていると思うが、ぜひ各区長へも配布をお願いしたい。私の地区の企画と財政福祉委員会でも、特に高齢者が 1 番困っているのは、災害時の手助けである。これはアンケート調査で 26% を占めている。それから、地域の見守りと声かけが大事で、買い物時や病院の送迎も心配している。冬の除雪も心配で、今回入善地区の議員にも率先して除雪ボランティアに加盟してもらった。とてもありがたいことだが、なるべく早く

〔 1.入善地区 〕

各区長へ、災害時要援護者台帳の配布をお願いしたい。

★建設下水道課長

歩道にベンチをという要望は前から聞いているが、除雪をしなくてはならないのと、いろいろな人が通るので支障があるかどうか検討している。また、材質をどのようにすればいいのか、風が吹いて倒れても駄目だし、そういう面も含めて検討したいので、しばらくお待ちいただきたい。

★健康福祉課長

要援護者のカードについては、早く配布するようにしていきたい。

☆住民

私は、10 年前に子供が小学校に上がると同時に入善に移り住んできた。子供が通学する時に危ないなと思いながらも、どこに要望してよいか分からず今に至っている。たまたま、去年から中学校の P T A 役員をやることになり、他の親も同じことを考えているだろうと思い、学校で独自にアンケートをとったところ、教育に関することもあるが、それ以外に安全・安心な通学についてたくさん要望をいただいた。先般、町の P T A を通じて教育長に要望したところだが、例えば通学に関することだと、建設下水道課だったり総務課だったり、いろいろな課にまたがる。教育のことだが、教育委員会以外にもいろいろな課に足を運んだ中で、真摯に答えていただき感謝している。

その中でも特に言いたいのは、こういう要望は私たちがしないと、今までもこれからもないと思う。町が代表してこういう要望を調査できるような体制づくりをしてほしい。また、町長が言う、安全・安心なまちづくりを目指すためには、子供を持つ私たちの意見をもっと取り入れてもらえるような体制づくりを、例えば町民の声コーナーのような、スーパーなどによくあるような、そういうことをやっていただければと思うので、検討をお願いしたい。

★町長

子供たちの安全・安心という観点からの意見ありがとうございます。通学路の安全対策については、道路の管理者である町が定期的に行っているが、なかなか全域に目が行き届かないこともある。そういう点を、P T A や地区の皆さんから指摘いただければ、速やかな対応をしていくことにしている。子供たちの安全・安心を守るという観点からも、お気付きのことがあれば、私たちに申し出てくれればと思うので、よろしくをお願いしたい。

☆住民

うるおい館の話だが、その階段が非常口になっているが、実際は非常口の看板だけで通路を確保していない。消防署から指摘されても、いたちごっこをしているのが現実で、これはおかしいのではないかと。せめてあと 2 m 広げれば、いざという時に走れるはず。

★農水商工課長

現状そうなっているので、問題があると思っている。倉庫が狭く、階段のところが使い勝手がよく一時的にそうしているのかと思うが、改善できないかうるおい館と協議したい。

☆司会

毎年まちづくり懇談会があり、要望事項があるが、この要望に対して結果が最終的にどうなったのか、次の年でもいいので説明していただく機会があってもよいのではないか。また、このまちづくり懇談会のやり方について、今のようなやり方はもう20年くらいになるのではないか。ちょっとマンネリ気味になってきているような感じもあるので、若い人も含めてもっと活発な議論ができるような、スタイルを変えたやり方を検討されてはどうか。

〔 1.入善地区 〕

【2】懇 談 会

2. 上原地区

開催日：平成 26 年 11 月 4 日(火)

会 場：産業展示会館

町長あいさつ

「もっといい街、住みよい入善」を目指して

★町長

入善地区参照

議題 「上原地区設定のテーマ」

（１）防犯対策について

☆住民

上原地内には、地下をくぐる歩道として、町道吉原国道線のガード下、道市のガード下、道市公民館のガード下がある。８号線については、古くから地下歩道で整備されていた。新たにバイパスができたことにより、東坪と上野４区地内の２箇所に大きな地下道ができた。いろいろと問題はあるかもしれないが、子供たちの通る区域として、古くからある上野の地下歩道については、何かあった時には赤色灯が点灯するようになっている。ＪＲの下は電源の関係があってなかなか付かない。人目の届かないところが多くなりつつあると思う。

その点で今回お願いしたいのは、上野４区の地下道である。歩道と車道にかなり段差があり、車で通ったとき歩道まで目が届かない。車に対しては水対策で赤色灯が付いているが、子供たちが通って何かあったときに外部に知らせる手段がない。排水ポンプの電源を利用して、非常時に知らせるものを付けていただけないか。とにかく防犯面で言うと、なかなか目の届かないところがいろいろな開発によって増えてきている。特に子供たちが通るところに配慮いただきたい。

次に、地区住民への防犯対策について。上原地区内で事件、トラブル、不審者情報等があっても、役所からリアルタイムで情報が流れてくることはなかなかない。先日、道市で鉄板などが盗まれたという情報があったが、これは割と早く知らされたと思う。ただ、警察情報なので、なかなか町でも管理しきれないのだと思っている。せっかく防犯連絡所を各地区に設けていて、区長が住民の皆さんに説明する役目も担っているのだから、ささいな情報でもできるだけ早く知らせてもらえれば、区長から地区の皆さんに情報を流すこともできる。年に何回か警察だよりや、町の防犯だよりが届くが、それよりもう少し早めに情報をいただければ、より安全な対策がとれるのではないかな。商店街では防犯カメラが設置されたと聞いている。商店街だから付けるのが安かったのだと思うが、各地区でも申請すれば付けられるのか。付ける場合に補助はあるのか聞きたい。

★総務課長

まず、防犯対策について、町道道市下川原国道線の、県道と８号バイパスの地下アンダーに赤色灯を付けてほしいという要望について、地下横断歩道にはほとんど赤色灯が付いて、何かあったときに通報することになっている。８号バイパスについては、車道と歩道がアンダーしているわけだが、そういう道路には、なかなか装置が付いているところがない。管理は町だが持ち主は国土交通省なので、設置するために国土交通省に確認したが、こうい

ころに赤色灯が付いている例がないという回答だった。しかし、おっしゃるとおり、歩道が高く車が通っていても何かあっても分からないのが現状である。危険性などは理解できるが、国ともどうすれば設置できるのか、費用はどうなるのかなど協議していきたい。

次に、事件などがあった場合の周知手段や防犯カメラについては、町では大雨や強風、火災、地震、クマ出没などの非常事態に関することや、緊急、重要な事項については、防災無線を使って皆さんに緊急通報を行うこととしている。また、窃盗事件や振り込め詐欺などのトラブルに対する注意喚起も防災無線で発信しており、犯罪の未然防止に努めている。また、不審者情報などは学校とも連携を図り、学校から保護者の方にメール配信を行い注意喚起に努めている。さらに、入善警察署ではヒスイ情報通信により、犯罪の発生情報や振り込め詐欺などの犯罪抑止の情報を正確かつ速やかにパソコンや携帯電話のメールに提供するサービスを行っており、登録すれば誰でも利用可能になっている。いろいろ方法はあるが、本当に緊急性がある場合は、区長会長を通じて各区長に情報を流せるようにしている。緊急の場合は皆さんに伝えられればよいのだが、今はこのような方法しかないので、防災無線の情報に気を付けていただきたい。

防犯カメラについては、現在、入善駅前駐輪場、うるおい館周辺の市街地内、総合体育館の内外に設置されている。管理はそれぞれ、商工会や体育協会、黒東防犯協会が行っている。設置にあたっては、設置場所や撮影範囲、プライバシーの保護や映像の開示、管理についてなど、解決すべき多くの課題がある。県の公安委員会でも補助制度があるが、ハードルが高く、取り組みについてはもう少し検討する余地がある。そこで、町単独でできないかということだが、他の地区からも要望があるので、設置については、いろいろな条件をクリアしながら、新年度に向けて検討したい。

（２）防災対策について

☆住民

津波の対策について、入善町には1番大きな津波が早くやってくると報道されている。それを踏まえて、町の津波に対する防災計画はどのようなものか。これから改定されるという話だが、それは具体的にいつできるのか聞かせていただきたい。町で計画されたものがスピーディに提供され、地元での対策を検討していくことが住民には必要である。具体的には、避難場所の規模や箇所数などはどのようになっているのか。例えば、避難用の家庭用シェルター等を考えることも出てくると思う。また、災害用のコンピューター等により、入善町を対象とした津波のシミュレーション化ができたものがあれば、現実味をおびた形で地区住民が避難計画や対策を立てられることに結び付いていくと思う。

★総務課長

防災対策については、町長の所信の中でもあったとおり、2月に県のシミュレーションを基に防災マップを作成し、皆さんに配布したばかりなのに、8月に突然政府の調査検討会から新しい津波の推計が公表され、町としても大変衝撃を受けている。公表資料によれば、富山湾西側氷見沖の断層で強い地震が発生した場合には、入善町の最大津波高は7.5m、到達時間については、30センチの第1波が約4分という推計である。7.5mの波が来ることによ

〔 2.上原地区 〕

ってどういうことが起きるかは、想像ができると思う。こういうものを出され、私たちも非常に混乱しているし、県もこの発表に混乱していると聞いている。ただ、具体的に 7.5m の津波がどこに来るのか、どの辺りまで浸水するのか、あるいは最大津波高の到達時間はどのようなかなどの詳細は明らかになっておらず、町としても国や県に対し、正確な情報提供や調査を求めながら、十分に連携を図りながら必要な対策を講じていきたい。

また、そのような津波が来たときにどのように避難するのか。避難所については、上原地区には、産業展示会館、上青小学校、入善西中学校、老人福祉センター、保育所の 5 箇所があるが、海岸付近には高い建物がないことから、緊急的な避難場所の確保が大きな課題である。今のところ、JR から下の高いところと言えば、サンリッツなどの工場まで来ないとな。企業との協定を活用しながら、企業の上に逃げられるようにできないかなど、いろいろな方法を考えており、様々な視点で検討していきたい。避難シェルターについては、数人程度の家庭用シェルターが開発されているが、地区全体が避難できるものではなく、町としての設置は困難であると考えている。

次に、町独自での地震、津波のシミュレーションについて、今回の国の推計については、津波防災地域づくり法に基づき、都道府県による津波の浸水想定の設定作業を促進するために行われたもので、具体的な浸水シミュレーションについては、今後県が進めていくことになる。町単独の調査については専門性や国、県との整合性、費用の面からも困難であり、町としては新たなシミュレーション調査が早期に実施されるように県に働きかけていきたい。その上で、防災マップや広報誌などを活用しながら、皆さんにも分かりやすいような形で、想定結果をお知らせしたい。

なお、津波時の避難については、とにかく海岸からできるだけ遠く、高い所へ逃げるのが基本であり、万一の際に円滑に避難するためには、やはり日頃からの訓練や、家庭・地域における話し合いが大切だと考えている。町では、地域の自主防災会が主体となった防災訓練などに対しても補助しており、今年度からは、新たに集落単位での訓練に対しても支援枠を拡充した。特に、津波時の避難は時間の余裕がないことから、皆さんには、地震イコール津波という意識を再確認していただき、揺れが収まったらすぐに避難することをお願いしたい。例えば車での避難ということも考えられるので、地域全体が一斉に車で避難した場合どうなるのか実践してみるのも有効だと思う。皆さんの理解と協力をお願いしたい。

（３）空き家対策について

☆住民

現状として、空き家の老朽化で周辺環境に悪影響が出てきている。また、火災発生時に類焼するという意味でも悪影響が考えられるし、不審者などのたまり場になることもあると思う。空き家の敷地の雑草や、やぶ蚊等の発生で環境が悪くなる一方である。そこで今年の春、町から空き家調査の依頼を受けて書類を提出したが、その内容を基に町が今後どのような施策につなげていくか、具体的に聞かせてもらいたい。また、空き家に対して町で条例を制定し、法的に空き家を管理することはできないのか。草刈り等は自治会で世話することもあるが、その場合は親族等の許可も必要になる。このような連絡は誰がするのか。なかなか近所の住民でも分からないことが多いので、そのような対応についても聞きたい。

★建設下水道課長

空き家対策について、少子高齢化を伴う人口減少の進展により、全国的に空き家が増加しており大きな社会問題となっている。町においても、空き家の増加傾向は似たような状況だと思っている。そこで今年度、中心市街地と既存の密集集落、上原地区だと吉原地区を対象に空き家実態調査を実施した。調査にあたっては、地区の役員の皆さんにも協力いただいた。今回の調査は、外側から空き家の状態を見て、専門家によって判定していく調査であり、空き家の中までは調査していない。危険度によりレベル1～4までの分類を行い、戸別の空き家カルテや情報を落としこんだ地図を作成していく作業を行っている。

今回の調査対象は、入善町全体の戸数の3分の1程度だが、空き家は310戸、空き家率としては約11%であった。同時に空き地の数も調査しており、空き地は241件であった。先ほど述べたレベル1～4までの分類については、今後有効に活用できそうなレベル1～2の空き家が約8割だった。速やかに対応が必要な空き家は13件、約4%であった。これらの調査結果を踏まえ、優良な空き家に関しては定住促進や地域力向上を図るための積極的な活用を促す施策を検討するとともに、皆さんが最も心配される危険老朽家屋については、その解消を図るための条例の制定などを速やかに進めたい。あくまで個人財産なので行政が手を出しにくい状況だが、条例という形で町がルール化してその対策に当たりたい。

次に、空き家周辺の雑草や、やぶ蚊の発生など、空き家の管理については、危険老朽家屋の問題と並んで重要な課題であると考えている。周辺環境を含む空き家等を適正に管理することは、住まいとしての価値を保つばかりでなく、周辺環境への配慮にもつながる。他市町村の事例では、民間業者やシルバー人材センターなどと空き家管理について協力・連携して、空き家所有者にサービスを促す事業を行っているところもある。町としても民間業者の協力を得て、自分では管理できない空き家所有者に対して、相談できる体制ができないか検討していきたい。空き家対策は地域と町の情報共有などが重要であり、利活用の面や危険空き家の対策に対する、地域との連携のあり方を相談しながら検討していきたい。

さらに、空き家バンクについても充実を図っていききたいと考えているが、空き家バンクの登録件数はまだまだ少なく、需要に応えられない現状にある。皆さんにも空き家所有者に対して登録を促していただくなど、協力をお願いしたい。

（４）上野吉原線の整備について

☆住民

交通安全対策、具体的には、国道8号からJR北陸線を縦断する都市計画道路の上野吉原線の計画がどこまでどのように進捗されているのか聞きたい。これに関しては以前からの要望でもあるが、南北のアクセスが確保されていない。それによって、緊急自動車の通行にも支障が出てくる。また、避難道路としても有効な道路として間違いなく必要だと考える。また、日常生活において、地域住民も多分なる不便を感じている。田中踏切は、駅の構内でもあり、列車が通るとき長い場合は5～6分待たされることが多々ある。そういうことも含めて、真っ直ぐに通り返けられる国道8号までの道路が大切である。

★建設下水道課長

上野吉原線の整備については、町としても入善駅北側の企業活動、ＪＲ北側地域の利便性の向上、避難道路的な意味合いなど、重要性を十分認識している。計画では、国道８号から海側に向かい、ＪＲを越えて県道吉原入善線につながる部分まで全部で約２,０００ｍある。国道８号から県道上飯野入善停車場線までの約６００ｍについては、平成２５年３月末で整備を終え供用開始した。残っているのはそこから北側約１,４００ｍで、県道魚津生地入善線とＪＲ横断が残っている。現在の状況は、県道との交差点、サークルＫのある農道との交差点だが、その交差点処理をどうするかと、ＪＲ横断をどうするかがネックになっている。サークルＫからＪＲまでの距離があまりにも短く、短い距離でＪＲを越えることが課題になっている。町川もあるのでそれをどうするか、湾岸道路ということで海側の横道との関連性、整合性など、いろいろなことが絡んでおり、県都市計画課やＪＲと協議を進めているところだが、様々な課題について現在検討を重ねている状況である。ただ、県の協力も得ながら引き続き協議を進め、速やかな事業着手を目指していきたいと考えており、理解と協力をお願いしたい。

（５）少子化対策について

☆住民

少子化対策について、地域で子供の顔がほとんど見られず、地域の祭りや伝統行事、運動会などに支障をきたすほどになっている。少子化の一因としては結婚しない若者が多い、また若者の働く場所が少ないことが挙げられる。県外の大学を卒業してもふるさとに帰ってこず、若者のＵターンや定住促進が課題と思う。若者にとって魅力あるまちづくりが必要であり、そのために若者向けの住宅提供や企業誘致など、若者が働きやすい環境づくりが必要だと考える。さらに、婚活の観点からも若者の交流の場が少ないことに対して、町の積極的な取組みに期待したい。これらの課題への具体的施策について聞かせていただきたい。

★農水商工課長

働く場の確保、企業誘致については、先ほど町長が述べた所信に尽きるかと思うが、若い人をはじめとした町民の働く場を確保していくことで、人口増加や定住化を図り、地域経済の活性化、町税収入の増加、町のイメージアップにつなげるため、これまでも積極的な企業誘致活動に取り組んでいる。企業誘致については、県の協力がないとなかなかできない。県とも連携を密にしながら、県内外を問わずきめ細やかな企業訪問を行っており、災害の少なさや豊富な水、強固な地盤など、町に立地することの利点や町が持つ魅力などをアピールしながら、優良企業の誘致活動を進めている。近年では、平成１８年に株式会社サンリッツ、平成２１年には株式会社ウーケが新規に立地し、多くの町民の雇用に貢献していただいている。

今後も引き続き、県と情報交換しながら、積極的に企業誘致に努めていきたい。そのため、今年の１０月に企業誘致の特命担当を設置したところであり、今後も今まで以上に積極的に企業誘致に取り組んでいく。また企業の新規立地だけではなく、既存企業の設備投資に対する助成や、中小企業に対する支援なども着実にを行いながら、町民の雇用を守ることで、人口の流出防止、定住化の促進に努めていきたい。

★建設下水道課長

若者に対する空き家の積極的な活用について、空き家対策は、環境や福祉、税、産業など様々な視点からの検討が必要であり、役場内の関係部署からなる検討委員会の立ち上げを検討していきたい。空き家の利活用については、若者への住宅の供給といった可能性も十分にあると考えており、空き家バンク登録事業なども含めて検討を進めていきたい。

★健康福祉課長

婚活につながる若者の交流の場については、今後、商工会や民間企業とも協力しながら、まちコンや婚活パーティーといった、少しでも多くの方に出会いの場を提供できるようなイベントを積極的に行いたいと考えている。町においても、少子化・人口減対策が大きな課題となっている。その要因の一つである未婚化・晩婚化への対策として、結婚を促す世話人、結婚を支援する制度が必要であると考えている。現在、出会いのチャンスをサポートする結婚相談員制度の創設に向けて、町の地域性、独自性なども考慮しながら検討している。このような取組みを先行し、効果を上げている事例なども研究しながら、JAみな穂の結婚相談員の皆さんなどとも連携をとり、結婚を希望する男女を支援するための体制づくりを早急に進めたいと考えている。

（6）子育て支援について

☆住民

現在、女性の就業率が高く、共働きが多い入善町にあって、保護者の勤務形態は多様化しており、核家族化も進展している。土日祝日でも勤務しなければいけないことがあり、子供を預ける場所がなく苦労している夫婦も少なくない。このような時、町にはどのような支援制度があるのか。また、ファミリーサポートセンターの利用についても、町民にもっとPRして周知を図ってほしい。また、平成27年4月から上原、青木保育所が統合し新しくスタートするが、建築が進むにつれ、地域住民の期待が高まりつつある。延長保育、待機児童、駐車場など、新しい保育所の対応について聞きたい。

★健康福祉課長

雇用形態の多様化と保育支援について、町では現在、土曜日については、すべての保育所で保育業務を行っているが、日曜や祝日の休日保育については実施していない。今後も保育体制の充実に向けて検討していきたい。現状では、町社会福祉協議会が行っているファミリーサポートセンターを利用していきたい。また、ファミリーサポートなど子育て支援のPRについては、町では「子育てナビ」という町の子育て支援情報をまとめたパンフレットを作成し、出生時や1歳半健診時に配布しており、各窓口にも配置している。また、広報や町ホームページ、ケーブルテレビなどを活用し、適宜子育て支援情報の案内を行っている。年々多様化している子育て支援情報を、子育て世代に普及が著しいスマートフォンなど個人端末を用いて、必要な時に欲しい情報が入手できる環境整備も必要と考えている。現在、町では町社会福祉協議会と協力して、子育て支援総合情報サイトを作成しているところで、今年度内の公開を目指して準備を進めている。今後も関係機関と連携・協力して、子育て支援

〔 2.上原地区 〕

情報のPRに努めていきたい。

次に、来年4月から開所する上原・青木統合保育所について、現在建設中の統合保育所は、木を身近に感じることができ、明るく温もりのある保育所をコンセプトに、構造の木造部をできるだけ目に触れるようにし、その60%以上の木材に県産材の杉を用いた造りにしている。また、保育室を東面に配置することにより、立山連峰のパノラマビューを得るとともに、朝日が差し込む、明るく暖かな保育室となるように配慮している。加えて、暖房器具に町内保育所では初めて、蓄熱式暖房機を用いたことにより、冬場でも朝1番から暖房機から漏れる熱により、ほんわりと温もりのある保育所になるように工夫している。床面積は984平方メートルで、定員は140人と入善町では一番大きな保育所となる。また、駐車場も73台分を確保している。

保育内容については、開所時間は朝7時から夜7時まで、今の上原保育所と同じ時間帯となる。また、土曜日については、現在は半日保育だが、4月からは一日保育に変更となる。この統合保育所の名称を年末年始に公募したいと考えている。詳しくは、広報の12月号やケーブルテレビ、ホームページで案内するので、ぜひお願いしたい。

（7）地域の活性化について

☆住民

のらんマイ・カーの有効活用について、利用者、特に高齢者にとっては、まだまだ不便である。運行本数の増加や、タクシーなどを活用した運行に取り組むなど、さらなる利便性の向上をお願いしたい。

次に、女性の積極的な地域活動への参加について、各地区で婦人会組織がなくなり、地域行事の継続に懸念が感じられるとともに、地域力の低下が心配される。一方、高齢化が進む中、地域活動には一層の女性のパワーが不可欠である。また、国や県などでは、役職への女性登用を30%以上にすると目標を掲げている。地域にあっても、例えば自治会の区長、副区長、各種団体長に女性の登用が必要だと考える。町と地域で女性の地域活動参加について、どのように取り組んでいくべきか、町の考えを聞かせていただきたい。

最後に、このようなまちづくり懇談会が開催されてから18年経過とのことである。地域住民と町との有意義な懇談会の場であり、地元の提案や要望が行政に反映され、実行された例がこれまでいくつもあったと思うが、過去5年間の概ねの実行数について聞かせいただきたい。また、今後継続するにあたり、マンネリ化を避ける工夫があってもよい。例えば、協議の内容を町全体で統一して提案、要望するのはどうか。住民誰でも参加しやすい開催内容になるよう、見直しを要望する。

★農水商工課長

町営バスについては、町民の皆さんの利便性向上の要望が多く、それまで1台だったのが平成23年度から3台体制での運行に移行した。その後何度か見直しを行い、現在のルートで運行している。利用状況については、1台体制だった平成22年度は年間利用者が19,700人程度だったものが、平成25年度は、33,200人程度になっている。今年度は9月までの半年間で、すでに19,200人で、利用は伸びている。現在のバス路線は、町民の生活を支える足と

して、各地域と利用の多い商店街やショッピングセンター、医療機関、駅、ふれあい温泉などを結んだ運行ルートに設定したことから、利用者が増えてきたものと考えている。

しかし、今後のさらなる高齢化社会を考えると、バスの役割はますます重要になってくると考えている。町長も所信で述べたように、現在、より利用しやすくなるよう、小型のタクシー車両などを利用して予約に応じて自宅から目的地まで複数の人が乗り合う新たな交通システム、いわゆるデマンド交通の導入も視野に入れた見直しを進めている。また、北陸新幹線開業ということで、新幹線駅から入善に直接乗り入れてくる交通手段が現在ない。ビジネスや観光のため、新幹線を利用して入善を訪れる方が、短時間で入善に来ることができるよう、新幹線駅と入善を結ぶ路線もあわせて検討を進めている。

★教育委員会事務局長

地域づくり、地域行事等の実施に女性が果たす役割は大きく、婦人会の解散という事態に困惑されるのも無理はない。町の総合計画では、審議会等の女性委員の割合を、平成 32 年度までに 32%まで引き上げることを目標としているが、昨年度末現在では 28.5%である。また、区長においては、現在、町内に 131 人の区長がいるが全員男性である。昨年度末現在で、近隣の朝日町、黒部市、魚津市の調査をしたが、朝日と黒部は同じようにゼロで、魚津市では 50 人ほどの区長の中に 1 人だけ女性の区長がいる。上市町は非常に女性の登用率が高いと言われているが、区長に限ってみると 117 人のうち女性は 4 人で、3 %程度である。各種団体でも、女性団体を除けば男性のリーダーがほとんどという状況である。固定的な性別分担意識が昔から根付いていると想像されるが、私たち自身の意識を変えていくにはかなりの時間がかかると思っている。

町では、男女共同参画フォーラムという啓発講演会の実施や、女性リーダーの養成の一環として、14 人の女性議員による女性議会を実施している。また、各地区に 2 人の男女共同参画推進員を委嘱し、各地区で男女共同参画推進地域会議等を企画運営してもらっている。これまで女性は、婦人会という組織の一員として各地区の運営に参加していたが、これが解散し、今後は婦人会に変わる組織の一員または個人で参加することになる。こういうことが登用されにくくなる要因だと思う。まずは地元で女性の力がなくてはならないということを、男性も女性も共通認識し、皆さんで話し合っていただくことが重要ではないかと思っている。

★企画財政課長

まちづくり懇談会での過去 5 年間の要望に対する実行状況はどうかということで、いくつか説明すると、平成 22 年に防犯パトロール隊の強化をということで、補助金の見直しをしてきた。また、平成 24 年のカラス対策については、策を講じているにもかかわらず、なかなか効果が上がらないのが現状である。平成 23 年には学童保育に関する要望があり、時間はかかったが昨年 9 月から実施させていただいた。地域の方には、その運営に際して協力をいただいております。また、昨年は、10 年来の要望である信号機の設置について、直接県警に要望を行った。県内で 100 箇所以上の要望があるが、年間 10 箇所程度の予算しかないと言われ、なかなか難しいかと思っていたが、今回実現することになったと聞いている。できるものはできるだけ早くやるし、できないものはできない。また、県や国などの機関がや

〔 2.上原地区 〕

っていることは、町長をはじめ強く要望していきたいということをご理解いただきたい。

また、まちづくり懇談会のあり方について、町全体で、統一テーマで開催したらどうか、誰もが参加しやすいようにとの意見については、一例を言うと、黒部市は年1回、タウンミーティングという形で1つのテーマを決めて、皆さんが集まって意見を聞かせてくださいというやり方をしている。また、朝日町では希望する団体について、直接町長や職員が出向いてやっている方法もある。どちらがよいとも言えないが、このまちづくり懇談会は、古くは町政懇談会、町長と語る会ということで30年以上の歴史がある。どうやって皆さんからのご提案、ご意見を吸い上げるか私たちも苦労している。ホームページに提案箱を設けたこともあったが、少し問題があった。そこで現在、町のホームページとタイアップしたフェイスブック対応を試験的にやっている。犯罪情報等もこのフェイスブック等で流していきたいと思っている。また、逆にフェイスブックで皆さんからのご意見を伺うこともできる。1回ですぐに対応できる訳ではないが、その中から意見を聴取していきたい。まずは、このまちづくり懇談会だけではなく、いろいろな形で皆さんからの意見を吸い上げていきたい。またこうやったらどうかなど提案があれば、聞かせていただきたい。

（8）その他

☆住民

道路のアンダーに関連する話だか、いつも思うのは、極端なことを言うと事故が起きないと信号が付かない。例を挙げると、サンリッツへ行く通路を作ったが、学童が通う道路との交差点は危険で、新しく作ったところだけが一旦停止で、学童が通る道は狭いけど優先だった。途中で4つとも一旦停止にと意見を言ったのだが、会社ができて機械が稼動するまでに7回の接触事故が起きた。会社ではセーフティアセスメントと言うが、誰が見ても危険だということを前提に調査などをやるべきではないか。

★総務課長

何かないと信号機は付かないのではと言われるが、交差点などは私たちでは管理できない。公安委員会の方で一旦停止などいろいろなものが決まってくる。こちらから要望はするが、権限は公安委員会にある。何かあってからでは遅いのだが、今日の意見も踏まえてなるべく早く対応するように、いろいろな手法を検討したい。

【2】懇 談 会

3. 青木地区

開催日：平成 26 年 11 月 7 日(金)

会 場：働く婦人の家

町長あいさつ

「もっといい街、住みよい入善」を目指して

★町長

入善地区参照

議題 「青木地区設定のテーマ」

（１）今後の農業について

☆住民

今後の農業政策へのビジョン、政策や展望を具体的にお聞きしたい。また大規模農業の推進や小規模農家や新規就農者への対応などを含めて、町の考えをお聞きしたい。

★農水商工課長

入善町の農業は、広大な扇状地と豊富な水資源を活かした稲作が柱である。また、近年の転作においては従来大豆や麦に加えて、備蓄米や新規需要米への取組みも進めているところで、稲作を主流とする農業経営は今後も続いていくと思われる。農業政策の改革や米価の下落など、米を取り巻く環境は厳しいものとなっているが、その中でも希望を持って農業経営ができるように、しっかりとした支援を行っていく必要がある。持続可能な農業経営には、売れる米づくりが必要不可欠だと考えており、そのためには、販売促進対策とあわせて、米の品質と食味の向上を図ることによって、地域間競争を勝ち抜いていくことができるのではないかと考えている。優良米の生産と一層のブランド化を図っていくことで、今後も持続可能な経営を推進していきたい。また、農作物に対する高付加価値化として、六次産業化も有効な手段であり、国、県、ＪＡ、商工会などあらゆる関係機関と連携を強化して、高付加価値を付ける取組みを支援していきたい。

近年の経営形態は、担い手への集約化とそれに伴う大規模化が進んでいる。大規模化によるコスト削減と効率化、農地の集積による農業経営基盤の強化については、足腰の強い農業を進めるためにも、町としても今後も支援していくことが重要だと考えている。一方で、規模に関わらずやる気のある農業者への支援も、後継者の育成のために重要である。新たに就農する場合に必要な農地の確保に対して、町はＪＡと共に平成 15 年度から農業公社を立ち上げ、農地の流動化を推進してきた。現在、県内でもトップクラスの流動化率となっていて、新たに設立された農地中間管理機構、これは先日、青木地区でも説明会を開催したが、機構とも連携しながら農地の集積や相談に対応できる体制になっている。

（２）のらんマイ・カーの運行について

☆住民

のらんマイ・カーについて、運転のできない高齢者には大変喜ばれているが、バスの停留所のない地区もある。路線の見直し予定がないのか聞きたい。

★農水商工課長

町営バスについては、平成 11 年の運行開始から 1 台体制で運行してきたが、平成 23 年に 3 台体制にして一部見直しをしながら、現在のルートになっている。利用状況は、1 台体制だった平成 22 年度は年間利用者が約 19,700 人、昨年度は約 33,200 人となっている。本年度は 9 月までの半年間で約 19,200 人であり、1 年間だと相当増えると考えており、利用者は増加している。現在のバス路線については、町民の日常生活を支える足として、ニーズの高いショッピングセンターや医療機関をつなぎながらやっている。しかし、3 台のバスで町内全域全てを網羅するのは、扇状地という地形もあり非常に難しい。路線がないとかバス停が近くにないとか、いわゆる交通空白地域が現実に存在しているのは重々承知している。

今後の高齢化社会においては、町営バスの果たす役割はますます重要になると思われる。そのため、町営バスについては、現在、町民が等しく利用できるような小型タクシー車両などを利用して、予約に応じて自宅から目的地まで複数の人が乗り合う新たな交通システムである、いわゆるデマンド交通の導入も視野に入れた見直しを進めている。この見直しを通して、さらに利用しやすい公共交通としていきたい。

☆住民

利用者数が 20,000 から 30,000 という数字には、とても驚いた。私の家は旧国道沿いにあり毎日バスを眺めているが、10 回通ってもゼロ、15 回通っても誰も乗っていないのが非常に目立つ。入善町のバスに対する収支はどれぐらいなのか。

★農水商工課長

よく空気を運んでいるとご指摘は受けている。利用についても、利用される路線とそうではない路線が少し偏っている。収支については、経費からいろいろな歳入、利用料や運賃などを差し引いた町の持ち出し分は、年間約 3,200 万円というのが現状である。

（3）青木保育所跡地の利用について

☆住民

青木保育所が来春閉鎖となる。この働く婦人の家も老朽化しつつある。中期的に大改造も含めて計画はないか。また、防災避難施設の充実、働く婦人の家の駐車場、青木地区の除雪車の車庫、資源再生広場などいろいろな活用があると思う。町として具体的な計画はあるのか聞かせていただきたい。

★健康福祉課長

青木保育所については、青木、上原両地区の統合保育所の整備に伴い、来年 3 月をもって閉所となるが、建物については、築後 30 年以上経過し、老朽化が著しいことから、町としては再利用の予定はなく、取壊しを行いたい。解体後の跡地利用については現段階で未定であり、地区の皆さんの意見を十分に伺いながら検討していきたい。

〔 3. 青木地区 〕

☆住民

跡地の利用は分からないと言われるが、私たち団塊の世代が、万が一認知症などになってデイサービスなどを利用するようになるときに備え、それを残しておいてもらって、私たちが 10 年後に使えるように、また再利用するということは考えられないか。壊すのはもったいない。

★企画財政課長

青木保育所の実態として、雨漏りなどそれなりに補修をしながら維持してきた。30 年以上経過している鉄筋の建物であり、これからの維持管理には相当な費用が必要となる。例えば、取壊した後にそういう意見があれば、そういう施設の整備も考えていかななくてはいけないと思っている。地域の皆さんで跡地利用を考えていただきたい。

☆住民

今、飯野や横山、舟見など公民館ばかり建てているが、必要なのか。青木保育所は 30 年経っているから壊すというのなら、まるでどこでも壊していかないといけない。もっと再利用を検討していかななくてはいけない。ただ要望して建ててもらえるのなら、町民の負担は膨大になる。そういうことについて、町長の意見を聞かせてほしい。

★町長

各地区には地区公民館があり、それぞれ地域のコミュニティの醸成に努めている。町内 10 地区の中で舟見、野中、飯野、横山の 4 地区の公民館だけが耐震構造になっていなかった。それぞれの地区の避難場所、何かあったときの中心的な立場になる施設が、耐震の基準を満たしていないということはいかななものかということを含めて、青木保育所も同様ですが、30 年、40 年近い建物になっていることもあり、老朽化もあって順次建て替えながら、災害発生時の対応としての避難場所や地域の皆さんの生涯学習、地域コミュニティの中心的な施設ということで、順次整備していることをご理解いただきたい。なお、青木保育所についても、平屋なので耐震ということに直接的な関係はないにしても、災害時のことも含めて考えていかなければいけない。また、地震発生時の状況を含めて考えていかなければいけないとも思っており、青木地区の皆さんの意向を踏まえながら、どうあるべきか検討していきたい。

☆住民

今年、来年に成果が期待されるような、あるいはしてほしいような意見ですが、少子化という問題を考えると大変な問題だな、手の付けようもないなと思っている。少子化は 50 年くらいかけて今の状態に変化してきた。私は昭和 10 年生まれだが、当時と比較して子供がおおよそ 4 分の 1 になっている。これを簡単に直せるのか考えてみても、簡単にはいかないと思う。また、なぜ子供を産まないのかについては、晩婚や結婚率が下がってきたとか、子供を育てる苦勞をしたくないとか、核家族化が進み子供を見てくれる人が少なくなったなど、昔に比べて子供を育てる人の考え方が変わってきていると感じている。私は子供が 4 人いるが、そのうちの 1 人にこの問題をどう思うか聞いてみたところ、あんまり苦勞したくない、子供を育てる自信がないと言っていた。50 年かけて変化してきた問題だから、やはりこの問題を解

決するには、また 50 年かかるつもりで進めていかなければいけないのではないかな。そういう面で、日本のどこかに見識のある方がいれば、そういう人を探して、その方の意見を研究していく必要があるのではないかな。そして、町の施策の中に少しでも活かしていただきたい。

また、昔とどこが違うか考えてみたが、核家族が昔はあまりなかった。核家族化が少子化につながっていく悪い面ではないかな。祖父母にも手伝ってもらうとか、子育てに自信がないなら教えてもらうとか、三世代化をより推進する。入善町は他に比べてあまり三世代化が進んでないと聞いているが、三世代での子育てをもっと啓蒙して、10 年、20 年の間に少子化の流れを少しでも止め、少しでも改善するように持っていく。あるいは、社会で育てるのは、それはそれで必要だが、それだけで全てがうまくいく訳ではないと思うので、よく考えて研究していただきたい。

★町長

貴重な意見ありがとうございます。長年にわたって少子化が進んできている経緯について、そのとおりだと思う。特に近年は、晩婚化、未婚化、自分たちの生活の関係、核家族化の関係も含めていろいろな要因が積み重なってきた結果、このようになってきている。国もようやく地方創生という中で少子化対策、子育て支援にも積極的に取り組むようになってきているが、やはりその最前線に立つのが町だろうと思う。私たちがその気になってやらなければ、いくら国が動いてもなかなか思うようにいかない。大きな数値を期待するのは難しいが、やはりその先頭に立ってやるのが町だと思っている。いろいろな面で皆さんのお力をいただきたい。

それと、町の施策の中には、今言われた三世代について、近居、同居に対する支援策も講じている。先般もあるところで話を聞かせていただいたが、やはり三世代同居の家庭が多い地域ほど、子供が生まれる数が多いという話もデータの的にあると聞いており、やはり願わくは三世代の家庭が少しでも多くなるように、そして、そういう家庭の中で祖父母に子供を見てもらう、そして将来的には、祖父母の面倒を見ていくような家庭が少しでも多くなるように、三世代同居に関する施策を盛り込んで、もっと内容を強化させて進めていきたい。

☆住民

保育所の跡地利用について、地区の方から建物をそのままにしておいて再利用してはという話が出た。建物を持っていればお金がかかるから即壊し、公園にしてはという話もあるが、最近の若い人たちは公園管理、木の管理などが全然ダメなので、とにかく手のかかるものは一切やめ、一番手っ取り早いアスファルトにして、駐車場にしてはどうか。

★町長

いろいろな意見が出ているが、町としての考えは今のところないので、このあと時間をかけて地域の皆さんで相談していただきたい。活用するということであれば、少し手を加える必要があるし、公園や駐車場にしてもそれなりに経費はかかるわけだが、ここは青木地区の中心的な場所でもあり、ぜひ皆さんで議論していただき、より良い方向性を打ち出していければ、町もそれに対する検討をしていきたい。

（４）地区における一戸あたりの格差について

☆住民

世帯数の少ない地区の悩みであるが、地区に割り当てられる役員の負担が大きく、格差を是正する方法、他地区の参考などあれば聞かせていただきたい。

★総務課長

各地区の区長には個々の配布物などご苦勞をおかけし、この場を借りてお礼申し上げる。今の時期になると地区の役員の入れ替えがあり、だんだん役員の交代がくる。少子高齢化や核家族化、生活様式の変化など地区によって全然違うが、徐々に人間関係が希薄化してきて、地域コミュニティの弱体化が懸念されている。町においても、地域住民の高齢化やアパートの増加に伴い、区長など役員の担い手不足や役員の負担増など、環境は厳しさを増している。

一方、町では、住民参加による支え合いのまちづくりを推進しており、地域コミュニティの活動を活性化させ、今後ますますその重要性を高めていくことが必要だと考えている。そこで町では、地域コミュニティの抱える課題や地区の将来などについて、地区の住民自らが考えるきっかけをつくり、コミュニティの活性化を図ることを目的とした、地域コミュニティ・パートナーシップ構築事業を推進している。青木地区においても昨年度から取り組んでおり、地区の住民自らがその地区の実情にあった地域コミュニティのあり方や役割などについて検討していただいている。地域内の役員負担の格差是正のためにも、ぜひこの事業を活用して地域内で問題を共有し、役員などに負担がかからないような行事のあり方や、地区のコミュニティ組織の見直しや再編を図るなど、問題解決に向けて話し合っていたきたい。

（５）その他

☆住民

先ほどからいろいろな話が出たが、焦点は１つしかないと思っている。笹島町長が皆さんから大変期待されているが、何が期待されているかというと、入善町を変えてくれるのではないかと、その１点で皆さんが期待している。その成果が見えてくるかどうかは、短期間に見えてくるような気がしている。最大のテーマは人口減少であり、焦点の全てはそこにある。笹島町長の成果が早速出たが、今月の広報 11 月号に、ストップ人口減少と大々的に 1 ページに掲げられた。入善町の指導者の中で、人口減少という言葉、危機感を持って表現したのは、笹島町長が初めてだと思う。人口減少について説明された方はいるが、まあまあこれで大丈夫だよという言い方しかあり得なかった。全て人口減少という１点に絞って皆さんと問題意識を共有しない限り、何一つ解決しないし、入善町は間違いなく消滅する。

25,848 人という数字をご存知ですか。先ほど役場で聞いてきた入善町の人口である。先ほど町長が 26,200 人と言ったのは、9 月末現在はそう表現されているが、それから何人かは 1 ヶ月で減少した。また、外国人が 331 人いる。したがって、もうとっくに 25,000 人台に入っている。毎年 350 人くらいずつ減っているんで、10 年後には 23,000 人を切る。これが行政にとってどんな意味を持つかは、おそらく行政関係者は皆さんご存知のはず。しかも、このときに老人がぐっと増え、おそらく半分になるのではないかな。現在も、60 歳以上だけを考えると 40%、高齢化率は 65 歳から数えるので、現在 32%くらいだと思う。

先ほど町長が少し触れたが、全国の 1,750 の自治体の中で、900 が危ないと言われ、そのうち 25 年後には 500 の自治体が消えると言われている。幸いにして入善町の名前は挙がっていないが、ギリギリのところにいるのは確かである。これは、全国の地域が戦争状態にあるということである。生き残りをかけて戦争しているという自覚が、入善町の皆さんにあるかどうか。先ほどの、のらんマイ・カーや保育所の跡地の話は、申し訳ないが能天気な話としか言いようがない。おそらく農業の問題にしても、地域の役員の担い手がないという話も、原因は全部人口減少で、若い人が極端に減っているからである。減り始めたのは 20 年前くらいだが、平成 19、20 年あたりから激減し始めた。つい最近の話だが、このまま進行すると入善町は消滅してしまう。

消滅の定義には 2 つあり、1 つは高齢者が 50% を超えることで、自治能力がなくなると言われている。もう 1 つは、皆さんが役場を頼らなくなってしまうこと。若い人はすでに頼っていないのではないか。だからこそ、町外や県外に出ようとする。今から 40 年前は 460 人生まれていたが、現在は 150 人以下。そうすると中学校が 1 つ、小学校は 2 つ 3 つで十分ではないか。そして、それに関する産業はほぼダメになり、ほぼ生活ができない状態になってしまう。制服を買うにしても、教科書を買うにしても。もちろん教育の中身の問題もある。私は、これについては、今までの入善町の指導者全員に責任があると思っている。9 月の定例会を聞いたが、議会も能天気に誰もそのことに触れていない。そこで 3 つ提案したい。

第 1 の提案、保育所は即刻無料化してほしい。小学校や中学校は無料なのに、なぜ保育所は有料なのか。先ほど誰か言ったが、結婚、出産、育児、家庭内介護、地域教育、これは 80 代、70 代、60 代、もしかしたら 50 代も含めて、考えていることは今全く通用しないし、現実が違う。だとすれば、三世代で協力などできない。保育所は全員受入れとし、24 時間体制を作る。もう 1 つは、いい保育をする。そうしなければ入善町は生き残れないというのが、私の最大の提案である。これについては何が何でもやってほしい。この後は、学童保育、進学、県外へ行って就職、あるいは入善町に帰ってきて定住して、結婚、出産、育児とつながっていけば理想的である。そのためにどうすればいいのか、1 つの根幹として第 1 の提案として申し上げたい。保育所無料化いかがですか。財源の問題とか今までの事例がないとかは、参考にならない。財源があるからあんなに立派な保育所を作っているではないか。保育所の無料化はできない相談ではないと思う。

★企画財政課長

保育料の無料化というのは、当然政治的判断であり、行政をどうやっていくかという部分だと思う。先に、政府が子ども子育て支援法を作る時に、有識者懇談会の中で保育料無料化という意見も出たそうである。それが少子化に対する特効薬や即効薬になるかは難しい面もあるが、その意見も取り入れながら、いきなり来年から無料化は難しいが、町長も第 1 段階として第 3 子から無料化と言っており、子育て支援に対しては力を注いで行くと言っている。

☆住民

2 つ目の提案をしたい。人口を増やすために U ターン、I ターンを推進してほしい。入善町には若い者の居場所がない。中学を卒業したら入善高校しかない。それ以外の人は町外に

〔 3. 青木地区 〕

行ってしまう。その後、富山や県外に行ったりして帰ってこない。理由は、入善は魅力がないからである。皆さんが働く場所がないと言うが、働く場所はいっぱいある。外国人をいっぱい雇っている会社がある。あれは働く場所があるからではないか。なぜそうなったかという、ミスマッチだからであり、行政が間違ったからである。実は、人が来る場所にはIターン、Uターンはある。入善町は魅力があるはず。魅力のないところには人は集まってこない。魅力があるように作るのが行政の仕事であり、町民の仕事だと私は思っている。ズバリ言えば、観光の問題である。観光というものは、入善町には一つもないのではないか。観光らしいことを何かやっているのか。観光とは何だと思うか。Uターン、Iターンできないのは、要するに魅力ある人たちが集まってこないし、入善町そのものを活性化することができなかった。そこで3つ提案したい。

1つ目、Uターン、Iターンを進めるために、入善町を徹底的に分析してほしい。そして表現してほしい。2つ目、今時うまいことすれば世界につながる。いわゆるITである。パソコン、スマートフォンを使えば全世界につながる。あるいは、外国語を使えばみんなつながる。これは難しいことかもしれないが、入善町中の人に、ITや外国語などを役場が徹底的に仕込んでほしい。これは若い人しかできない。そういう意味でも人口構成の中で若い人は必要である。そして、もう1つは、大都市全部にアンテナショップを作ってはどうか。これは使い方によっては使い道があるが、人材には限りがあると思う。この3つの方法です。

もう1つ言うと、高齢者を使う方法はあると思う。長い間の経験を持っているからおもてなしの技術はあるし、皆さん大変お金持ちのようでもある。それを入善町発展のためにどう活用していただくか。

★企画財政課長

入善の魅力はどこにあるのかというのは、行政としてしっかり掘り下げていく必要があると思っている。観光資源とは、サイトシーイングだけが観光ではないと思っている。ITについても、ようやく11月からフェイスブックに取り組み始めた。まだ緒に就いたばかりということでご理解いただきたい。アンテナショップなどいろいろ意見をいただいたが、私たちもしっかりと入善町の魅力を、観光という面だけではないが、掘り下げていく必要があると思っている。ただ、私たちも何もしなかった訳でもないで、フェイスブックでご意見をいただけるようにしてあるので、またそちらも見ていただきたい。

☆住民

もう1つ、入善町のリーダーは間違いなく役場であり、役場の職員はもう少ししっかりしてほしい。自分たちが入善町民を率いていくのだというくらいの覚悟、人口減少は自分たちが直してみせるくらいのことを、是非やっていただきたい。役場の職員たちは今戦争が始まっている。その総大将が町長であり、その下で士官や下士官として働くのは役場の職員であり、情報を1番持っている。私たちも役場の職員に従いたいと思っている。だから町長には役場の職員を十分鍛え込んでほしい。何なら年功序列をやめたらどうか。また、町外者や県外者をたくさん職員にしたらどうか。さらに、仕事の査定をもう少し厳しくしたらどうか。

★町長

職員の資質向上を図っていくのは大事なことだと思っている。限られたメンバーの中で、あるいは限られた職員数の中でより良い行政をしたいという点においても、しっかりとした研修も積みながら、そして私たちが皆さんの先頭に立って進むのだという気持ちを強くしながら、今後のまちづくりに向っていきたいと思っている。

☆住民

まちづくり懇談会は、今までも何回もやっている。これは、いろいろな声を聞こうということで回っていると思うが、声を聞いて問題点が浮き彫りになり、次回までに解決しているかと言うとそうではない。それぞれの課の中で問題に対する知恵を出していると思うが、これでは絶対に問題解決はできない。プロジェクトチームを作るべきである。これは、外からの知恵も全部合わせて、例えば、最初の農業問題についてどうしようかとなると、それに関連した人や外の人も入れて、こういう問題があるけど大丈夫なのかとシミュレーションして、結果的には悪い方になるのではないかということも含めてやる。委員会と言ってもよい。ある市では、こういう委員会が 20 以上立ち上がっている。そこで予算付けもして、相当意見がまとまったものを議会にかけて、複数案の中からどれが町にとって良いのか検討できるような組織づくりをしながら進めていかないと、解決しない。例えば、農業の後継者をどうやって作るか、これは大変難しい問題だと思うが、それを J A などいろいろなところも含めてやっていただきたい。プロジェクトチームを作って推進していただきたい。

★企画財政課長

庁内でのプロジェクトチームは、先ほど町長が言ったように、少子化のためのセクションを作って少子化対策について今検討している。プロジェクトチームよりはどちらかといえばワーキングチームと言った方がよいかと思うが、これを踏まえて今度は対外的な、例えば結婚問題となれば J A や社会福祉協議会にもそういう活動をしている方がいるので、そういうことをすり合わせて、町長の指示の下で動いている。提言を十分に聞きながら、いろいろな課題について、職員だけではなく有識者や外から見た意見も大事だと思うので、そういう形で進めていきたい。笹島町長も当然そう指示している。

☆住民

学童保育について、指導員の給料がすごく安い。そして、やる人がいなくなっている。継続性を考えるときの身分保障などは、どう考えているのか。

★教育委員会事務局長

学童保育指導員の身分保障の話について、現在、指導員には時給という形で 850 円、町の臨時職員という位置付けで、学童の指導に当たってもらっている。いろいろな事故や災害となると保険も出てくるので、そういう形で指導員に学童の面倒を見てもらっている。

〔 3. 青木地区 〕

【2】懇 談 会

4. 飯野地区

開催日：平成 26 年 11 月 26 日(水)

会 場：農村環境改善センター

町長あいさつ

「もっといい街、住みよい入善」を目指して

★町長

入善地区参照

議題「飯野地区設定のテーマ」

（１）通学路の安全確保について

☆住民

国道８号から飯野小学校までの道路を、子供たちがもっと安全に通学できないか。具体的には、子供たちの安全確保のために、朝の通学の時間だけでも一方通行にできないか。

★建設下水道課長

県道小摺戸芦崎線の国道８号から小学校までは、人家が連坦していて道路幅も狭い。県入善土木事務所によると、道路拡幅や歩道の新設にあたっては、多額の用地補償費が必要になるため、困難だと聞いている。現状での交通安全対策については、野坂呉服店から山側へ約100mの横に用水路が流れていてとても危険なので、転落防護柵の設置を今年６月に農愛区長と町と一緒に要望活動してきた。その結果、県では来年１月末を目指して、転落防護柵の設置を行う予定と聞いている。また、今年の２月に要望した宮坪地内の一部区間の道路側溝の蓋の設置については、既に対応済みである。このように、同路線の改良や安全対策については、部分的ではあるが、県と連携を取りながら対応しているところで、今後の拡幅等に係る要望についても地権者の了解を含む地元の合意がまとまれば、町としても共に県へ要望していきたいと考えている。

★総務課主幹

県道小摺戸芦崎線の、国道８号から飯野小学校までの区間における通学時間帯の一方通行化については、県の公安委員会に対して時間帯を指定した一方通行の規制を要望することは可能である。しかし、時間帯指定をした一方通行の交通規制をした場合、当然だが区域内に住んでいる方が反対方向に行けないなど、いろいろな規制がかかる。そのため、地元の皆さんと十分に協議し、地元の総意として地区全体の合意を得られる状況が整えば、県道路管理者や県公安委員会へ、町としても働きかけていきたい。

☆住民

地域の皆さんの総意が得られれば、要望できるのか。

★町長

交通規制をかけると、逆に交通違反が出てくる可能性がある。そういったことを含めて検討してもらわないといけない。一方通行を逆走すると違反になるので、そういうことも含め

て、それでもよいとなれば、町としても積極的に県公安委員会に働きかけていきたい。

☆住民

地域の方はほぼ賛成しているが、ある地域だけが絶対嫌だという反対意見がある。

★町長

東狐から学校までの区間の問題は、今に出た話ではなく以前から出ている。もちろん地元の皆さんの同意は不可欠だが、それとあわせて、少しずつでもよいから拡張できるところ、また先ほど言いましたが、側溝に危険性がある蓋をすればよいというのがあれば、そういう要望も含めて、両面で安全対策を講じられればやっていきたい。地区の皆さんも、こういった問題について議論をしていただければありがたい。

（２）町道東狐五郎八線の拡張計画と農村環境改善センター跡地の整備計画について

☆住民

東狐五郎八線の拡張が予定されているが、拡張に伴い消防分団や保育所にも影響があると思われるが、どうするのか聞きたい。また、これまであったテニスコートや改善センター周辺の整備計画もお聞かせいただきたい。

★教育委員会事務局長

町道東狐五郎八線は、県道小摺戸芦崎線から県道高畠上飯野線までを東西につなぐ幹線道路であり、現在、拡張整備に向けて事業を進めている。また、道路沿線では、現在、仮称飯野地区交流・防災センターが、平成 27 年 3 月の完成を目指し工事を進めている。センター完成後には、この農村環境改善センターの取壊し及び跡地整備に着手したいと考えている。また、ご指摘のとおり、道路沿線には飯野保育所や消防分団屯所などの公共施設も存在しており、跡地利用を考える際には、周辺の公共施設の再配置についても検討していかなければならない。今後、地元の皆さんとも協議を進めていきたいと考えており、意見や要望のとりまとめなどご協力をお願いしたい。

★町長

これまで使われてきたテニスコートは、新しい交流・防災センター建設に伴い取壊しをしたところである。これまで以上のテニスコートの整備をする方向で調整していきたいと思っているので、よろしくをお願いしたい。

（３）津波対策について

☆住民

入善町では、7.5mの津波があるとニュースがあった。地図では芦崎保育所が避難場所になっているが、保育所の場合は標高が 1.8mしかないので、津波の場合どこに避難したらいいのか聞きたい。

もう 1 つ、現在、下飯野の踏切が工事中だが、ウーケから国道 8 号まで真っ直ぐに行く道

〔 4.飯野地区 〕

路について、去年も意見を述べたが、今、踏切を工事しているということは、ウーケからの道路の話は協議していないのか。

★総務課主幹

町長の所信にもあったとおり、先般、政府の調査検討会から、日本海側における新しい津波の推計が突然発表された。入善町では、津波の高さが最大で 7.5mになると発表されている。皆さんも新聞等でご覧になり大変驚かれたことと思うが、町としても同じく驚いている。ただ、今回の推計では、津波の高さが示されただけであり、具体的にどこで、どの位の浸水が想定されるのかなどの詳細が明らかになっていないことから、防波堤への影響等については、現段階では判断できない状況である。町としても、国や県に詳細な情報の提供を求めるとともに、新たなシミュレーション調査を早急に行うよう働きかけているところであり、今後これらの結果も見極めた上で、必要な対策を講じていきたいと考えている。

しかし、新たなシミュレーション結果が判明するまでには相当の時間がかかると予想されることから、それまでただ手をこまねいて待っているわけにもいかないので、今できることを着実に進めていかなければならないと考えている。例えば、地域における津波を想定した避難訓練の実施もその1つである。津波発生時には、とにかく海岸から遠く高い場所へ逃げるのが基本だが、飯野地区の海岸に近い地域は特に標高が低くなだらかなため、場合によっては飯野小学校付近まで避難が必要ではないかと考えている。したがって、先ほど言われた芦崎保育所は、津波の場合の避難所には適さないと考えている。

今回の推計では、津波到達までの時間的な余裕がないことも想定されている。通常避難には徒歩での避難が大原則だが、状況によっては車での避難もやむを得ない場合もあると考えている。車での避難となると、特に芦崎地区のように道路幅の狭い住宅密集地においては、渋滞による混乱なども考えられるので、実際に車で一斉に避難した場合どのような状況が起こるのか、訓練の中で体験しておくことも大きな意味があるのではないかと考えている。その上で、例えば車で避難する際の使用道路をあらかじめ班ごとに振り分けておくなど、地区内で必要な対策等を想定し訓練しておくことなども、今の段階でできる有効な手段の一つではないかと考えている。とにかく、一刻も早く高い場所に避難することが必要であり、そのためにどうすればいいか、日頃から各家庭で、そして地域で考え訓練しておいてほしい。なお、町では地区の自主防災会だけでなく、集落等を範囲とした自主的な防災訓練にも支援制度を設けているので、ぜひこの支援制度を活用され、集落ごとに防災訓練を実施していただきたい。

★建設下水道課長

ウーケから国道8号までの道路をいつ頃、どのように考えているのかという質問について、道路の話の前に、県道小摺戸芦崎線の下飯野踏切整備ということで、入善土木事務所で踏切の改良整備と県道の改良整備を今年度やっており、年度内で完了するというので進めていると聞いている。また、ウーケから国道に向っての道路改良の計画については、現在、平曾川国道線という幹線町道があり、日野自動車から下がってきて線路の手前で東に曲がって県道に取り付いている状況である。残るはJRをいかに横断していくか、平面交差なのか立体

交差なのかということで、幹線道路網の長期計画としては、平曾川国道線の J R 横断という計画はある。ただ、長期計画として平成 33 年以降と位置付けているが、J R をどのように超えていくか、また、J R と海側の県道との高低差が非常にあることから、例えば J R と県道を同時に跨いでいくという場合には相当な高架橋が必要になり、かなり高額のコストも必要になってくることから、じっくり検討していかななくてはならない問題だと考えている。

☆住民

昨年度、津波対策についてウーケの話が出て、総務課長が会社と相談して結論を出すと言われたが、その結果どうなったのか聞きたい。

★総務課主幹

津波に対する避難場所については、避難できる施設として構造が鉄骨だと津波のときには危ないため、避難場所としての指定は難しいと判断している。

☆住民

そういう結論が出たなら、広報に載せたりしてほしい。インターネットで調べたら、ここでやり取りした意見がほとんど反映されていないし、参加人数も少ない。例えば、世帯数は飯野地区に 1,563 軒あります。だが、一昨年に集まった人は 61 人。昨年は 62 人。区長会並びに行政が民意を反映させるために、どうしたら人が集まるか。7 時半に始めたら、サラリーマンなどは風呂に入っていてなかなか集まらない。やり取りしていたら 9 時には終われない。私は区長会に提案したいのだが、質問は事前にテーマが分かっているなら、行政に提案して書類で返事するように。書類が届いたらその中を読んでやり取りをする。毎年こういう状況だと民意が反映されていないと思う。

★企画財政課長

まちづくり懇談会のあり方は、複数の地区からそういったご意見をいただいている。このまちづくり懇談会については 30 年近く開催してきた。皆さんの意見を聞きながら、すぐできるものとすぐできないものを判断しながらやってきた訳だが、なかなか難しいものは総合計画に上げるなどしながらやってきた部分がある。その点をご理解いただきたい。

まちづくり懇談会のあり方については先ほども言いましたように、複数の地区からも相当マンネリ化しているのではないかと、新しい公聴の部分で、やり方を考えたらどうかという意見をいただいております、町長の考え方を聞きながら早ければ新年度から広聴、広く聞くという部分のやり方を少し変えていきたいと思っている。

（４）防災について

☆住民

西入善駅東側に 50 t 入りの防火水槽がある。この水は、水田のかんがい用水から取水している。昨年、消防団に水を汲み上げてもらったら、10 cm 以上の泥がたまっていた。この泥を上げて置ける場所がない。融雪装置から取水するとか、タンクをなくしてポンプを回せば 1

〔 4.飯野地区 〕

分間に 1.5 t くらい、60 分で 90 t いける。消防自動車 1 台分くらい十分あるのではないかな。消火栓を設置してはどうか。

次に、防火水槽の上にたびたび車が停めてある。防火水槽の標識があるが、風が吹くと動いてしまって、西入善の駅長にもよく動かしてもらっている。今は袋に石を入れて動かないようにしている。ひどい人は標識を動かして車を停める。そこで、あそこの路面に駐車禁止のマークをすぐに入れてもらいたい。

★総務課主幹

西入善駅東側に設置している防火水槽は、ご指摘のとおり農業用水から取水する形態のため、どうしても水槽の底に泥が堆積してしまうことから、防火水槽としての機能を保つため、地元の皆さんには泥の汲み上げにご協力いただいております、感謝申し上げます。

この防火水槽は、昭和 53 年に設置した 50 t 水槽で、取水方法には今言われたような問題があるが、消防水利としての機能を十分に果たせるだけの貯水量を有している。したがって、地元の皆さんの手を煩わせない形に取水方法を改修すれば、今後も使用できると考えている。隣接町道に敷設されている消雪配管からの取水や、それ以外の水源からの取水など、実現可能な改修方法等があるかどうか、今後検討した上で、可能であればなるべく早く対応していきたいと考えているので、ご理解いただきたい。

もう 1 点、駐車禁止の話について、火災が発生した場合には、火災現場の近くにある防火水槽の上に複数の消防ポンプ車が停車し、マンホールを開けて吸水、送水、そして放水作業を行う。したがって、万一の火災に備えて、いつ、いかなる時も防火水槽の上に一般車両が駐車されるなど、消化活動の障害となることのないように、防火水槽の上には設置場所を示す看板を設置するとともに、路面には駐車禁止の黄色い斜めの線が通常は引いてある。ただ、西入善駅東側の防火水槽を確認したところ、道路の黄色い線がないのか、それとも消えてしまったのか見当たらなかったもので、できるだけ早く対応したい。

（５）その他

☆住民

西入善駅の近くに線路の下を潜り抜ける道路がある。そこに道路から落ちないように柵がある。夏ごろ誰かが車をぶつけて役場に言って直してもらったが、白線が消えている。青パトで回っていると、白い線が消えたところがたくさんある。それから、反射鏡などが壊れているのですぐに直さないといけない。

それと、東狐から五十里に行く道路に融雪がない。なぜ融雪になっていないのか、何か問題があるのか聞かせてほしい。

★建設下水道課長

J R の線路沿いを走って道市に向って行く道路は、道市西入善駅線という町道だが、ご指摘のとおりかなり白線が消えていて、迷惑をかけている。かなり劣化が進んでいて、線の引き直しが必要だと考えている。基本的には、西入善駅から東側へ、J R 沿いにずっと引き直ししなければならないが、他の路線も含め、限られた予算内で整備していく必要がある。一

気に木根の交差点まではなかなか難しいかもしれないが、段階的に対応していきたいと考えているので、よろしくお願いします。

もう1点、東狐から五十里に向ってくる縦道の消雪の件について。町道東狐五十里線という道路だが、私の記憶だと、かなり昔に地区から消雪の要望があった。その時に話していたのは、消雪の整備は地元協力金ということで、地元で20%用意してもらわなければならない。新しく1本井戸を掘らなければいけないし、消雪の設備も整備しなければいけないし、消雪の配管も整備しなければいけないので、かなりの金額が事業費として必要になってくる。私の記憶ですと、地元負担が700万から800万だったと思う。そんな金額は負担できないと言われていたと思う。また、消雪施設の整備となると、ある程度の人家連坦という条件も絡んでくる。あまりにも田んぼばかりで家がないところだと難しい。地元である程度話し合っ、地元協力金も了解していただけるのなら、相談していただきたい。

☆住民

今、道路の話が出たが、日野自動車から真っ直ぐ下りてくる新しい大きな道路があるが、その道路に西入善に行く道路と笹原に行く道路の十字路がある。あそこは、もう少しはっきり分かるようにしてもらいたい。

それと、先ほどの津波の話だが、昨今地震ばかり起きていて、報道関係では日本海側の海岸線は2、3分で津波が来ると言っているのに、離岸堤は今年3箇所入れただけ。私は芦崎の高波を経験して苦い思いをしているが、津波に対してもう少し考えていただけないかと思う。防潮林を作っているが、防潮林なんて何十年後の話である。津波は今来たら間に合わない。それを実際問題として、役所はどう考えているのか意見を聞かせていただきたい。

★建設下水道課長

西入善駅に曲がる十字路が分かりにくいとは、詳しくはどういうことか。

☆住民

あそこは標識も何もない。矢印の高い黄色いランプでも付けるとか、反射鏡を付けるとか。十字路の手前に黄色い看板で十字路があるという標識があるが、実際問題分かりにくい。

★建設下水道課長

1度現地を確認してみる。

★町長

津波関係の話について、平成20年2月24日の高波については、私も当時、役場の職員として現地にも行き、悲惨な状況は目の当たりにしている。それ以降、国や県に働きかけながら、まず芦崎地区については8.5mまでかさ上げしている。それ以降、順次、副離岸堤の整備を国交省でやっていただいている。この後も吉原地区など、堤防も含めて要望しているのでご理解いただければと思うが、海岸の構造によって波の高さが違うそうである。私たちも国交省や県の河川事務所にアウト、いろいろ要望している中で答えとして返ってくるこ

〔 4.飯野地区 〕

が、入善町は海岸が約 11 kmあるが、その中でも場所によっては津波の高さが変わってくる。そういうことで、いろいろなデータを分析しながら、必要なところから順次やっていくという説明を受けている。その1つが今、神子沢でやったものだと思う。神子沢地内や五十里地内、副離岸堤と副離岸堤の間があるのだが、実はそこもやってほしい。しかし、順番からするともう少し待ってくれという国の回答であった。まず、災害時は逃げるということを最優先にしていきたい。

☆住民

2、3分しかないのだから逃げられないのでは。

★町長

すぐに7mの津波が来るのではなくて、最初の津波が2、3分で来るということである。ただ、7.5mの津波が来るまでに、どの位の時間があるのかは定かではないが、津波が起きる最初の時間が2、3分ということなので、ご理解いただきたい。

☆住民

先ほど町長から、子供たちの声が響く町、これを聞いて素敵だと思ったし、学童保育の全員入所を目指していると言っていたき、ありがたいと思う。私は今、孫育てを4、5年している。天候のよい時には、公園へ連れて行って遊んでいるのだが、天候が悪かったり寒くなったりすると、室内の簡単な遊び場で自由に遊べる場所がほしい。それから、1校下に1保育所を目指していると言っていたが、使わなくなった保育所を取り壊すのではなく、せめて遊戯室だけでも残してほしい。そうすると、子育てをしている人は少しでも有意義な時間を過ごせるかなと思う。

もう1つ、学童保育だが、保育所の一時預かりのように、一時預かりや夏休みなどの長期休みの期間だけ見てもらえるなど、柔軟な対応を今後考えていただきたい。

★町長

自宅で子供を見ている方にとって、いろいろな施設があればいいというのは充分分かっていて。年齢にもよるが、サンウェルの中にも広場があるし、うるおい館の1階山側にもある程度の年齢の子供が遊べるスペースがある。そういう所も活用していきたい。

また、一時的な預かりの話があったが、社会福祉協議会などではファミサポという制度も持っており、一時的に何かあったときには、少しお金はかかるがお願いできるのではないかなと思う。また、町の保育所でも一時預かりができる体制になっているので、そういうことも含めて検討していただければと考えているので、よろしくをお願いしたい。

【2】懇 談 会

5. 小摺戸地区

開催日：平成 26 年 10 月 23 日（木）

会 場：小摺戸公民館

町長あいさつ

「もっといい街、住みよい入善」を目指して

★町長

入善地区参照

議題 「小摺戸地区設定のテーマ」

（１）子どもたちの通学における安全の確保について

☆住民

新川中部農免道路、通称新幹線側道と県道新屋上野線は、大変見通しが悪い。新幹線の側道はスピード制限がなく、通勤時などかなりのスピードを出す車がいて、横断歩道を飛び越えて確認する車や、一時停止を見落とす車が多く、頻繁に事故が起きている。そういう所を小中学生が通学路として使っている。今のところ車の事故だけで済んでいるが、万が一、子供の死亡事故や怪我が発生した場合は大変なことになる。そこで、子供たちが安心して通学できる環境づくりが不可欠であり、ぜひとも信号機の設置を要望するのだが、この件に関しては２年程前から、区長会ならびに入善町ＰＴＡ連絡協議会からも役場関係に要望していて、入善警察署、建設下水道課も認知している。ぜひ早期の設置を要望したい。

★総務課主幹

新たな信号機の設置については、県警察本部の交通規制課が交通量や危険性・緊急性などの調査を行い、県の公安委員会が最終的に決定している。小摺戸地区では、今回要望があった箇所以外にも、県道小摺戸芦崎線と新幹線側道の交差点での信号機設置の要望を伺っており、毎年実施している町の県知事に対する重点事業要望で要望している。しかし、信号機の設置は県内で年間 100 箇所以上の要望があるそうだが、予算の関係もあり実際に設置されるのは年間多くても 10 箇所程度と聞いている。また、入善警察署からは、小摺戸芦崎線との交差点は交通量の面から設置は難しいとも聞いている。今回要望のあった県道新屋上野線については、入善西中学校の通学路でもあり、今後入善警察署などとも対応を協議しながら、その他の要望箇所と合わせて粘り強く県に働きかけていきたい。

☆座長

新幹線の側道ができてから交通事故が結構ある。縦道が優先で横道が一時停止になっているが、新幹線の側道が広いから勘違いするのか、標識の見落としも結構ある。また、縦道が全部優先になっているが、制限速度は 40 kmのところが多い。だが、新幹線の側道は表示がないため余計にスピードが出る。特に、要望の場所は中学生に加えて小学生の通学もある。

★企画財政課長

県警や県知事への要望は今言ったとおりで、上田県議も一緒に要望している。町内でもいくつか要望があり、頑張っていきたい。また、去年話があった薄層カラー舗装による方法は、

小摺戸芦崎線は民家が近く夜に音が出るので難しく、カーブミラーを設置した。新屋上野線は、近くに民家がなければ、新幹線側道は町が管理しており、そういう対応は可能である。信号がなかなか付かないのであれば、そういう対策もあるので、相談させていただきたい。

☆住民

町単独の予算でやらないのは何か理由があるのか。

★企画財政課長

信号機や交通規制については、町であろうと県であろうとできない。これは県の公安委員会の専決事項であり、一旦停止や速度制限など、全て公安委員会の管轄になっており、町が勝手に信号機を付けることは今のところ無理だにご理解いただきたい。

☆住民

16、17 年前に新幹線を作る話が出た時に、町に新幹線側から固定資産税が入る予定とのことだったが、実際どうなっているのか。当時の町長は約 3,000 万円と言われたか、それなりの額が入ってくるので地元の皆さんのために使いたいと言っていた。要するに、お金さえあれば、公安委員会の許可さえ出れば、県に予算がなくとも何とかなるのではないかと。

★企画財政課長

新幹線の開業は来年 3 月であり、固定資産税は平成 28 年度からになると思う。算定は町独自ではできないが、それなりに入ってくると思う。ただ、新幹線が走る市町村で協力しながら並行在来線の運営基金を作ろうということで、固定資産税の 7 割ほどが出ていく。何より、信号機は公安委員会が設置するもので、町がどんなにお金を持っても付けることはできないことはご理解いただきたい。ただ、我々としては皆さんの要望を強く県に訴えていきたい。また、県議会へも要望書を出しており、予算を増やしていただくよう頑張っていきたい。その中でもできるだけ優先順位を高めてもらえるよう努力していきたい。

（2）進む少子高齢化・人口減少への対応について

☆住民

私が生まれた 1950 年頃が入善町の人口のピークで、32,000 人くらいいた。それが現時点までに 2 割も減少し、私も強い危機感を持っている。少子化対策等については、先ほど町長から細かく説明いただいた。一方、入善町は住みよい町だが、果たして住みたい町かというところだと思う。わくわくするような魅力がないのではないかと。地方創生の石破大臣が言うように、入善町でやる気と知恵を見せ付けて明るい未来へつなげたいと思う。

島根県の隠岐島のさらに離島に、大きなハンデがあるがこれを乗り越えて若い人を中心に 1 割くらい人口が増加している海士町という町がある。また、入善町よりまだまだ山の中だが、過疎山間に IT 企業が殺到する、徳島県の神山町。町を挙げた取り組みが成功している例が多い。入善町もこのようにわくわくした町になって、黒部宇奈月温泉駅で降りた新幹線のお客さんが、黒部川の権蔵橋を渡って入善町にやって来るように、また、住みたくなるよう

〔 5.小摺戸地区 〕

な形にもっていきたい。

いろいろな施策について聞かせてもらったが、素人の考えでもやるべき事は非常に多いと思う。ここは、行政だけの限られたリソースだけでは、スピードや問題解決の面でも限界があるのではないかと考え、我々町民もできることがないだろうかということも含めて、町民ぐるみの活動を展開していくのが1番早いのではないか。そのために、年1回だけの懇談会ではなく、町民にもできる検討会、継続的で常設的な協議会のようなものを作って、有志が気軽に参加していろいろな提案ができるような仕組み作りをお願いしたい。

また、町のホームページがリニューアルされたが、町民からの意見や提案を受ける場、我々の意見を吸い上げる仕掛けがない。他市では市長室や市長への手紙というのがあり、その内容について進捗状況を閲覧できる。そういうことも考えていただきたい。ただ、この年になるとわくわくするようなシーンがなかなか思いつかないので、ここは子供たちや若い人たちに発想していただき、柔軟な頭を借りて、そのアイデアに基づいて大人が協力して実現にもって行くスタイルもあるのではないか。ふるさと教育を重視したり、学校の文化祭でまちづくりのコンテストをしたり、子供たちがまちづくりに参加していけば、やがて若者の定着にもかなりの効果が出てくるのではないか。こういうことに関しての取り組み方を聞きたい。

★企画財政課長

まちづくり懇談会については、皆さんからの意見を聞くため年1回各地区で実施しており、名前は変わっているが30年近く続けている。年1回ではどうなのか、年1回という形態が変わってこないというのはそのとおりで、常設的なものという意見もごもつともである。黒部市では、民間が主導するまちづくり会議が、様々な地域活性化や、北陸新幹線開業に向けたまちづくりの支援や提言という活動をしている。町に会を作ってほしいとのことだが、町が運営にまで関わるといろいろ問題もあるのではないか。ただ、そういう土壌作りは、町もしっかり支援していかなくてはいけない。すぐにはできないが、笹島新町長はまちづくり、地域づくりに非常に積極的であり、町長の提案等を受けながら進めていきたい。

また、ホームページに町への提言等を書く場所がないということについて、先のホームページの時に扇状地フォーラムというものを作り、当初はいろいろな方から町への意見や質問等があったが、ある日突然、個人の誹謗中傷のページに変わってしまった。その時に慌ててそこを閉鎖し、リニューアルしても引き継いでいる状態である。その代わり、試験的にフェイスブックを始めたところで、そちらでは意見等も可能である。ホームページで可能にするかどうかは少し時間をいただきたい。町には開設者の責任として情報管理という部分があり、夜中に掲示板に書きこまれて炎上するということもありえるので、それがうまくできるようにしてはいけない。会議を開いてもなかなか若い人の発言が難しいという意見もあり、そういった意見も踏まえて、町民から提言を受けるホームページ、フェイスブックにしていきたいが、少し時間をいただきたい。

★教育委員会事務局長

将来を担う子供たちのまちづくりへの参加については、子供たちには、自分たちの住んでいる地域を知るということで、小学校の時から勉強の中でもある訳だが、考えるということ

が重要だと捉えている。小学校では、自然や職場での体験学習、地域の人々との交流、郷土学習などを通して、直接見たり、聞いたり、触れたりして、郷土を見つめる教育活動を実施している。また、郷土を知ることにおいては、学校教育だけではなく公民館活動など社会教育の場でも、地域の皆さんと協力しながら、その地域の特性に応じた様々な活動を実施している。

中学生になると、社会勉強で14歳の挑戦というものを2年生で実施している。さらに、平成23年度から入善町のまちづくりの根幹である総合計画について、両中学校に出向き、これからのまちづくりの方向性を含めてその内容を説明している。これらの機会を通して、実際に自分たちの住んでいる地域や町をまず理解してもらおう。中学生にとっては、町の行政がどう動いているのか考えることはなかなかないと思うが、そういう所から町のことを知ってもらおうということを1つの目標として進めている。

皆さんの笑顔があふれるまちづくり、子供たちの声が響き合う地域づくり、この2大コンセプトを目標とした取組みを礎としつつ、子供たちに地域のことを知ってもらい、町の総合計画についてもいろいろ知ってもらおうという方向性で進めていきたい。

☆住民

高齢化に対して、より具体的な要望として1つ言いたい。私は、早期退職して家族の介護をする中でいろいろストレスがあるが、パークゴルフ大会に参加して大変リフレッシュできた。小摺戸地区や青野パークゴルフ場だけに限らず、もっと拡充整備すれば、もっと大きな大会もでき、もっと人を呼び込んでいきいきするのではないかな。他地区のパークゴルフ場に行き、60代、70代の方がすごくいきいきとしている姿をたくさん見てきた。黒部川河川敷の整備をもっと拡張してもらいたい。

特に、青野パークゴルフ場については、防鳥ネットが必要である。大島パークゴルフ場には常設の屋根付きの施設があり、弁当やお菓子がカラスやトンビに狙われる心配はないが、青野では狙われていて、追い払うのに大変である。問題があると思うので、まずは第一要望で防鳥ネットを付けてもらいたい。第2は、もっとコースを増やす。高齢化が進む中、高齢者の運動施設、健康づくり、生きがいつくりになるのではないかな。第3に、桜並木があるが、小川沿いと比べても少し中途半端な気がする。福島にもあるが、海岸まで桜並木を作ったら、ある一時期だけだがもっとPRになるのではないかな。河川敷を整備して、散歩したりいろいろなイベントを呼び込んだりできて良いのではないかな。また、グミ林については現状は大変残念に思っているが、日本に誇れる群生地であり、保存をお願いしたい。

★建設下水道課長

青野自然公園のパークゴルフ場は、4コース36ホールがあり、毎日たくさん利用がある。防鳥ネットの設置については、現地の確認や、河川敷ということで河川を管理している国土交通省との協議などいろいろ絡んでくるので、その辺を考えながら検討していきたい。また、コースについては、国土交通省と協議をして河川占用の許可をもらい整備している。最初の2コースから拡大して、4コースまで整備が完了した状況でありこれ以上の拡張は難しい。

桜並木に関しては、グミ林の件を含めて、管理している国土交通省と協議やいろいろな調

〔 5.小摺戸地区 〕

整が出てくるので、これについても地域の皆さんと協力しながら運動していきたい。

☆住民

人口減少の歯止め、少子化対策や子育て支援など、対策には財源が必要である。少しでも財源を確保するという意味で、全国の市町村でふるさと納税をしている。メリット、デメリットもあると思うが、多くの財源を確保している市町村もあるはずで、そういうものを参考にして、少しでも確保していけばいいのではないかな。計画や考えがあれば聞きたい。

★企画財政課長

ふるさと納税については、入善町でも制度ができて以来取り組んできた。過去においては主に縁故者の方から、ふるさとへの入善に頑張ってもらいたいということで、大きなところでは100万円、少なくとも10万円単位で、年間100万から200万円程度の寄付があり、まちづくりに有効に使わせていただいている。ところが近年、ふるさと納税を利用して地域産業の活性化を図るということで、地域の特産物をふるさと納税によって販売、例えば1万円寄付すれば肉を送りますよというように、地域の産業活性化をにらんでやっている例が多々あり、マスコミでも取り上げられている。また、インターネットでどこの町にどれだけ寄付すれば何が当たるのか、一覧できるサイトもある。それについては、ふるさと納税に対する考え方がそれぞれあるのだろうと思うが、良いか悪いかは意見が分かれると思っている。

ただ、入善町もこの4月から、1万円以上の寄付をいただいた方に、ある程度の品数のの中から自由を選んでもらえるということで、新たに制度をスタートさせた。その結果、1万円ではあるが、全国の多くの方々から寄付をいただいている。件数だけは異常に増えたが、金額は相変わらず100万円あまりとなっている。入善町について、ネットを通じて知ってもらおうという点では、非常に効果があったと思う。また、町の特産品や水などを送っているが、非常に喜んでもらっていると理解している。ふるさと納税は、1万円あれば1万円全部が財源になるのはなかなか難しいが、よりよいまちづくりに使わせていただきたい。

（3）安全・安心のまちづくりについて

☆住民

去年からの継続のテーマであり、簡単に言いたい。災害時、要援護者台帳の配備先に地区の自主防災会及び消防分団を追加していただきたいという要望を出している。

★健康福祉課長

安全・安心なまちづくりということで、地区の皆さんには日頃から、ケアネット活動やいきいきサロンの開設などにご協力いただき、また、9月には県の総合防災訓練を黒東小学校校下で開催したところ、大変協力いただき感謝している。要援護者台帳については、災害時に備えて日頃から町と関係者が必要な情報を共有していくことが、何より大切だと考えている。個人情報保護について慎重に配慮しながらも、平常時から要援護者情報を必要な限度において関係の皆さんへ提供していくことが、災害発生時の円滑な避難支援に結び付くと考えている。

先般、小摺戸地区の自主防災組織にも必要な情報を提供させていただいたので、引き続き、自主的な避難訓練等の実施に活用していただきたい。消防分団にも話をしており、情報を共有していくという話であった。この場合、災害対策基本法が改正され、災害時に備えて、避難支援の実施に必要な限度において民生委員等へ情報提供を行うことや、情報提供を受けた者に守秘義務を課すことなどが定められている。消防分団についてもこの趣旨を踏まえて、情報提供ということで対応していきたい。

☆住民

先般、谷川区長会長から、自主防災会長という立場で要援護者台帳を町からいただいたと、一步前進したという話をしていた。全国的に災害がとて多くなっている、そういう情勢から、こういう形を作っていないとだめだという判断の基にやられたのだろうと解釈した。

ところが、全 10 地区の各区長会長に配布したのではなく、希望する地区だけということだった。私の考えでは、行政はその台帳を元に安全・安心なまちづくりをするために、自主防災会議や消防団などを含めて、全地区でお願いして自主防災組織を作ってもらい、行政側が指導すべきではないか。希望があったところにだけという性格のものでは決していないと思う。

関連してもう 1 つ。東日本大震災後に、要援護者台帳の登録に地域支援者が追加になった。今年で 3 年目になるが、今までの災害の教訓から言っても、向こう 3 軒両隣の人たちの力なくして救助はできない。いくら民生委員や区長、福祉活動員、ボランティアサポーターが頑張っても、一人で何十人も安否確認や避難誘導をできる訳がない。私の地区でも約 70 世帯 100 人の要援護者の方がいる。当初は 17% だけだったが、近所の人に頼んで登録してもらった。今年 3 月に民生委員の皆さんにお願いしたところ、とても真面目にやっていただき、60% まで来た。100 人いれば 60 人の近所の方が駆けつける体制を作って、防災訓練の中で活用させていただいた。そこで、行政の側から来年 3 月に民生委員の方が回られる時に、全町で行政の公助という立場から、広報や C A T V を使って、住民の皆さんに快く承諾してもらえよう、P R に力を注いでもらいたい。

★健康福祉課長

全地区に配布していきたい。地域支援者については、その提供の時にあわせて情報提供していきたいと思うので、また地域支援者の協力員の拡大に協力をいただきたい。

☆住民

安全・安心のまちづくりというが、今年の 1 月 18 日、人の家へ散弾銃を持った猟友会の人たちが来て、住人が居るのに了解を得ず散弾銃でイノシシを撃った。3 年前にもそういう問題があり、その時は近くでは一切撃たないと約束したにもかかわらずである。子供が外で遊んでいるにもかかわらず、50m 先から散弾銃を発射した。これだと住民は安心できない。

もう 1 つ、消防団について、町では 1 日と 15 日に巡回しているのを小摺戸地区は月 3 回しているが、巡回する日、屯所で午前様まで酒を飲んでいる。そういうことをして警戒にあたっていいのかと住民の方が言っていた。町の方で対応していただきたい。

★農水商工課長

イノシシの駆除に関わる件は、私も連絡を受けている。その頃、目撃情報が何箇所か出ていて、猟友会で緊急的にパトロールをしたところ、家に逃げ込んだということであった。人に危害を加える恐れもあり、緊急避難的に駆除させていただいた。無断で敷地に入るなど、あきれた行為等が見受けられたとご指摘があり、そういうことがないように猟友会にも重々お願いしたところだが、猟友会も緊急避難措置だったということとはご理解いただきたい。

★町長

消防団のことについてお聞かせいただいたが、このようなご時勢であり、飲酒をしながら巡回というのはまずありえないと思うが、回る回らないは別として、回っているのに屯所で飲んでいいるということがあったら大変なことなので、そういう事がないよう、消防署を通じて消防団にも周知していくように伝えたい。

（４）その他

☆住民

最近、不審者が多く出没している。つい最近も、新屋地区の浦山新でオートバイが子供を追いかけた。桃李小学校の辺りは、特に多く出ていると聞いている。老人の行方不明などで防災無線を使うことが結構あるが、不審者情報を防災無線で案内することはできないか。

★教育委員会事務局長

情報提供という意味では、一斉にするということではできていると思っている。早く知らせることが大事なのだが、情報が正確でない場合に、また無効になっても困るので、その部分との整合性、それが少し課題としてあるのでないかと感じている。

☆住民

黒部市は新幹線で盛り上がっているが、入善町はしょぼんとしている感じで、町に元気がない。黒部市が新幹線なら、入善町は高速道路でできないか。提案だが、せっかくインターチェンジがあるのだから、その上下線に建物を建てる。インターチェンジが開通した時に国土交通省の課長に話したら、面白いですねと、ただ上の方はやめてくれと言っていた。みな穂農協とタイアップして建物を作れば活性化にもつながるのではないか。今はあいさい広場を利用しているが、そういうことが地方創生には1番大事ではないか。ぜひ上下線とも通じた形のものを、地方創生、活性化だということで訴え続けていけば何とかできるのでないか。

★企画財政課長

ハイウェイオアシスのようなものは、相当な規模のお金がかかるし、また、上空占用などなかなか国土交通省の許可が下りない。ただ、言ってみる価値はあるのかなと思う。年1回、国土交通省の道路局長に町長が会うので、住民からそういうアイデアもあったと言っていたらと思う。

☆住民

2、3年前に防災ラジオを購入したが、上原などの連絡がどんどん入るので、皆さん電源を切っているようである。至急改良してほしい。

★企画財政課長

数年前に、個別受信機に比べて安価な防災ラジオということで、町からも支援して希望の方に買っていただいた。その結果、7割近くがカバーできた。ただ、防災ラジオに関しては全放送が入ってしまう。これは、皆さんに希望を取った時から、各地区の農事放送が入りますということをご承知の上で買っていただいた。個別受信機なら調整はできるが、防災ラジオについては一切調整ができない。ただ、J Aにお願いして、お悔やみなどはどなたが亡くなられたという程度にとどめてほしいということで、協力いただいている。ただ、農事放送はJ Aの部分もあるので、ご理解いただきたい。

☆住民

南砺市長の田中さんはフェイスブックなどやっているが、七転び八起きという塾を5期に渡って作っていて、その塾生は20歳から36歳までの10人から20人くらい、1年間活動して自分たちも提案して、その審査もして、よい提案についてはお金を出す。フェイスブックについては、南砺市が市のレベルで出しているページは20くらいある。入善町や黒部市、魚津市などは盛んではないが、活用の仕方としてはそういうのがあると思う。インターネットは非常に良いツールだと思うので、ぜひ活用していただきたい。

★企画財政課長

南砺市だけではなく、県内の市長は結構そういった形で、職員に頑張れよという自治体がある。我々もそれを研究しながら、特別のツールを使ったまちづくり等を研究していきたい。

☆住民

残された入善町のアピールとしては扇状地の活用である。日本中に誇れる黒部川扇状地、世界にも誇れる珍しいきれいな扇状地であり、その活用という視点で用水の発電利用のチャレンジ、研究など支援してはどうか。町長のフィールドミュージアム構想にも合う。県の事業でありお金もかかるので、小摺戸発電所のようなものをもう一つと言うつもりはない。地権者や水利権の問題など壁はあるが、やっぱり残されたのは扇状地の活用である。

★町長

この扇状地の特性というのは全国、世界に誇れる素晴らしい形だと思っているので、こういう中に存在する資源を最大限に活用しながら、全国一のPRに向けて頑張っていきたい。

☆住民

小水力の話が出たが、小摺戸発電所の完成はいつ頃か。出力はいくらか。入善町にどれだけのメリットがあるのか。

★企画財政課長

今年度中に完成と聞いており、おそらく2月末頃ではないか。もう1つ情報として、400kWまではいかないが、浦山新地内で入善土地改良区がこれからやっていくということである。町のメリットについては、固定資産税が入るのではないかと考えている。ただ、発電の場合は特殊な部分があり、下山の発電所についてはしばらく固定資産税が入らないなど、発電事業者に対して優位性のようなものもあり、28年度からすぐ固定資産税が入るかどうか確認しないと何とも言えないが、将来的には固定資産税が町には入ってくる。電気については直接北陸電力に売電されるので、北陸電力を介して町や皆さんが電気を買うということになる。

☆住民

飯野の湧水公苑について、とんでもなく汚く水も気持ち悪いくらいである。下の排水が詰まっているが、誰も見てくれないため、水浸しになってカビが生えている。また、入り口の藤が大きくなりすぎ、根が太りすぎて入り口のタイルが壊れている。まるで廃墟であり、管理できないならあんな恥ずかしい物は今すぐ壊した方がいい。

★建設下水道課長

言われたように非常に胸が痛い状況である。地元での管理を地区にお願いはしているが、管理が行き届かない。今後は一生懸命維持管理に努めていきたい。

☆住民

「じゅわ〜つとにゅうぜん」の「じゅわ〜つと」は、何を意味しているのか。

★農水商工課長

昨年、合併60周年を記念して、キャッチフレーズを新しくしたいということで考えたもので、マークについては、扇状地の広がりや海洋深層水、海などをイメージしている。「じゅわ〜つと」というキャッチフレーズは、水のイメージから当てたもので、水がしみ渡る、良いものがどんどんしみ渡る、じわじわと広がっていくということで、町の良さを少しずつ少しずつ広げていきたい、しみ渡るようにしていきたいという思いを込めて付けたキャッチフレーズである。ぜひ愛していただければと思うので、よろしく願いしたい。

【2】懇 談 会

6. 新屋地区

開催日：平成 26 年 10 月 27 日(月)

会 場：新屋公民館

町長あいさつ

「もっといい街、住みよい入善」を目指して

★町長

入善地区参照

議題 「新屋地区設定のテーマ」

（１）北陸新幹線高架下道路の黒部川架橋建設について

☆住民

この件は、新屋地区というよりも入善町全体としての要望に近い。少子高齢化や人口減少対策として、住みやすいまちづくりが重要である。来春には北陸新幹線、国道８号線バイパスも開通する。今日、企業誘致も困難な情勢において、既存企業であるＹＫＫへのアクセスや新幹線黒部宇奈月温泉駅への利便性のために、ぜひ北陸新幹線高架下道路の黒部川架橋を建設し、住みやすい入善町にしていきたい。ポイントとしては、海側に国道８号バイパス、中央には現国道８号、山側に新幹線高架下道路として、新幹線駅やＹＫＫに利便性の高い入善町にし、企業誘致が困難な中、黒部市のベッタタウンとして、既存企業への就労を確保して人口増につなげていきたい。

★建設下水道課長

この道路は、県営農道整備事業として平成１５年から整備が始まった。来年３月には、朝日町から黒部市も含めて、計画されている区間の全線が供用開始される予定である。

この路線は町の東西を結ぶ幹線道路でもあり、黒部宇奈月温泉駅までのアクセス道路ということで、いろいろな機能を持っており、要望のとおり黒部川に橋が架かれれば更なる機能の向上が期待される。

しかし、新しく橋を架けるとなると大変大きな建設費がかかってきて、費用対効果がなかなか望めない。代替となる権蔵橋という立派な橋がすぐ上流、８５０ｍくらい上流に架かっている。これまで農道整備としてやってきたが、農道整備としては受益がなかなか望めず、現在進めているような事業での採択がとても厳しく、町としても新しい事業メニューを模索している状況である。この橋の整備については重要性を認識しており、入善町だけではなく朝日町も関係しているので、朝日町ともスクラムを組みながら、整備促進協議会や県へ働きかけていきたい。

☆住民

権蔵橋があると言われると非常に厳しいが、一步でも遠いということに対しては問題があるかと思う。利便性というのは、人間に楽な利用しやすい方向にもっていくことが大事で、それが入善町の人口を増やすためにも、いろいろな不都合を解決していくという大前提があると思う。新幹線も表日本から見れば５０年近くも遅れた裏日本であり、ぜひそういうものにいち早く取り組んで、利便性が良い、そして入善町の人口が増える方向でぜひ検討していただきたい。

★町長

今、この地域、特に入善、朝日は東側から西側に人が流れる傾向がある。そういうものに歯止めをかけるためにも、橋の整備も有用なのかなと考えている。ただ、今ほど担当課長からも説明があったように、費用対効果の面、事業費の面も含めて、それと何より本町だけの道路ではないので、近隣市町ともスクラムを組みながら、県などへ要望を強く働きかけていきたい。

☆住民

黒部には東京から3,000人が出張して来る。入善町は20年ほど前に28,000人いたのが、今は26,000人ほどで、2,000人少なくなった。その分と今度東京から全部本社をこちらに移すことになったので、例えばこちらから通う人がたくさんいるとすると、橋を使って通勤して、黒部は土地が高いから入善町に移住するというふうにもっていけないか。

★町長

最近の情報だと、やはりYKKあたりが中心となって東京から本社機能の移転や、東京方面からお客さんと呼び込むというようなことも含めて、たくさんの方々が来るような情報も聞いている。地価からすれば入善町は黒部市よりはるかに安いので、黒部市のベッドタウンとなるような状況、そういう流れができてくるといいなと思っている。そのためにも私たちもあらゆる角度から、こっちで住宅を少しでも建てていただけるように努力していきたい。

☆座長

新川地区としては、新幹線ができ高速道路ができたということで、大きな背骨ができた。その一方で、町長が進めている、もっといい街住みよい入善と同時に、国も地方創生という言葉で活動しようとしている。この地方創生は新聞など見ていると、一言で言えば地方も自立しなさいと、経済的にも自立しなさいと。前提となるのが経済政策の立案能力であると。そして、有望な人材を見つけて、将来の多くのリーダーを育成する能力が問われるということを言っているように思う。ということは、地域間でちゃんと競争しなさいと言っていると思う。

そういう意味では、人の流れや物の流れを活発にするという競争の場面では、黒部川を中心として西と東では、今、東が西に比べて負けているのではないか。それを同じ土俵にするためには、ちゃんとしたアクセス道路を作ることが必要ではないのか。道路を作るということは、前から皆さんが言われているとおり、作るということが目的ではない。町長が言っている、もっといい街住みよい入善を作るため、これが目的であって、この手段として新幹線下の黒部川架橋は必要ではないかと。ぜひ前向きに構想していただきたい。

（2）墓ノ木自然公園の管理の充実について

☆住民

墓ノ木には、お盆に行われている魚のつかみ取り大会などでご存知の方も多いのではないかと思うが、全国的に名高いと自負している墓ノ木自然公園がある。本日は、墓ノ木自然公園の維持管理関係について、3つのお願いと質問を1つしたい。現在、自然公園になっている辺りは、元々地元の子供たちが遊び場にしていた、グミの木が群生する川原だったが、町の総合計

〔 6.新屋地区 〕

画で、清流黒部川の河川敷を利用した自然を背景に、レクリエーション活動と自然観察の場を作り、地域住民の憩いの場とするというコンセプトで、昭和 48 年にキャンプ場を持つ自然公園として整備され、昭和 52 年度には第 2 キャンプ場、駐車場、砂場、花壇、木橋、相撲場、井戸、ベンチなどの整備、それ以後かっぱ橋を架け、川向いに第 3 キャンプ場などが造成され、また旧宇奈月町との境界付近にソフトボール場、ゲートボール場の造成、それから川向の遊歩道が整備されるなど、数回に分けて造成整備が行われ現在に至っている。公園ができてから、地元墓ノ木壮年会のメンバーが町の委託を受けて、利用が多くなる直前、春の連休前と夏休み前の年 2 回、草刈りを中心に清掃を続けている。

インターネットを見るとその書き込みでは、芝生が気持ちいい、綺麗で無料とは太っ腹、敷地は広く仮設トイレも各所にあるというプラスの意見と、川が何となく不気味というマイナスイメージの意見もある。先日、天気良かったので今日のために現地調査をしてきたが、バードウォッチングの方が数名いて、ハーレーの団体が 200 名近くキャンプをしていた。バードウォッチングの方は、鳥が目的なのでこのくらい自然があればなおさら良いのではないかと、ハーレーの方も無料でこれだけの設備が整っているから何も文句は言えない、強いて挙げれば自動販売機があればなど言っていた。私には物足りない意見だった。

地元の住民から見ると、公園入り口の案内図に書かれている遊歩道の多くが、今や雑草に埋もれて廃道同然になっていて、第 3 キャンプ場は葛のつる、葉、雑草で覆われてその跡形もない。また、ソフトボール場、ゲートボール場はどこにあるのかも分からない、行くに行けない状況である。第 1、第 2 キャンプ場は、年 2 回ではすごく気になる。女性はトイレも気になるようである。キャンプしていたライダーの話では、点灯していない照明器具も多かったとのことである。上流にあるのは、どんよりした池にしか見えず、清流のせせらぎと称される公園内の流れも、ごみに近い流木やビニール袋、空き缶なども目立ち、岸边には砂地というよりも泥地に育つような草が生えていて、とても清流とは言えない。近隣地区の人々からも、思っていたより汚くがっかりしたという声も聞く。昔は、放水口から時々大量の放流があり、河川の石も川岸も放流の水が綺麗に掃除していたが、近年は放水口トンネルには鉄格子がされて放流されることはなく、分土工からの規定量の水と宇奈月の下水処理の水が流れていると聞いている。

墓ノ木では、16 年前の平成 10 年 3 月に「たいまつとあらせの里」という沿革誌が発行されたが、その中の墓ノ木自然公園の章にはすでに、第 1 キャンプ場の川沿いは最高の釣り場として年中釣り人の姿が見られたが、近年大規模な合口用水の改修が成されており、用水からの放水量も減少し魚も景観も変化をきたしさみしい限りである、また、入善町においても建設後の管理については十分な対応がされず、川向のキャンプ場は放置状態であるし、既存の施設についても財政難からか今ひとつ力が入らないのが現状といった記載がある。

そこで提案だが、壮年会の年 2 回の草刈りの他に、町による遊歩道の草刈りを含め、年数回の草刈りの追加を、地元はもう手が回らないので町にお願いしたい。2 つ目に、トイレは男性が使用中の時など女性が近づきにくい、使用しづらいことから改良をお願いしたい。3 つ目に、これは電力会社の協力が必要だが、定期的に年 1 回以上、墓ノ木放水口からの大量の放流による河川の清掃の実施をしてもらいたい。平成 18 年 4 月に、富山の名水に入善町からは高瀬の湧水の庭と同時に、墓ノ木自然公園が追加選定された。その時の新聞には、維持管理など十分にされていない場所があれば、県は名水指定を取り消すことも検討していくとあったが、案内看

板など、名水をアピールしているものは探したけどないし、何か特別なことはやっているのか。

★建設下水道課長

墓ノ木自然公園は、昭和 49 年 3 月、国交省から河川占用許可を受けて整備した。公園の面積は 22ha 余りとかなり広く、入善町で 1 番大きな公園である。キャンプ場やせせらぎ水路があり、水に親しめるキャンプ場として、ゴールデンウィークや夏休み等の行楽シーズンにはたくさんの利用客で賑わっている。また、県内有数の野鳥の宝庫で、バードウォッチングの絶好のスポットにもなっている。平成 18 年には、とやまの名水として指定を受けている。とやまの名水は県内に 66 箇所あるが、入善町には 4 箇所あり、墓ノ木自然公園のほかは、沢スギ、高瀬湧水の庭、富山湾深層水が指定されている。

まず、維持管理の面については、県からの指定の取消しについて確認したが、水に関する景観を維持していれば取り消されることはないということで、それに向けて努力していきたい。墓ノ木地区の皆さんに草刈りや枝打ちなど、定期的な清掃活動に協力いただいております、この場をお借りして感謝申し上げます。町としても、よりよい公園管理を維持していきたいと考えており、今年はせせらぎ水路沿いの刈払いや、川底の清掃を内水面漁協と共に行った。1 回だけだがキャンプ場と沿道の草刈りも行った。それでもすぐにつるが伸びてくるので、それに負けなように維持管理をしていかなくてはと思っており、今後も適切な維持管理に努めていきたい。

トイレについては、特に女性のトイレは外から洗面所が見えるということかと思う。河川区域内の工作物は、増水時に速やかに撤去できる構造でなければならない、可搬式のトイレでなければならないと国交省から言われているが、洗面所の目隠し等、改善について検討したい。

次に、墓ノ木分水工からの放水については、公園内の川は、黒部川愛本堰堤から黒東合口用水を経由して墓ノ木分水工から放流されており、平成 5 年の北陸電力との覚書により、4 月 16 日から 11 月 15 日までは毎秒 0.5 m³、11 月 16 日から 4 月 15 日までは毎秒 0.1 m³と約束されている。流量については減少されているということはない。土砂等の堆積によって、せせらぎ水路の流れが悪化していることも考えられ、園内水路の川床整理についても努めていきたい。

☆住民

放流の件について、少し上流に丸い池のようなものがあるが、そのことを言っている。今の分水工から一定量放流しているのは分かっているが、池になっている所に昔は常に大量の水が放流されていた。契約ではなくて協力ということで、1 回でも 1 時間でもいいから大量の水を流してもらえないか。それできれいになるかはやってみないと分からないが、北陸電力にお願いしてもらえないか。

★建設下水道課長

今言われた池は、通常のつながっている放水と別のところということか。

☆住民

今のところは、上流の宇奈月の公園辺りから放流して下に流れてくる。合口用水から直接流れるトンネルがあり、そこから 1 時間でも 2 時間でも流してもらえないか。それは契約とかで

〔 6.新屋地区 〕

はなく、北陸電力の協力次第だと思う。

★建設下水道課長

墓ノ木自然公園の中に、大きいせせらぎの川と小さいせせらぎの川がある。その水が汚いので、現地でいろいろ見てきた。分水するところに草がたまっていたので、何とか水を流せるようにした。また現地を確認して、対応できるように頑張っていきたい。

☆座長

今年の8月に、とやま環境財団が県内の親子と県立大学元教授の安田先生を招待して、従来の水質検査とか水生生物調査ではなく、水辺空間を広く調査するという夏休みの課題として、快適な水辺かどうかを見る、感じる、触るといった感覚で調査する活動があった。私にも依頼があり参加してきたが、久々に墓ノ木自然公園に行ったのだが、やっぱり昔のイメージではない感じを受けた。それまで川の中にいる動物などを見ていたのに、活動の最後に子供たちみんなで掃除すると言った途端に、空き缶やビニール袋を拾い上げてきて、今まで何をしていたのかというくらい、一生懸命活動していたイメージが崩れたような気がした。今も町が考えていること、地元が考えていることが合わないところがあったので、ぜひとも地区の皆さんの意見を聞いて、昔五感で感じた、ほっと癒される自然公園に戻れたらと思う。

（３）公立総合病院への利便性の確保について

☆住民

新屋地区では高齢化が進んでいる。特に、町新屋地区は高齢化率37.2%と非常に高い。こういう状況の中で高齢者にとって何が1番問題か、入善町で何が1番不足しているかを考えると、病気にかかった際に精密検査をして治療してもらえる、気軽に行ける大きな病院がないことである。当然、病気にかかれば、あさひ総合病院、黒部市民病院といったところで見てもらう回数が多くなる。しかし、病院へ行くにはとにかく交通の便が非常に悪く、これが高齢者のネックになっている。中にはタクシーで行かざるを得ないという方もいると聞いている。通院となれば大変な交通費の負担となり大変である。そこで町へのお願いだが、黒部市民病院、あさひ総合病院へ直行する町営バスを運行できないか。もしできなければ、黒部市民病院とあさひ総合病院をたくさんの町民が利用していると思うので、黒部市のバスや朝日町のバスなどとの乗継ぎを良くしてもらい、利便性を良くできないか。

★農水商工課長

町営バスについては、町民の皆さんの日常生活を支える足として、ショッピングセンター、町内の医療機関や駅などを結んで運行している。この町営バスは、交通空白地域を地方自治体が運行できる制度を利用して町が運行しており、基本的には、町外への運行には隣接自治体との協議が必要になる。また、黒部市では民間のバスが運行していて、民間バス路線と重複する区間に町営バスが直接乗り入れることは、現状では難しい状況である。

また、町内にもいくつも医療機関があるが、身近な開業医と大きな総合病院が役割を分担して、まずは身近な医療機関を受診する地域医療の連携が求められている状況で、地域のかかり

つけ医となっている町内医療機関との調整など、総合病院への通院のためにバスを運行することには課題も多い。現在、黒部市と朝日町では、いずれもＪＲの駅を基点として総合病院へ行くことができるバス路線があることから、ＪＲとバスを乗り継いで通院することは可能になっており、そういった利用もお願いしたい。また、新幹線開業後のあいの風とやま鉄道の利用を促進し、安定的な経営を維持するためにも、駅を基点として公営バスを運行することは重要であり、鉄道を大動脈とした地域公共交通体系をある程度維持していく必要があると思っている。

あわせて、今後さらに少子高齢化が進む中、ますます町営バスの役割は重要になるものとも考えている。町長も言ったとおり、町営バスがより利便性の高いものになるように、予約に応じて自宅から目的地まで複数の人が乗り合う新たな交通システムである、いわゆるデマンド交通の導入も視野に入れた見直しを検討しているところであり、ご理解いただきたい。

また、北陸新幹線の開業により、観光やビジネスでのこの地域を訪れる方々への対応も必要であると認識していて、近隣の市や町と連携した広域的な運行や、各市町のバスの乗入れの可能性についても現在協議を行っている。今後も近隣市町や交通事業者などと連携し、利用しやすい公共交通となるよう対応していくので、ご理解いただきたい。

☆座長

これからの高齢化で、特に一人暮らし世帯が多くなっていくと思われるが、平成14年の一人暮らし意識調査を見ると、80%を超える人たちが心配しているのが健康である。そして、そういう体で遠くの病院に行かなくてはいけないときに、タクシーは負担が大きい。そういう中で、隣の市町との公共バスの連携をうまく考慮してもらえれば、安く安心して行けるのではないかな。先ほどＪＲ経由と言われたが、かなり時間がかかるアクセス方法である。今の回答にあったように、新川広域圏における、黒部宇奈月温泉駅へのアクセス方法を検討しているということで、例えば黒部宇奈月温泉駅から市民病院までのバスが作られるのであれば、そこまで行けば市民病院までバスで行くことができる。そういう配慮ができないかということが、このテーマの考え方ではないかと思う。

☆住民

私はタクシーの運転手をしているが、隣の黒部市では1週間に2回ほどデマンドタクシーをやっている。すると、黒部の山奥からでも近くの3人、4人を乗せて、市民病院まで500円で行ける。帰りもまた500円である。入善町もデマンドタクシーをやってはどうか。また、この中で1週間の間に1回、2回、町営バスに乗った人はいるのか。手を挙げてもらいたい。このとおり、空気が走っている。ああいう大きなバスではなく、10人くらいのバスで十分である。

★町長

確かに、現状の町営バスは空気を運んでいると言われており、正直なところ運転手がお客を乗せないで走っても、きっちりと給料はもらえるというシステムになっている。それでは良くない。1人でも多く乗ってもらうことによって、給料を稼いでいるというシステムにしていけるべきであり、そのためにも、デマンドタクシーという、事前に申込みしてもらえれば迎えに行き、また家まで送ってもらえるシステムを検討している。ただ、他の市町までの乗入れがど

〔 6.新屋地区 〕

の程度できるか、これは今後の黒部市、朝日町との協議になってくる。とりあえず町だけでも、デマンドを早く立ち上げたい気持ちは十分に持っているので、よろしくお願いいたします。

（４）その他

☆住民

最近、食の安全について子供たちに聞くと、西中学校も黒東小学校も、給食の中に虫が入っていたりすることが頻繁に起きていると聞く。町はどのように対応しているのか聞きたい。

また、今年の春に入善町防災マップが配られたが、マップでは新屋地区の避難場所は新屋公民館だけである。小摺戸地区は、小摺戸公民館、黒東小学校、こあら保育所になっている。知らない人が見れば、新屋地区の皆さんはこの公民館しか退避場所がないと思ってしまう。これは2014年度版なので、また2015年度版で新しいものを作ろうと思うが、その時にはこういうことがないように。せっかくお金を使ってマップを作るのなら、地元から不平が出ないようなマップを作ってもらいたい。

★教育委員会事務局長

学校給食の異物混入については、ご指摘のとおり、現実には異物が混入している事故が発生している。材料の搬入、調理過程、配膳、食べる段階に分かれると思うが、町としては、調理師による目視確認、洗浄の徹底、着衣確認の徹底などを図りながら、全て最善を尽くして徹底してくれと言うしか手段がない状況である。そういう形で、異物混入の事前除去に努力している。虫が食材に付着している事故も秋から何件かある。調理室は網戸を徹底しているが、網戸だけでは入ってくるので、窓を閉めきって調理をしている。どの段階で虫が入ったか特定できないものもあるが、混入がないように調理師は最善を尽くしているので、よろしくお願いいたします。

★総務課長

防災マップについて、2014年度版の中で避難所が新屋公民館になっているが、これはあくまでも避難する位置が書いてあるのであって、そこに必ず避難するのではなく、近くの避難場所に避難していただくのが原則である。その地区に避難場所が1箇所しか書いてないから、1箇所にみんなが行くというのではなく、あくまでも避難所の位置を記してあるマップであり、ご理解いただきたい。

☆住民

これは、だぶって書いても良いのではないかな。これだと、誰が見ても新屋は新屋公民館しか避難場所がないと思う。

★総務課長

分かりました。

☆住民

避難場所の話について、この新屋公民館が避難場所になっているが、今日の懇談会でも少し

来る時間が遅れるともう駐車場がない。避難場所になっているのに、ここには駐車場は32台しかない。例えば健診のときに大きい車が来ると、ほとんど車を停められない。私は、建設中のもの以外の町内全ての公民館を回って見たが、こんな少ないところはない。これから青木も場所が広がる。向いの究蘊公園に14台の駐車場ができるが、それでも合わせても50台に満たない。この辺を将来的にどう考えるのか。この公民館のすぐ横に公民館の敷地がある。車が通れる場所となっており、この場所は、後ろの田んぼのことを意識した通路だと聞いている。この辺も含めてお願いしたい。

★企画財政課長

言われたとおり、駐車場が狭いのは認識している。究蘊公園の改修にあたって地区の方々と話をさせてもらい、14台可能になる。一部JAの職員が停めている部分もあるが、そういう場所も活用していただければ。ただ、裏に農協もあるので、避難ということを考えるとどうなのかも検討していかなければいけないと思っている。公民館行事でならどの程度いるのか設計の段階からやらなくてはいけないと思うが、緊急時ということで指摘を受けた訳で、例えばいきなり車でここまで来るという話ではないと思うので、緊急時にはJAや南部倉庫の駐車場を借りられるように、いろいろ話していきたい。また、公民館行事や健康診断では、どこまで駐車場を確保できるか検討させていただきたいのでお願いしたい。

☆住民

新屋公民館の近くには上村公民館があり、その敷地は町有地で借料を払って借りている。その後ろ半分くらいは町有のままで、現在は砂地であり、上村地区が草刈りや維持管理をしている。現在の公民館の駐車場が満杯になったときには、上村公民館の前や後ろに停める方もいる。せっかく町有地が空いているのなら、そこの利用も考えてもらえればいいと思う。

★企画財政課長

ありがとうございます。隣接しての駐車場確保は、土地柄なかなか難しいとは思っているが、非常時のことも考えながら駐車場を確保していきたいと思うので、よろしく願いしたい。また、上村地区の皆さんには、町有地とはいえ上村地区に貸している以上、上村地区にも権利があるので、またそういう場合には上村地区の理解を受けたいと思うので、その時はよろしく願いしたい。

〔 6.新屋地区 〕

【2】懇 談 会

7. 梶山地区

開催日：平成 26 年 10 月 29 日(水)

会 場：梶山公民館

町長あいさつ

「もっといい街、住みよい入善」を目指して

★町長

入善地区参照

議題 「梶山地区設定のテーマ」

（１）防犯カメラの設置について

☆住民

今年になって、桃李小学校区において不審者の出没や、春の用水路の鉄板盗難被害などが多発した。いずれも今は落ち着いてきているが、全国的には不審者による犯罪は今も起きている。記憶に残るところでは、神戸の小学生殺人事件などがあるが、ここまで酷くなくてもこのような犯罪は毎日のように日本のどこかで発生している。そして、これらのニュースが流れたとき、犯罪捜査には必ずと言っていいほど防犯カメラによる画像解析が聞かれ、これが犯人逮捕の大きな決め手となることが少なくない。

防犯カメラには本来の画像記録機能と、防犯カメラ作動中という表示による犯罪抑止の２面がある。交差点の道路に設置すれば交通事故の現場も捉えられ、多面的な効果が期待できる。大阪の箕面市では、全小中学校の通学路に 750 台の防犯カメラ設置が決まったというが、各自治体の防犯に対する意識が形となって表れてきている。梶山の区長会でも、6 月 23 日に前町長はじめ関係部署宛てに、不審者対策に関する要望として防犯カメラ設置の要望書を提出した。あれから 4 カ月経過したが、これまでの進捗と今後の町の考えについて聞きたい。

笹島町政のスタートということで、広報入善 10 月号に町議会定例会の所信表明が掲載されたが、その冒頭に私が感動した一文がある。それは、災害対策として米国では危機管理のトップに立つ者の行動原理に、疑わしいときには行動せよ、最悪の事態を想定して行動せよ、空振りには許されるが見逃しは許されないという 3 つの原理があり、このことに心してこれからの入善の安全・安心確保の先頭に立っていくというものである。防犯対策も安全・安心の確保という観点からは、災害対策と同じであり、そういった観点からまず笹島町長の考えをお聞きし、それから関係部署の回答をお願いしたい。

★町長

防犯対策については、真剣かつ早急に取り組まなければならない問題であると承知している。今、市街地でも商工会などが中心となり、防犯カメラの設置に取り組んでいる。体育館の周辺なども車上狙いなどがある関係上、防犯カメラを設置した。こういう中で 1 番心配なのが、個人情報の問題、ルール化の問題である。庁舎内でどうあるべきか検討しながら、早急に対応策を講じていきたい。特に、桃李小学校下をはじめ、他にもいろいろなところで不審者が出没する状況であり、子供たちの安全をしっかりと守り、また地域を守っていくという観点からも、導入について現在検討しているということをまず申し上げておきたい。

★総務課長

栲山地区からは、不審者対策に関する要望書を確かにいただいている。町内では、中心市街地や総合体育館、駅前などには防犯カメラが設置されているが、他の地区は付いていないのが現状である。もし設置するとなれば、栲山地区だけでなく他の地区からも要望が聞こえており、その辺を平等に検討していきたい。県の補助を使えばすぐに付けられると思っていたが、県警の補助はハードルが高く手が出せない状態であり、どうするか検討している。設置のためには、プライバシーの保護や映像の開示方法など、管理運営についてしっかりしたルールを作っておかないといろいろ問題があると聞いており、そのために今課題の整理を行っている。いずれにしても、防犯カメラについては犯罪抑止などの設置効果が期待できると考えており、その設置について新年度に向けて検討しているところである。

☆住民

今の回答だと検討というだけで、具体的にいつどうアクションを起こすのかがないのだが。

★町長

新年度に設置する方向で検討しているということである。庁内で協議をしているということで、ご理解いただきたい。

☆座長

今日、富山市の防犯カメラ設置の件を聞いてきたが、設置には市で半額の補助があり、新庄北部で付けることになったそうである。そういうことも参考にして、プライバシーの問題なども当然あると思うが、マニュアルも作ってもらえればと思う。

（２）老朽家屋や屋敷跡対策及び空き家対策について

☆住民

桃李小学校正門前の屋敷跡について、この屋敷跡の下にアパートがあり、その屋上には枯れ葉やヘビ、カエルの死骸がいつもあるとのことで、年に２回ほど掃除をされると聞いている。ベランダにも時々枯れ葉が入ってくるそうである。また、屋敷跡周りには昔の堀の一部だという川があり、ここにも枯れ葉や木の枝が入って、江ざらいとクリーン作戦以外に役員だけが２回は掃除に入っている。歩道にも枯れ葉が積もり危険な時もある。皆さんも見たことがあると思うが、現在うっそうとした屋敷跡になっている。このような屋敷跡はどこにでもあると思うが、最近、子供や女性に対する犯罪が多いこともあり、特に桃李小学校の正門前であるので、何とかして明るくきれいになればと思う。何らかの方法で、町から力を貸してもらったり、アドバイスを受けたりとすることができればと思い、要望したい。

★建設下水道課長

全国的に空き家が増加し、住環境や防犯面で問題があることから、大きな社会問題になっている。町でも空き家が少しずつ増加し、似たような状況である。町では今年度、中心市街地と密集集落を対象に空き家実態調査を実施している。栲山地域の一部も調査対象であり、

〔 7. 梶山地区 〕

調査にあたって地域の区長や役員の方にはいろいろとお世話いただいた。この地域以外も今後できれば早々に調査をしていきたい。今回の調査は、空き家の中を調べるのではなく、外観目視で調査して危険度に応じて分類し、個別の空き家カルテや空き家の地図を作成している。今回、町の約3分の1を調査した結果、空き家戸数は310戸で全体戸数の約11%が空き家だった。これを有効に使えるような空き家、早めに対応が必要な空き家に分類している。

この調査結果を踏まえ、優良な空き家に関しては、定住促進や地域力の向上を図るための積極的な活用を促す施策を検討していきたい。また、皆さんが心配している危険家屋や老朽家屋などに関しては、解消していく。解消を図っていくためにも、まずは条例の制定などを進めたい。今の状態では個人の持ち物でなかなか解消できないのが現状であり、条例を作って、指導、勧告、命令など行政手段が行使できるような形にもっていききたい。

空き家対策は、環境や福祉、税、産業など様々な視点からの検討が必要であり、役場内部の関係部署からなる検討委員会を立ち上げ、検討していきたい。また、現在運用している空き家バンクも充実させ、登録数を増やしたい。空き家があれば借りたい、買いたいという声は結構多いが、空き家バンクの登録件数が少ない状況である。空き家バンクの充実を図るため、皆さんにも空き家所有者の方に登録を促していただきたい。

（３）再生広場のリサイクル品受入れの規制について

☆住民

再生広場にリサイクルのために包装材や容器を持って行った際、電気製品の発泡スチロールも持って行った。すると管理人に、食料品や飲料用のものしか持って来てはいけない、電気製品の保護材の発泡スチロールはだめだと言われた。町の「ごみの分け方・出し方早分かり便利帳」を見て、出して良いものを持って行くようにしているが、容器包装リサイクル法や入善町ホームページのくらしの情報など、何を調べても管理人の言っていることが間違っているように思う。もし飲食物の容器だけに決めているのなら、理由を聞かせてほしい。

また、各地区で毎月1回資源回収を受け付けているステーションではどのように対応しているのか。リサイクルに出せないと、ごみとして出すことになるが、法律の主旨に反しないか。提案として、リサイクル意識を改めて高めてもらうことと、資源回収を徹底するため、1度各地区を対象に各家庭1名程度集まってもらい、しっかり説明してはどうか。

★住民環境課長

事前に話を聞かせていただいたが、皆さんには本当にご迷惑をおかけした。再生広場や月1回の地区資源ステーションでのリサイクル品回収については、対象となる品目に何も変更はない。管理人に確認をとると、理解不足があり間違った指導をしていたとのことだった。管理人は町からの委託であり、町の指導監督不足で、この場を借りてお詫び申し上げる。今までどおり品目は変わらないので、リサイクル広場を利用してもらいたい。地区の資源ステーションも今までどおりである。今後もリサイクルの推進にご協力よろしくをお願いしたい。

説明会の話については、町では出前講座というものをやっている。地区で日時や場所を決めていただければ、いつでもどこでも伺うので、ぜひそういう場を設けていただければと、反対にこちらからお願いするところであり、ぜひご協力いただきたい。また、今回の広報の

配布に合わせ、最新版の「ごみの分け方・出し方早分かり便利帳」を全戸に配布した。こちらでも参考にごみの減量化、リサイクルにご協力をお願いしたい。

（４）その他

☆住民

燃やせないごみは、週 1 回月曜日に収集することになっているが、振替休日などがあると、次の収集日まで最大で 16 日間の間がある。そうすると、ステーションに入りきらないくらいのごみが集まるので、できれば週 2 回に増やしていただきたい。

★住民環境課長

燃やせないごみの収集については、黒部市の宮沢清掃センターで新川広域圏内の全市町分を処理しており、現在の施設容量や処理能力では週 2 回は困難ということである。毎年各家庭に配布している「ごみ、リサイクルカレンダー」を見て、計画的な排出に協力いただきたい。2 週間空くとごみがたくさんでステーションに入らないということは聞いている。町ではごみ集積ステーションに対して設置補助金制度を設け、設置費の 2 分の 1、15 万円程度を補助しており、活用いただきたい。これは、事前に設置場所などを役場に相談してもらい、協議した後での補助になるので、設置となれば早い時期に相談に来ていただきたい。

また、燃やせないごみの中にもプラスチックやペットボトルなど、きれいに洗えば再生広場に出せる物もある。リサイクルに回せるものは回してもらえれば少しは減量になるで、今後ともよろしくをお願いしたい。

☆住民

桃李小学校前の県道には、消雪設備が整備されていない個所がある。ＪＲアンダー工事に合わせて全線の消雪対策をぜひお願いしたい。

★建設下水道課長

県道小杉梶山新線は、県道入善朝日線の交差点から山側に向って、梶山新の交差点からガード下をくぐり、坂を上がって桃李小学校の前に上がってくる。この坂の部分は現在消雪設備がある。それ以外の個所に消雪設備をという要望だが、県に問い合わせたところ、桃李小学校前から山側については道路幅が広いので機械除雪で対応している。県は消雪施設を設置する条件として、人家連担率と言って家がずっとつながっているなど一定の基準が必要とのことである。道路幅が広い場合は除雪がしやすいことや、他の県道とのバランスや予算の面などもあり、設置は容易でなないと思われる。ただ、地区全体の要望ならば、町も一緒になって県入善土木事務所に要望したいと思うので、よろしくをお願いしたい。

☆住民

先ほど町長から説明があったが、来年は 6 年生まで学童保育をすると聞いている。特に桃李小学校区について詳しく説明いただきたい。

★町長

桃李小学校での学童保育については、施設面での制約があり、希望者全員を受け入れることがなかなかできず、地域の皆さんにはご迷惑をおかけしている。そういうことも踏まえ、10月に少子化対策、子育て支援の観点から検討会を立ち上げた。学童室の面積や指導員の確保について、教育委員会を交えながら、少子高齢化検討委員会で順次検討を進めている。今まで礼法室を使って学童保育を実施していたが、国の基準である一人あたり1.65㎡はクリアしている。ただ、ご指摘のように手狭で全員を受入れることができない状況であり、今後、新年度における正確な利用希望者をまず把握し、その上で希望する方全員の受け入れを、できれば隣にある書道室を放課後に開放する形で整備していきたい。できれば12月補正で予算化して3月までに内容を整理し、4月から受け入れできるように進めていきたいと考えている。何とか春からの希望者全員の受入体制をしっかりとできるようにしていきたい。

☆住民

町道君島梶山寺線について、街路樹の根による歩道の傷みや枝の茂みによる通行障害、さらには害虫による障害が発生している。町の管理体制はどうなっているのか聞きたい。

★建設下水道課長

町道君島梶山寺線については、両側の歩道に街路樹があり、山側にクスノキ、海側にイチヨウが植えられている。ご指摘のとおり、木が大きくなって根が持ち上がり、歩道路面を傷めているので2、3年前から緊急度の高いところから直している。区長から話を聞いており、町では急遽9月に予算を補正し、全面的な剪定をするための発注が済んだところである。業者とも打ち合わせ中で、冬期間にかかるかもしれないが、なるべく早く作業を終えたい。

☆住民

梶山公園にはブランコと滑り台があり、子供たちがよく利用しているが、滑り台の踊り場の鉄板の裏面が腐食し一部穴が開いている。大きな事故が起きる前に早急に修理をしていただきたい。また、遊具の管理はどのようなになっているのか聞きたい。

★建設下水道課長

梶山公園は、農林水産省所管の農村総合整備モデル事業で昭和52年度に整備した。整備にあわせ、滑り台の付いたスチール製の複合遊具や四連のブランコ、ゲートボール広場やトイレなどを設置した。管理については、2～3年に1度専門業者による定期的な安全点検を実施するとともに、担当職員及び公園管理人の皆さんにより、随時点検をしている。直近では平成25年度に実施し、複合遊具及びブランコの修繕を要するとの報告を受けたため、同年腐食部分の修繕工事を実施した。しかし、遊具は設置から37年が経過して老朽化が進み、腐食箇所が発生しているため、更新の必要性等も検討しながら考えていきたい。また、今回指摘の腐食部分については、昨年点検済だがもう一度点検してもらった。今後の対応をまた検討していきたい。

☆谷口議員

老朽家屋について、条例はいつまで作るのか。密集地の調査はしたが、今後農村部の調査の計画はどうなのか。また屋上にヘビやカエルなど、いろいろなものが飛び込んできているが、それは誰が掃除して何か保障はあるのか。持ち主とどういう話し合いをしているのか。

街路樹の落ち葉は落ちるのは当たり前なので、地域で協力するのも1つの案である。きれいなものを見たい、だけどあれば邪魔だと言われたらどうすることもできない。

★建設下水道課長

空き家対策の具体的なスケジュールについては、町としては今年度中に条例化の案を示し、議会の了解をいただけないかと考えている。条例がきちんと定まらないと、行政的な動きがとれないのが現実で、それまではあくまでもお願いという形で働きかけていくしかない。全国的にも各自治体で条例化が進んでおり、全国でいろいろな事例があるので、それらを参考に条例化に向けて今年度内を目途に進めていきたい。また、今年度は市街地や密集集落で調査してきたが、農村部の調査については来年度を目途に進めていきたい。

街路樹の件は、今年は大変迷惑をかけている。こまめに管理していきたいと思っているが、落ち葉になるとなかなか対応が難しい。すぐに全部なくなってくればいいが、徐々に落ちてくるので、これについては地元の皆さんのご理解ご協力をよろしくお願いしたい。

☆座長

桃李小学校の前であり、ぜひ進めてほしい。それと、老朽家屋もだが空き地について、町には耕作放棄地はおよそ3反歩ほどと少ないが、これから耕作放棄地が出たときに所有者との関係が1番問題になってくる。町長とも1度その話をしたことがあるが、町長の思いとして、活用されていない土地について今後どういう考えを持っていかれるのか聞きたい。

★町長

個人の所有物という面ではとても難しい。ただ、耕作放棄田は優良農地としてこれまで基盤整備を進めてきたので、その解消には積極的に取り組んでいきたい。地主の了解も得なければならないので、そういった方々との連携をしっかりと取りながら、理解を得られれば行政も何らかの形で支援する体制で放棄田の解消に努めていきたい。担当課長の説明のとおり、今の状態では要望することしかできないが、この後、条例が制定されれば何らかの対応策ができるように、空き地についての条項を盛り込むことができるか検討していきたい。

☆住民

学童保育の問題について、私は今まで指導者として6年間やってきたが、6年生まで受入れとなると全体で50人以上になる。そうなった時に、指導者がなかなか見つからない。今でも見つからないのに、子供を増やして指導者はどうするのか。また、書道室を使うという話だが狭い。子供は動けないと欲求不満になるので体育館を使いたい、学校では4時半まで体育館を使っており、それ以降にならないと学童保育で使えない。思い切り体を動かさないと子供たちは蹴り合いなどになってしまい、怪我させないように見ているのが精一杯である。

〔 7. 櫛山地区 〕

そうになったら、専従者を一人置いてもらいたい。現在、25日出勤したら82,000円だが、それだと専従者の担い手がない。できれば専従者は若い人になってもらいたい。それができないなら、教育委員会から一人出向させてほしい。私が以前いたところでは、教育委員会から一人出向させていた。そうすると全て見ているので、問題が起きた時どうしたらよいかすぐに分かる。私たちだけでは、問題が起きたときわざわざ教育委員会に行って説明しなければならない。出向してきていれば全て把握できる。また、今の学童保育料は安すぎる。全国平均でも7,000円なのだから、もう少し月謝を上げてほしい。そうすれば学童に来させない家も出てくる。そういう対応もとっていただければと思うので、よろしくお願ひしたい。

★教育委員会事務局長

学童保育の料金が安すぎるという意見について、現在、学童保育の保育料が3,000円とおやつ代1,000円で、保護者負担は月4,000円で運営している。指導者確保には私たちも本当に苦勞している。学童保育に協力しようという方が一人でも二人でもいれば、こちらからぜひお願ひしたい。専従者が必要だということで、教育委員会から出向してでも現場をきちんと管理しながら運営しなければいけないということだが、現状では厳しい部分がある。指導員の方と教育委員会の連携を密にし、指導員の数を増やしながら運営していきたい。増やしながらと言ってもこれが非常に難しいので、地域の皆さんの協力をぜひお願ひしたい。

☆住民

来年3月の北陸新幹線開業がとても待ち遠しいが、駅までの公共交通について、ここからだと入善駅まで行って、JRで魚津駅まで行き、地鉄に乗り換えて新しくできた黒部宇奈月駅に降りるルートになると思うが、あまり交通の便が良くない。町で運営している、のらんマイ・カーを利用して、新幹線の発着に合わせて役場前や入善駅前からの運行ができないか。

★農水商工課長

新幹線駅から入善へのアクセスについては、そちらからの二次交通の導入を視野に入れて検討を進めている。一度魚津に行って地鉄を使って行く方法、糸魚川からあいの風とやま鉄道を使って来る方法もあるが、やはり2時間半で来るのでストレートに入善に来られないかと、いろいろな方も言っている。新幹線効果を上げる意味でも二次交通にはぜひ取り組んでいきたい。ただ、新幹線は15往復あるが、それら全部に対して運行するのが良いのか、今ニーズを調査している。また、黒部市でも現在JR黒部駅から直接新幹線駅に行く方法がない。地鉄を使っては行けるが、黒部や生地から行く方法がなく、黒部市でも二次交通について検討が進められている。そこがどういう運行になるのか、入善町もこう考えているという意見のすり合わせを定期的にしており、連携しながらうまくつなぎ合わせるようにしたい。合わせてあいの風とやま鉄道の利用促進もしたい。いろいろなことの中で今整理している。

ちなみに、新幹線駅周辺には無料駐車場が約500台分できるので、自家用車利用の方法もある。また、タクシーも今までは入善のタクシーは黒部で営業できないなど、制限があったが、その制限も取れ、新川広域のタクシー業者がうまく連携して新幹線駅に一定数いるなど、皆さんの都合のいい方法を選択していく中で、町もバスの運行をやっていききたい。

【2】懇 談 会

8. 横山地区

開催日：平成 26 年 10 月 10 日(金)

会 場：横山漁村センター

町長あいさつ

「もっといい街、住みよい入善」を目指して

★町長

入善地区参照

議題「横山地区設定のテーマ」

（１）町道春日荒又線の一部拡幅について

☆住民

県道藤原横山君島線の春日交差点の近くから、ケアハウス春日の郷までの約 100mの区間は、幅員が狭く以前から道路拡幅の要望が出ている。当初は、町道東側の用水路を暗渠化して幅員を確保できないか要望していたが、道路の強度や用水路の維持管理が難しいこと、工事費用が大きくなるという理由で実現はなかなか難しかった。そこで、道路が少し曲がる形になるが、反対の西側の部分を広げてはと町から提案があった。住民の理解に少し時間がかかったが、それでもいいから道幅を広げてほしいと、地権者全員の同意書を添えて改めて要望書を提出した。この道路は地区住民の大事な生活道路で、通勤はもちろん通学路でもあり、何かあった時の災害対策避難道路でもある。工事用車両やバスなど大型車両も通り、通行上大変危険でリスクがあるため、1日も早く実現していただきたい。

★建設下水道課長

町道春日荒又線の拡幅については、以前から要望があり、本年4月半ばに西側の拡幅に係る地権者の同意書を添えて要望書をいただいた。この道路は、横山地区の中央部を南北に走る大事な路線として町も十分認識している。また、子供たちの通学路や災害があった場合にいち早く上部へ逃げる大事な道路とも認識している。町としては、他の地域とのバランス、ルートとルート間の連携を整理しながら、できるだけ早い段階で整備できるように検討していきたい。

（２）町道春日藤原線の拡幅について

☆住民

藤原の農事組合法人の倉庫から海岸に至る道路は、最近、海岸工事の大型ダンプの通行が多く、近くの住民がダンプを避けようとして田に落ちたと苦情がある。通行者が安全に通れるようにしてから大型ダンプを通して欲しい。旧国道から下の道路拡幅をぜひお願いしたい。

★建設下水道課長

町道春日藤原線は、県道藤原横山君島線から海側へ入り口は幅員が4、5m程度だが、海側の方は5、6m程度の幅員がある。人家の少ない路線だが、現在、県の海岸防災林工事のための車両が通行しており、また、国交省の海岸工事があるときにも大型の工事車両が多く通行するので、地元の皆様には大変迷惑をかけており協力に感謝申し上げます。この路線は他

の類似町道と比べると比較的広いが、今後は優先度等を勘案しながら計画させていただきたい。また、今後も工事関係で使われる道路であり、工事の際は安全対策をしっかりと確保しながら進めていきたいと考えており、ご協力いただきたい。

☆住民

年寄り一人が田に落ちて怪我し、その人が怒って農地林務かどこかに電話した。ダンプは砂埃をあげて 50 km くらいで走行し、その人は避けていたが風圧で田んぼに落ちた。通行許可は町が出すのか。地元は同意していないし回覧板も回っていないが、町はそれを確認していないのではないかと。許可する際にスピード制限、安全対策や看板など条件はないのか。

★建設下水道課長

県の海岸防災林の工事車両だと思う。町道なので町に話は来るが、その前に地元区長を通して同意を得てから町に来る。基本的に地域住民に迷惑をかけないように、安全対策をしっかりとすることが基本であり、きちんと地元の説明する、あるいは工事車両が通るための看板を立てるという、安全対策をきちんとしなければならないと決まっている。

☆住民

他の工事は回覧板が回っているが、今回に関しては回覧も案内もない。回覧で広報されないケースもあるのか。町の許可が出ているのなら、しっかり管理してもらわないと危ない。

★建設下水道課長

申し訳ない。通行許可を出しているが、基本的に地元にきちんと説明してから工事にかかるのが常識で、その辺を怠っていると思われる。これは県の工事だが、県に強く伝えたい。

（３）ＪＲ古黒部地内の踏切の拡幅について

☆住民

国道 8 号の廣川建設から北の方に、踏切を越えて旧国道である県道、さらにバイパスにつながる道路だが、踏切以外は数年前に拡幅され、地区住民も大変ありがたく思っている。その道路はかなり交通量があるが、踏切だけが狭く、これまでもＪＲに要望しているが難しいということで対応されていない。踏切は現在交互通行であり、大型車両や緊急車両が通るときは交通に支障が生じる恐れがある。来年以降、ＪＲは第三セクターに移行されるので、ぜひ町の支援を得て前進できればと考えている。

★建設下水道課長

町道古黒部国道線の古黒部地内のＪＲ踏切については、幅約 4.8m ですれ違いが難しく、さらに、道路は広いため工事車両等もよく通るのが現状である。町としても、廣川建設からずっと幅員 7 m、2 車線で整備してきた。踏切から下も新しいバイパスに向って幅員 7 m、2 車線で整備している。踏切だけが狭いので、町もこの踏切を 7 m まで拡幅したいと考えている。ただ、整備にあたっては「踏切道改良促進法」の指定を受けなければならないこと、

〔 8. 横山地区 〕

毎年ＪＲを含めた鉄道事業者、国交省、県、市町村の道路管理者が入った調整会議を開き、要望実現に向けた連絡調整を経なければならないことなど各種手続きがある。そこで町は毎年、古黒部の踏切を改良要望箇所の１つとして要望している。踏切を拡幅する際は鉄道事業者側も財政的負担をしなくてはならず、実際の整備はなかなかハードルが高いのが現状であるが、町としては今後も実現にむけて粘り強く要望していきたい。

☆住民

我々も、ＪＲという組織には踏切の拡幅にあたって非常に難しいルールがあると聞いており、現状では無理だと覚悟している。今後第三セクターになると、踏切拡幅にはこれまでと同様に、法律があったり会議を開いたりという体制がそのまま引き継がれていくのか。踏切拡幅の願いは、県内の皆さんが一樣に思っている問題だと思う。ＪＲから移行する第三セクターに入善町も出資しているのだから、踏切の拡幅問題に対してもっと地域住民に弾力的に対応できるような、そういう組織をぜひ作ってほしいと強くお願いしたい。

★企画財政課長

先日、あいの風とやま鉄道の専務と話をしたが、ＪＲ北陸本線の県内だけで踏切の拡幅要望は１００を超え、財政的な面もあると思うが、ＪＲでは県内で年間２つか３つ整備しているのが現状である。そうすると４０年も５０年もかかる話になる。町内では西から下飯野、田中、君島、古黒部の４つが大きな踏切で、県やＪＲへ要望している。今後これらがスムーズにいくのかについては、あいの風とやま鉄道にはそういうスタッフがまだおらず、これから養成していかななくてはいけないため、若干遅れるとのことである。また、費用負担についての考え方も示されなかった。今、下飯野踏切を工事しており、残る３つも早く実現できるよう努力していくが、あいの風とやま鉄道は来年３月からのスタートであり、そのスタートを無事乗り切るまで少し待ってもらいたいというのが正直なところである。町としても、踏切の拡幅整備を計画的に進めるよう要望していきたい。

（４）その他

☆住民

町長が町長選にあたって人口減少、子育てや結婚の対策を話されたとき、これは個人の問題で、行政がそこまで突っ込んで公約的に標榜するのはどうかと思ったが、担当部署を新設するなど一生懸命やっていて本気なのだなと思い、良いことだと思っている。以前、区長などと話していたら、やはり個人の問題なのでなかなか突っ込めないということだった。ＪＡにも結婚相談員がいるが、あまり成果を聞いたことがない。最近、南砺市で「おせっかいさん」という結婚を勧めるおばさんやおじさんがいて、少し成果が上がっていると聞いている。行政として担当者を置くのはもちろんよいことだが、住民にもおせっかいさんになってくれという雰囲気づくりをされたらどうか。

★町長

私も、結婚自体は個人の問題だということは十分認識している。したがって、強制的にで

はなく、希望する方の情報を取りまとめていきたいということが第1点である。あくまでも個人情報であり、その管理をしっかりとしていく必要があるので、そのセクションを役場の中で設けていきたい。ただ、いろいろな情報は役場職員だけでは収集できないので、地域の方で情報収集していただける方々も募りながら体制づくりをしたい。南砺市の事例も参考にしていきたいが、真似事ではいいことにはならないと思うので、そういった情報を精査しながら、入善町らしい相談体制を作っていきたいのでご協力をお願いしたい。

☆住民

北陸新幹線開業ということで二次交通の話をされたが、今わかる範囲でいいのでどういふようになるのか聞かせてほしい。

★農水商工課長

新幹線は、黒部宇奈月温泉駅には15本程度停車するというので、そこから入善駅に来るとなると、現状ではタクシー、レンタカー、誰かの送迎、地鉄の新駅ができるが、現在のJRと接続するのは魚津駅になる。すると、東京から2時間半で来たにもかかわらず、入善に来るまで相当時間がかかる。そういうことも踏まえ、いろいろな方から要望があり、直接入善に入って来るにはどうしたらいいか検討している。ただ、空で走らせてもということもあり、ニーズに合わせどの程度走らせればいいのか検討している。また、黒部市も現在のJR黒部駅と直結する方法がなく、その方法を検討している。黒部市や朝日町と情報交換しつつ、町でも直接入って来る二次交通を実現する方向で検討を進めている。

☆住民

古黒部地区が抱えている大きな問題点を4点話したい。まず1点目は、先ほど話した踏切の件なので省略する。

2点目は、町道の整備について。古黒部地区は最近ほ場整備をした。これにあわせて幅員の狭い町道を拡幅する予定で、担当課の意見も聞きながら、地区から無償で土地を提供する形で町道の横に用地を確保した。ただ現状を見ると、道路は広くなったように見えるがまだ手付かずの状態で、広い道路の真ん中に電柱があったり、確保した用地と既存の町道とに段差が生じて非常に危険な状態になっていたり、草もかなり生えていたりしているので、どうか早々に計画どおり整備してもらいたい。もう1つ町道に関して、ほ場整備にあわせ、いろいろな理由があって町道を一時農道に格下げした道路がある。間もなく換地も終わるので、速やかに再度町道に引き上げてもらい、きれいな道路として整備してもらいたい。

3点目は、農道の舗装に関して、ほ場整備をしていただき大変すばらしい農村環境が整ったが、ほ場整備事業では農道を舗装することはできなかった。他地区ではどんな農道でも隅々まで舗装されているが、古黒部では全く舗装されていない。住民とすれば、末永く農業を愛し守っていききたいと思っている。町長の所信の中で安定的な農業経営等も話されたが、そのためにも、どうか早々に農道の舗装をお願いしたい。もちろん私たちが応分の負担をする気はある。法律的な問題もあると耳にしているが、町長のような行政経験も長い方で、またアイデアマンの方とすれば、いろいろな方法で何とかしてもらえるのではないかと。

〔 8. 横山地区 〕

4 点目は、国道 8 号小川橋の入善側約 160mにある、古黒部の主要道路である町道古黒部国道線との交差点に信号機を付けていただきたい。現在、国交省が歩道整備工事をしているが、完成すると右折専用ラインも確保され立派な交差点になる。また、この交差点は南側にセレモニーホールやらくちへの、ごみ焼却場があり交通量が多く、ぜひ信号機を付けてもらいたい。設置については、町は直接の担当ではないが、いろいろな機関に要望していただきたい。この件は昨年のもちづくり懇談会でも提案したが、町からいろいろな関係機関への要望書の中に組み入れるという話をいただいた。その後どうなったのか聞かせていただきたい。

★町長

J R の踏切については、町内に大きな踏切が 4 つあり、長年それぞれ拡幅の要望をしてきたが、ようやく今年下飯野の拡幅工事に漕ぎ着けた。問題は来年以降、あいの風とやま鉄道に移行してからどうなるかについては、先ほど企画財政課長が言ったとおりである。ただ、1 つの地域が J R で分断されている地域でもあり、そういったことから早急に拡幅していかなければならないと考えている。今後も機会を捉えて積極的に要望していきたい。

町道に関しては、私もどの場所か分からないので後日聞かせていただきたい。ただ、ほ場整備に絡んだ農道関係は補助金適化法という法律があり、基本的に 8 年間は触れないのが現状だと思う。そういったことから、どうすれば早く舗装も含めた整備が可能なのか、また働きかけるための調査をしたいと思うが、私が聞いている範囲ではなかなか厳しい状況である。

★企画財政課長

信号に関する要望は、実は 24 年度まではほとんど行ってこなかったが、古黒部だけでなく他地区でも要望は出ている。10 年来要望しているのに町は何をしているのかとお叱りを受けた地区もある。そこで、25 年度から信号設置について県知事、県警に要望している。今年度も知事要望にあわせて県警に要望してきた。そこで聞いた話では、信号の要望は県内 100 箇所ほどあり、1 箇所あたり約 2,000 万円かかる。県の信号の通常予算は 1 億円で、いろいろあって 25 年度は 2 億円付いたそうである。これは余談だが、県警からどこかの信号機を外して動かせる場所はないかと聞かれ、町が今 5、6 箇所の新設を要望しているのに、そういう話はやめてくれとお断りしたが、県警ではどうしようもないので町から予算を多く付けてくれるように要望してくれと、逆にお願いされた。危険箇所には信号が必要という認識は町も持っている。特に新幹線側道では年間数回の衝突事故も起きており、古黒部の交差点についても十分認識している。今後も県警や県知事への要望活動を粘り強く重ねていきたい。

★建設下水道課長

町道の要望について、元々 4 m 程度の道路だったのを、ほ場整備にあわせて拡幅しようということで、地元の要望もあり、ほ場整備事業で 6 メートル程度に広げたが、旧の道路の外側に電柱があり、さらにその外側に拡幅済みの水路があるという状況である。ただ、古黒部北部地区はほ場整備の最終段階である本換地作業の段階で、現在広がった部分はまだきちんと入善町という形で整理されていない。底地がきれいに町の名義として整理されてから、取りかかっていきたい。また、南部地区でも道路改良整備の工事を発注している。藤原に向っ

ていく横道だが、本換地が整理された後、順次整備していければと思っている。

また、以前町道だったものを農道に格下げした場所があるが、これは道路をほ場整備の形状にあわせてほ場整備事業で整備するため、わざわざ町道から農道に落としている。先ほど町長が話したとおり補助金適化法というものがあり、田の区画整理をすると同時に道路整備をするために、国の補助金が使われていることに対して、8年間は触ってはだめという制約があり、少し時間がかかるというのが1点。また、先ほどの話は南部地区のことだと思うが、ほ場整備での農道が砂利のままなので舗装するという話もある。これについては前々から地区から聞いており、こちらも補助金適化法と照らし合わせながら対応していきたい。

☆住民

今、1番気にしているのは海岸の松林である。これについては、松田議員、佐藤議員に紹介してもらったり立ち会ってもらったり協力いただいているが、常緑樹なのに紅葉する。虫が入るため、その度に町にも話をしているが、県土木や国交省の海岸事務所をお願いして、比較的順調に伐採してもらっている。ただ、町全体を見るとかなりの数が赤くなっている。20年くらい前までは、ヘリコプターで農薬をまいていた時代もあったと聞いた。町から県土木や国交省に伝えてもらい、農薬をまく方法がないか検討していただきたい。また、八幡と横山の海岸で離岸堤や堤防の補強、それから大川というところで冬場に波が堤防を越える。これも海岸事務所などに行って話しているが、町からも改めて言ってもらいたい。

★建設下水道課長

海岸の松林の立ち枯れについては、原因は松くい虫だと思うが、立ち枯れが発生すると町・県・国一緒になって何らかの対応ということで、伐採等を進めている。農薬をまいていたという話は、私は初耳である。松くい虫は元気なうちに中に入っていく、やっつけるだけやっつけて出ていく。それから枯れ始めるので、いつ虫が入ってきたのか分かりにくい。農薬散布が有効かどうかも含めて県と相談していきたい。

2点目の離岸堤については、大川という横山排水の河口のすぐそばに、離岸堤と離岸堤の開口部があり、そこから波が入りやすく、越波して砂利が飛んでくると前々から聞いている。国交省には、この件で地元から強く要望があると伝えてある。ただ国交省では、背後地に人家が多い場所を優先している。どうしても優先順位を付けざるをえないということで、現在、吉原地区の離岸堤、副離岸堤の整備、それから飯野地区の五十里、神子沢地区の集落がある場所、それと横山、八幡地区。そこは副離岸堤があいているところがあり、要望を聞いているので国交省には伝えてある。国交省もそれについては理解を示しており、吉原、飯野が終われば検討していきたいということなので、もうしばらく待っていただきたい。

☆住民

役場での結婚相談については、全面的に表に出て頑張っていただきたい。町では1年間に300人くらい人口が減少している。日本の国もこのままいけば8千万人を割ってしまうのではないか。役場で若い男女の出会いの場を設けてサポートするのは全面的に賛成であり、まず出生率の増加を図るために素晴らしいアイデアだと思う。

〔 8. 横山地区 〕

もう1つは、老人に優しいソフト面も前向きに考えていただきたい。町には総合病院がなく、高齢者は車を使ってあさひ総合病院や黒部市民病院に行く。車で行くにも家族は働いていて、それでも日中しか病院に行けないためタクシーを使うが、あさひ総合病院に行くとき片道1,800円、往復3,600円かかる。アクセスをもう少し考えて、高齢者に優しい、いたわりのある行政をお願いしたい。車を持っている方には何でもないことかもしれないが、高齢者にはなかなか難しいという現状を深く考えていただきたい。行政の中に温かみを持って、住みよい街から住んでみたい街というキャッチフレーズにステップアップしていただきたい。

☆住民

病院に通う足がないという話があったが、先ほど町長の話の中に公共交通網と都市空間の整備があり、交通弱者対策を早急に講じるとのことで、ありがたく思っている。町営バスがあさひ総合病院や黒部市民病院まで行ってくれたらという声があるが、町長からも近隣市町と連携を図るという話もあったので、そういう乗り入れが可能なのか教えてほしい。また、デマンド方式というのが分からないので、解説してもらえるとありがたい。

★町長

デマンドとは、皆さんに登録してもらい、登録者が利用したい時間帯に事前に申し込みれば家まで迎えに行くというシステムで、全国的に広がりつつある。現状の町営バスは一定の路線を通るため、そこから離れることができない。そのため、路線の近くの人には利用しやすいが、離れている人は利用しづらいという問題があり、そこをまず解消したい。町営バスは空気を運んでいるとよく言われるが、正直なところ私もそう思うし、現状ではお客さんが乗らない方が運転手にとって楽になる。少しでも乗ってもらうために努力するようなシステムに変えていくべきだというのがまず基本である。なるべく多くの方に利用してもらえるシステムを早急に立ち上げたいというのが、デマンドも含めてという内容である。

もう1点、病院通いという関係については、確かに黒部市民病院やあさひ総合病院などに通っている方が多い訳だが、ただ入善町の中にも開業医はたくさんいる。したがって、病院へ行くためにという名目だけでは、なかなか近隣の市町と連携はとれないと思う。場合によっては買い物や病院ばかりでなく、いろいろなところでの交流を図るという意味合いも含めた相互乗り入れはできないか検討しながら、その結果として病院に行くことにも利用できればよいと思っている。まず、町のデマンド方式、交通形態がきっちり決まった段階で近隣市町と協議していきたいと思うので、ご理解いただきたい。

私のコンセプトは、もっといい街、住みよい入善であり、今まで通りではなく、少しずつでも変えながら一生懸命取り組んでいきたい。そのためにも、若い人たちが働ける企業誘致も大切であり、そこで生活していく住宅政策、子供たちの環境をきちんと整えていくという一連の流れをどう作っていくかによって、結果として住んでみたい街になるのではないかと考えている。それを目指して一生懸命頑張っていくので、よろしくをお願いしたい。

【2】懇 談 会

9. 舟見地区

開催日：平成 26 年 10 月 22 日(水)

会 場：舟見交流センター

町長あいさつ

「もっといい街、住みよい入善」を目指して

★町長

入善地区参照

議題 舟見地区設定のテーマ

（１）舟見地区の観光資源整備について

☆住民

舟見地区には山があり、川、大地から成り立つ地形は自然と景観に恵まれている。また、温泉が湧き出したことから、町では観光資源と位置付けて開発や整備が進められているが、一方では、舟見城址館を核とした谷江の周辺について開発整備の可能性はまだ残している。今後これらの整備充実と、まだ整備の進んでいないアクセス道路の改良整備が求められる。そこでまず、舟見山自然公園の整備計画について、昨年の話では、林道の分岐点から自然公園までつながる町道は、25年度で測量設計を委託しているとのことであり、26年27年度で整備できないかとのことだったが、今年から測量が行われていると聞いている。今後の整備の見通しはどのようなになっているのか。また、ぜひとも上から下まで大型バスが通行可能になるように整備をお願いしたい。

次に熊坂隧道の整備について、現在県と交渉中と聞いているが、計画実施に向けて全力であたってほしい。林道計画については花房地区とつながる林道の整備計画があると聞いているが、実現すれば朝日町の観光施設との連携も視野に入り利便性も向上するので、ぜひ実現をお願いしたい。

また、舟見山自然公園線の桜並木を整備して桜の名所にするとともに、舟川ダム周辺にも桜を植えて将来桜の名所にしてはどうか。

★建設下水道課長

舟見山自然公園線の整備の見通しについては、林道中野線の分岐点から舟見山駐車場までの区間で約360mあるが、この4m道路を7mに広げる計画を進めている。昨年、国の社会資本総合整備事業を活用して取り組んでいる。現在、実施設計及び立木の調査、用地測量など着々と進んでいて、もうすぐ発注できるところまで来ている。準備が整い次第、発注して、工事に取り掛かっていきたい。その際には、大量の土砂運搬など工事車両が通ることになり、地区の皆さんにはご迷惑をおかけすることになるが、ご協力をお願いしたい。今後の予定は、まず木の伐採から準備を進めていきたいと考えており、11月11日から舟見城址館を休館とし、立木の伐採等の作業に入りたいと考えているので、ご協力いただきたい。

また、大型バスで上がって行けないかということだが、下の方からどのように上がって行けばいいか、役場の中でも考えているところである。新左近橋から上がってくるルートや、バーデン明日側から回りこんで行くルートなどいろいろ考えられるが、県の基幹林道事業でできないか調整しているところである。ある程度方針ができ上がってくれば、地元の皆さん

にお知らせしたいと考えている。

2点目の熊坂隧道の整備については、現在、熊坂隧道のトンネルは危険なために閉鎖している。先ほども言った県の基幹林道事業も視野に入れながら、対応できないか県と協議しながら進めている。町で基礎調査をしたところ、トンネルを整備するだけで事業費が3億5千万円から4億円という巨額な費用がかかると分かってきた。それに対する費用対効果を調べて県に報告しながら、県と協議していかなければならない状況だが、費用対効果がなかなか上がってこない。トンネル1本整備するのにこれだけの費用がかかるということで、町としても大変苦慮している。しかしながら、関係機関である県に対して整備に向けた働きかけを続け、粘り強く交渉していきたい。

3点目の舟見山自然公園線の桜並木、舟川ダムに続く道路の桜の植樹について、町では舟見の念興寺、上野の浄蓮寺あるいは杉沢の沢スギ等において、桜の新品種が相次いで確認されるなど、桜への関心が高まっていると思っている。県内でも山間部に桜の自生が多く見られ、舟見山周辺についても桜の植樹に適しているのかなと思う。ただ、桜並木の整備となると、樹木の維持管理が付いて回ってくる。町内には横山排水などいろいろな所で桜並木があり、地元の皆さんに一生懸命管理していただいている。樹木の維持管理をきちんとしていかなければならないことや、道路沿いになると道路の安全性確保の面、根の肥大による道路舗装への影響など、いろいろな面で慎重に検討していければと考えている。

☆住民

熊坂隧道は掘割にしてはどうか。私の考えではその方が安上がりのように思う。

★建設下水道課長

いろいろなアイデアがあると思う。地権者の問題などいろいろ出てくると思うが、そういったことも視野にいれながら全体的に見て考えていきたい。

（2）舟見山、中谷の砂防堰堤整備について

☆住民

舟見山、中谷の砂防堰堤は、流出土砂で満杯になっており、必要な防災対策をお願いしたい。今年は異常気象とも言える雨による災害が全国で発生した。広島県での災害は甚大なものとなっている。舟見地区の中谷では、一昨年の雨で2箇所の砂防堰堤が満杯となった。特に上部の堰堤の上流は大量の土砂であふれている。幸いにも今年はゲリラ的集中豪雨には見舞われなかったが、もしあのような集中豪雨があれば大量の土砂が一気に流れ出し、田畑や下流の温泉施設に甚大な影響を与え、人命が危険にさらされることが危惧される。砂防堰堤の状況を調査して、必要な対策をお願いしたい。

★建設下水道課長

中谷には1号、2号の2つの砂防堰堤があり、県で整備、管理を行っている。ご指摘のとおり、現在両方の堰堤ともに土砂が堆積して、ほぼ満杯状態になっている。砂防堰堤の働きとして、一時的に大量の土砂が堆積しても、その後の出水で徐々に流されて、だんだん堆積

〔 9.舟見地区 〕

量が減っていくとともに、河川の勾配も緩くなり、新たに土石流が流れてきても再度土砂を貯めるという機能を持っている。入善土木事務所に確認したところ、現在の状況でも砂防堰堤の本来の機能は損なわれていないので心配することはない、また、舟川については県内の他の河川と比較しても砂防堰堤の整備はかなり高いレベルにあると言っていた。

堰堤には、対砂防というものと、その他に治山堰堤というもう1つの意味の堰堤があり、こちらは農林水産系になり新川農林振興センターが担当だが、治山事業で堰堤を設置する計画があるとも聞いている。中谷の上流部については、山の崩れを抑制し、砂防堰堤と同様の機能を持つ治山堰堤の計画をしていきたい、また、今後整備実現に向けて国の予算の確保など調整を図っていききたいと言っている。町としても、県との連絡を密にしながら、防災対策にもつながるので、充実に向けた整備促進を働きかけていきたい。

（３）空き家・空き地対策について

☆住民

近年空き家等が増加しており、地区における大きな問題となっている。防犯、安全なまちづくりの観点からも、急速な対策が望まれる。空き家所有者との調整などもあり、困難な問題も多いと思うが、長期間空き家・空き地となっているのは防犯面などいろいろな問題がある。今年実施した空き家・空き地実態調査及び専門家による調査の結果に基づいて、国、県、町が空き家・空き地対策を協議されていると思うが、今後の見通しについて聞きたい。

★建設下水道課長

少子高齢化を伴う人口減少の進展により、全国的に空き家が増加しているのは皆さんご承知のとおりである。空き家が増えていくと、景観や住環境、さらには防犯面においても問題があることから、大きな社会問題になっている。町も似たような状況であり、舟見地区に限らず他の地区でも増えてきている。県では24年度から、県や市町村の担当者を交えた空き家対策に関する検討会を開催しており、先進事例の紹介や検討など積極的に進められている。町においても今年度、中心市街地と既存集落について空き家の実態調査を実施した。舟見地区も調査の対象としており、調査にあたっては地域の皆さんにご協力をいただきながら、事前調査をお願いしたところである。この調査はどういうものかと言うと、空き家の中に入る訳にはいけないので、外観を目視し、専門家を呼んで調査をするというもので、4段階にわけて結果を出すものである。

今回、入善の市街地、それから既存集落の舟見、横山、吉原、芦崎という、特に住宅が密集しているところを中心に調査をした。町全体の住宅戸数の約3分の1が調査対象になり、舟見地区においても空き家は何戸かあった。今年調査した地域を見ると、全体で310戸の空き家があり、空き家率は約11%であった。その中でも舟見集落では48戸の空き家があり、空き家率は約14%で、平均から見ると少し高かった。今後は、定住促進や地域力の向上を図るための、空き家の積極的な利活用を考えていきたいのが1点。また、中には非常に危険な空き家もあるということで、危険家屋の解消を図るため、町独自の空き家対策の条例の制定をしていかなければいけないと考えている。あくまでも空き家については個人の所有物であり、ある程度の決まりを設けないと、町もなかなか手を出せないという面もある。条例制定

に向けて検討を進めていきたいと考えている。

先ほど利活用という面でも話したが、環境面、福祉関係、税、産業などいろいろな視点からの利活用の検討が考えられることから、役場の内部でも関係部署からなる検討委員会を立ち上げ、検討していければと考えている。また、空き家バンクについても、不動産関係者との連携も検討しながら充実を図っていきたいと考えている。町の空き家バンクの登録件数がとても少ないのだが、町外の方から空き家の問い合わせは結構ある。バンクに対して需要の方が圧倒的に多いと思っており、ぜひ空き家バンクの登録件数を増やしていきたいので、舟見地区においても、空き家所有者の方を知っていれば、登録を促していただければと思うので、よろしくお願いしたい。

☆住民

空き家の問題は、昨年もこのまちづくり懇談会で出たので、意見として述べたい。所有者の関係でなかなかスムーズにいかない問題もあると思う。1カ月ほど前に富山県のクイズでやっていたが、富山県は500軒に1軒の割合か、200軒に1軒の割合か8軒に1軒の割合かというので、私は200軒に1軒の割合かと思っていたが8軒に1軒が空き家とのことで、そんなにも多いのかと思った。倒壊、火災、若者のたまり場などが一般的には問題となっているが、舟見地区で一番の問題は、冬期間の降雪であり、空き家の前の本通りの歩道が除雪できない。そのため、子供たちは車道を歩かなくてはならず、安全面にも問題がある。ボランティア精神で隣の方が歩道を除雪しているが、50cmもどさっと積もると、自分の家の除雪をするのに精一杯で、隣の家への歩道までは目が届かない。

★建設下水道課長

本通りが県道ということで、前の区長会長と一緒に入善土木事務所に行って、県で何とかできないかお願いしてきた経緯がある。その結果、地域で何とか歩道除雪ができないかと話があり、雪を飛ばすタイプの小型除雪機械を貸与してもらい、地元で運用しながら対応していただいている事例が1つある。空き家や空き地の前の歩道が除雪されないということで、1台だけでは足りないとも聞いており、今後も地区の方と一緒に県に要望活動できないかと考えていきたい。

☆住民

今話されたように、県土木にお願いして空き家前の除雪が何とかならないかということで、県から小型除雪機を借り受けた。砺波市の梅檀野地区の例を参考に導入していただいたのだが、路肩幅が非常に狭いうえに電柱が立っており、なかなか小型の除雪機でも通りにくい。県道朝日宇奈月線の一部で電柱を移動して路肩を広げている事例があったので、そうすれば、通りやすくなるのではないかと。当然のことながら地権者の同意が必要になってくるので、難しい問題だとは思いますが、当地区では今後も空き家が増えるであろう。どうしても今出ている問題は避けては通れない問題ということで、いろいろと考えていく必要がある。事例も踏まえて、県との話し合いの際に1つのテーマとして対応してもらえるとありがたい。

★建設下水道課長

地区の皆さんと一緒に県への要望を行っていききたいので、よろしくお願いしたい。

☆住民

倒壊家屋を処理するということに関して、新聞を見ていると、財務省の審議委員会で、増え続ける空き家に対する固定資産税の在り方を、見直す時期に来ているのではないかという提言がなされていた。宅地に建物が建っていると、特例で税が 200 ㎡を境に 6 分の 1 なり 3 分の 1 に軽減され、建物がなくなると特例が受けられなくなり、税金が 3 倍や 6 倍になるということを知っている。空き家を壊したら税金がボンと上がってきたという事態も起こりかねないので、財務省の審議会がそういう提言をされたことについて、これは町の税収にもつながることであり、町として考えがあるのならお聞かせ願いたい。

★町長

空き家については、再利用、利活用できる物と取壊しを余儀なくされる物と、大きく分けて 2 つに分けられると考えている。問題の取り壊すべき空き家について、ご指摘があったように、取り壊して更地にした場合、200 ㎡まではこれまで 6 分の 1 の固定資産税だったものが 6 倍に膨れ上がる。それを超える物は 3 倍に上がっていくということがあり、なかなか取壊しまでの決断ができないということがある。もう 1 つは、取壊し自体に費用がかかることもあり、なかなか思い切ってもらえないとも聞いている。町とすれば、空き家実態調査も踏まえて条例の制定も視野に入れている。そういう中で、個人の財産でも町の権限で、ある程度の指導、監督できる体制づくりと、加えて今ご指摘があったような、固定資産税の関係も含めた支援をできる体制を検討していきたいと思っているので、よろしくお願いしたい。

★建設下水道課長

空き家を解体するにはお金がかかるので、町では空き家解体に対する補助、支援制度がある。これはあくまでも空き家を取り壊して、空き地を空き家バンクに登録してもらうのが前提になる訳だが、町では 4 分の 1 以内、上限 20 万円まで補助している。付属の納屋や車庫などにも上限 10 万円までの支援制度を設けており、実績もある。空き家の所有者の方をご存知なら、こういう制度もあるとぜひ PR していただきたい。

（４）その他

☆住民

先ほど町長の話にもあったが、新幹線が開業すると黒部宇奈月温泉駅までどうやって行けるかがまず気になると思う。自家用車で行く場合と公共交通機関を使って行く場合があると思うが、自家用車で行った場合、どこに停めて良いか分からず、もたもたして新幹線に乗り遅れるかもしれない。駐車場に入善町優先のエリアを設けるとか、何か妙案がないかと思うのだが。二次交通の話で地铁やタクシー会社などとタイアップして何か考えているのか、それともコミュニティバスのようなもので、駅に行く路線を作ってもらえるのか。私の考えでは、東京に行き来するのが利用のメインだと思う。関西に行くのは今の JR でも結構早いのであ

まりないと思う。こちらから東京に向う電車に間に合うようにバスが行き、東京から来た乗客を乗せて帰ってくるような、そういうダイヤを作れないか。何本停車するか分からないが、舟見から野中、新屋を通して駅に行くような感じで、何か考えてもらえないか。

★企画財政課長

まず駐車場について、黒部市では約 500 台用意している。ただ、駐車場から少し歩く必要がある。また、駅前にロータリーが整備されているが、タクシー、観光バスを優先したいとの考えで、送迎の車をロータリーの中に入れることは考えていないというのが黒部市の考えである。送迎の車の一時的な駐車については、別の場所になるようである。

二次交通の話については、町とすれば舟見を回ってなどは、ちょっと難しいかと思っている。ただ、東京から来られた方、また金沢から来られた方が新幹線の駅を降りた時に、入善へ行くのにどうすればいいのかという問題もあると思う。例えば、東京から 2 時間で来たのに、入善駅まで 1 時間かかるとかおかしな話なので、その辺の二次交通に関しては検討中である。できればメインとなる新幹線駅と市街地の部分で、東京から来た方をある程度優先しながら考えている。年内には方針を決めて、3 月にはスタートしたいと思っている。できれば、タクシーや近所の方に送迎を頼んで対応していただければと思うので、お願いしたい。

☆住民

学童保育について、昨年の 4 月からひばり野小学校校下でも学童保育が開始され、非常に良いことだと思っている。私も運営委員会の評議員になっている。現在、小学校 1 年生から 3 年生まで 10 人が加入している。先だって神戸市長田区で小学 1 年女子児童が下校後殺害される悲しい事件が発生し、家に帰った後の児童の安全対策が問題になってきた。一度家に帰ると、2 人以上で遊ぶことや親子で遊ぶことは困難な面が多く、学童保育の必要性が重要となってきた。先ほど町長は、6 年生までの学童保育を考えていると言われたが、そうなれば当然指導室の拡張が必要になってくるが、これはどのように考えているのか。家で保育することができないことが条件となっているが、希望すれば、保護者や祖父母がいても受け入れてもらえるのか。また、毎月の活動費が 3,000 円。おやつなどの会食費が 1,000 円、合計 4,000 円となっているが、保護者にとっていくら子供のためとはいえ毎月 4,000 円はどうか。多いのか少ないのか分からないが、もう少し軽減できないだろうか。

★教育委員会事務局長

部屋の拡張については、8 月に現在の保育所の年長から 5 年生までに希望アンケートを実施した。もちろん 3 年生まで 10 人いて 6 年生までいけば倍になるのではという心配もあると思うが、現実にはスポーツ少年団の活動に進むとか、現時点で学童保育を使いたいという希望は非常に少ない状況である。今言われた事件が関わってくると若干変わってくることがあるかと思うが、ひばり野においては、部屋の拡張や施設を改築するということまではいかないと考えている。

現在の学童保育については、国の補助を受けながら、保育に欠けるという絶対条件のもとで運営しているが、この部分についても先ほど町長が言ったように、希望されれば保育を受

〔 9.舟見地区 〕

けるというスタンスへ、何とか取り組んでいけないか検討しているところである。

活動費については、現在の 4,000 円という料金は町で一律に設定していて、どこに行っても隔たりなく料金を設定している。実際に学童保育の料金設定がどうかということですが、保護者の負担を減らそうということで、補助や町の負担は非常に高い状況である。課題として今後検討していかなければいけないと考えているので、ご理解いただきたい。

★町長

少し補足をさせていただきたい。まず、ひばり野小学校で行われている学童保育の施設面での不都合があれば、検討させていただきたいと思うが、現状や今後の 6 年生までの受け入れ希望者のことを検討しても、何とかやりくりできるスペースがあると思っている。不都合があればまた相談いただきたい。また、希望者全員ということについては、補助金の制約がある。ただ、私の考えからすれば、希望者全員が参加できるような柔軟性を持って対応していきたいと考えているので、参加希望される方については極力入れていきたいと思っている。

また、4,000 円が高いか安いかは難しい判断だと思うが、私は議員の時に、石川県野々市市の学童保育を視察したが、内容的には若干の差はあるとはいえ、野々市市では月額 1 万円であった。また、近隣の市などでも、春休みや夏休みの期間中は時間が長くなるので、上乘せしていると聞いている。そういったことから考えれば、入善町の 4,000 円というのは適切な額ではないかと思うが、保護者の方の意見なども踏まえながら、今後検討させていただければと考えている。

【2】懇 談 会

10. 野中地区

開催日：平成 26 年 10 月 20 日(月)

会 場：野中地区交流センター

町長あいさつ

「もっといい街、住みよい入善」を目指して

★町長

入善地区参照

議題 「野中地区設定のテーマ」

（１）道路改良の促進について

☆住民

1 点目は、主要地方道黒部朝日公園線の早期整備についてである。この県道は野中地区の幹線ということもあり、町でも期成同盟会がある。地元でも促進協議会を作って要望している。先日、92 歳の方が野中地区の改良を見て喜んでいたという投書が北日本新聞にあった。しかし橋の改良ということについて、安全性に懸念を持っているとも書いてあった。このように、年齢が高い方も若い方も黒部朝日公園線の改良については悲願である。新幹線の開通にあわせて、この道路は山手のアクセス道路、あるいは高速道路のアクセス道路にもなる。これは県道であるで、県に引き続き要望していただきたい。

もう 1 点は、町道 2 路線の改良である。まず、西中中沢線について、西中地内から中沢地内の黒部朝日公園線まで改良が進み、完成間近になっている。その先には下山芸術の森があり、そこまで改良していただければ利便性が大変良いのではないかと思う。その辺をご理解いただき、改良を要望したい。

もう 1 路線は舟見野線について、舟見地内から野中地内まで来ており、町道野中西中線まで改良がされ、ひばり野小学校の通学路として指定されている。そこから 400m ほど先に黒部朝日公園線がある。そこまで延ばしていただければ、通学路として危険な路線がある程度解消されるのではないかと地元は考えている。この路線について、さらなる延伸という話もあるが、とりあえずは黒部朝日公園線まで延伸していただきたい。

★建設下水道課長

1 点目の主要地方道黒部朝日公園線については、この路線は入善町の山手の東西を結ぶ幹線道路、さらに北陸新幹線駅へのアクセス道路ということで、特に今後も需要が高まることが見込めると思っている。県によると、この路線については野中地区内では中沢の水野さんの交差点から東の朝日町の町境まで全体で 1,600m ある。このうち野中区間ということで、稲村の瓦屋さんの交差点から東側、森本さんの宅道まで 500m の区間を整備中である。計画区間 500m の中で、県道舟見入善線との交差点の部分を残すのみとなっているが、要望のある中沢工区、今江古林工区も引き続き早期にしていきたいと、県に対する重点要望として毎年要望を行っている。今年も 6 月 27 日に県知事にお会いし、この道路の重要性、拡幅要望をしてきた。引き続き粘り強く県に働きかけていきたい。

2 点目の町道西中中沢線の改良については、西中の公民館から海側に下がって行き、県道黒部朝日公園線との交差点のところまで約 660m である。平成 23 年度から国の社会資本総合

整備事業を活用しながら整備をしてきた。現在通行止めで不便をかけていると思うが、後は舗装工事を残すのみである。今年の11月末には完成し、県道までは今年度で完成する予定で進めている。ご要望の県道から海側の区間については、平成23年4月に地元中沢地区から引き続き海側の拡幅の要望書をいただいている。この区間には下山芸術の森などの公共施設もあり、中沢地区の子供たちの通学路でもある。さらに山側に行くと黒部市がある。海側には朝日町があり、1市2町をつなぐ重要な道路と認識している。この区間については、海側の朝日町との調整、県道から県道を結んでいこうとなれば、入善の区間と朝日町の区間もあるので、中沢区間だけ広げれば良いというものでもないという考えももっている。できれば朝日町とも協力しながら、タイミングをあわせて整備できないかという思いもあり、連携・調整が大事になってくる。また、関係機関、朝日町との関係、他地区とのバランスなどもあり、今後じっくりと検討させていただきたい。

3点目の町道舟見野線については、ひばり野小学校への通学路ということで、窪野秀一さん宅の海側の交差点から愛本まで整備が完了しているが、今回は海側の県道黒部朝日線までを早めにつないでもらいたいという要望だと思っている。平成23年にすぐ近くに深い排水路があり、その安全対策を優先してほしいということで、ガードレールなど防護柵を整備した。この路線を下がっていくと県道舟見入善線と黒部朝日公園線との交差点がとても近く、警察からは、交差点と交差点の距離が近いと危険であり、ある程度距離を保つ必要があると言われている。さらに、そこから海側の舟見入善線との交差点、もっと海側に行くと朝日町の立派な幹線道路があり、町としては朝日町までつないで整備していければと思っている。ひばり野小学校の縦道の区間は県営農道整備事業で整備した経緯があり、朝日町と2町にまたがる道路でもあるので、町としては県営の事業でできないかと毎年県に要望している状況であり、ご理解いただきたい。

☆住民

舟見野線については以前からお願いしていたが、朝日町までつなぐのはなかなか至難の業だと思うので、まず黒部朝日公園線に接続していただき、当面は現在の婦人の家から下がる道路からあそこへつなぐということで、県道に接続することが先決ではないかなと思う。

(2) 安全・安心なまちづくりについて

☆住民

舟川の河川改修と旧堤防の早期改修について、まず、今江橋上流の河川改修について、今まで何度か説明しているが、河川が蛇行している。最近、広島で土砂災害、四国・九州でもかなり河川が冠水したという事例があるが、ここも昭和44年8月11日に決壊して床下浸水があった。何度か堤防が崩れたり、土砂が堆積して河道が狭くなるため、これまでもう50cmほどで冠水するということが何度もあったりした。そうした場合は、今江、古林、藤塚、横道あたりまで水が流れていくことになる。ダムにはダムとしての機能があるが、ひばり野で集中豪雨があるとすぐに水位が上がるという傾向があり、整備をお願いしたい。

もう1点は、昔は村長橋という名前であったが、黒部朝日公園線の舟川橋である。これは昭和初期に架けられたということで、その後かなり経過している。現在は下水道やN T Tの

〔 10.野中地区 〕

線が通っており、また、災害があった場合の住民の避難や救援物資の輸送など、重要な橋である。先ほど県道の話もあったが、別枠でこの橋の改修をお願いしたい。あわせて、橋の前後の堤防がとても古く心配であり、さらに別枠で県に強く要望していただきたい。

★建設下水道課長

1 点目の舟川の河川改修については、話は昨年の秋から受けており、昨年の 11 月 25 日に入善土木事務所長へ、地元要望ということで上田県議、野島町議、地元区長も一緒に要望書を出している。今江橋の上流に落差工があるが、落差工から上流が大きくカーブしており、落差工の上に農業用水の取水口が 1 箇所ある。落差工を過ぎると川底もかなり深くなり、区長が言うのは落差工の上だと思っている。県に前もってこの話を聞いてみたが、上流に舟川ダムが完成し、治水機能については大幅に改善されてきている、洪水の危険性も大幅に低減してきているという答えであった。また、川に堆積した土砂の撤去を以前から要望していたが、今年の 5 月に今江橋の上流で一部土砂を撤去したということで、県は今後も河川のパトロールを行い、状況を確認しながら適切な管理対応をしていきたいという話であった。町としても地元の要望も耳にしており、昨年の 11 月に要望書も提出しているので、地元の皆さんと連携しながら、また、舟川の状況把握をしながら、県に要望活動を続けていきたい。

2 点目の主要地方道黒部朝日公園線にかかる舟川の橋については、昭和初期に架けられた古い橋で確かにかなりの経過年数がたっており、老朽化が進み心配だと思う。県にもいろいろ確認してきたが、途中途中で大規模な補修をしてきており、県による橋の健全性の調査でも今の橋については健全度としては高い、今すぐどうにかなることはないと言っている。ただ、幅員が狭く老朽化もかなり目立ってきているので、黒部朝日公園線の拡幅計画の長期計画もあり、その計画にあわせて橋を架け替えていきたいというのが県の回答であった。現在、野中で止まっているところから東側に向けてどういう線形で整備していくかによって、橋を架ける位置が左右される。橋だけ架け替えるにしても、全体の道路の線形をきちんと押さえていかないと、橋の位置など細かい点が決まってこない。現時点では橋梁単独での架け替えは考えていないという県の回答であったので、ご理解いただきたい。

★町長

道路の問題、川の問題、橋の問題と要望をいただいたが、この地区が朝日町、黒部市の境界ということがある関係上、どちらかというと他の市町と比較されやすい地区だと思っている。したがって、県でやっていただくことについては、私たちも積極的に働きかけていかなくてはならない。もちろん地元の野島議員、上田県議の力も借りながら精一杯働きかけていかなければならないし、また町でやるべきことについてもできるだけ他市町に負けることのないよう、いい形で何とか整備を進めたいと思うが、財源的な問題や他市町との連携の問題もあり、そういうことも含めて十分検討させていただきたいので、よろしくをお願いしたい。

（３）有害獣対策について

☆住民

西中地内の幅沿いにおけるサルの駆除について要望だが、現在、愛本新、墓ノ木、下山地

区で電気柵を設置し、効果はだいぶ上がっていると思われるが、近年、西中地区にサルがグループで出没し、農作物の被害が多大になっている。この対策として、電気柵の設置をぜひお願いしたい。また、前回の懇談会で、電気柵を幅沿いではなく縦に設置してサルの侵入防止ができないか黒部市と協議していると聞いたが、その後の状況を聞かせてほしい。

★農水商工課長

サルの出没が相次いでおり、地域の皆さんには日頃より大変ご苦勞をおかけしている。町では、猟友会と協力しながら有害鳥獣駆除隊を結成してパトロールを実施し、捕獲や追い払い等を行っている。また、昨年からはサル用の捕獲檻を3基購入し、舟見、墓ノ木、西中地区に設置して、地元の協力を得ながら運用している。しかし、パトロールでも全てを捕獲することは困難で、地元の方には追い払いや畑にネットをかけるなど、自己防衛をお願いしたい。町では、必要な方には追い払い用のロケット花火も配布しており、活用してほしい。また、住民の方が独自で簡易電気柵を設置する場合の助成制度もあるので活用いただきたい。

地域全体での電気柵の設置については、先ほど区長さんが言われたとおり、舟見、墓ノ木、下山で設置して相当の効果が上がっている。西中地区全体での取組みとなれば、いろいろ要件などが満たされれば、墓ノ木や下山地区と同様に国の事業を活用することも可能だと考えている。設置、管理については、他地区にもお願いしているが地元が主体となるので、設置する場合は地元での組織体制づくりをぜひお願いしたい。

昨年の懇談会で言った幅での縦の設置については、昨年も言ったとおり、墓ノ木、下山、西中に出るサルは黒部市側から幅沿いに入ってくるということは分かっており、幅沿いのサルの被害防止のため黒部市側で縦の設置ができないかと、黒部市にずっと声かけしてきている。今年度、黒部市で何箇所か電気柵を設置しているが、そのうちの1箇所として愛本新と下山の間に春に設置するという事で期待していたが、下草刈りなどの管理の問題から地元と折り合いがつかないということで、一旦中止と聞いている。非常に期待していただけに残念だが、これからも何とか設置できないか引き続き黒部市と協議を強く進めていきたいので、もうしばらく待っていただきたい。

町では、今後も猟友会や有害鳥獣捕獲隊、地元の皆さん、近隣市町との連携を図りながら、追い払いやパトロールを強化しながら、少しでもサルの侵入を防ぐ努力を続けていくので、ご理解いただきたい。また、今年はクマのエサとなる山の実が大変少なく、県内各地、入善町でも人里近くヘクマが出没する例が多くなってきている。皆さんも注意いただきたい。

☆住民

今、有害鳥獣対策でクマの話もあったが、何年か前に野中地内にもクマが現れて鉄砲で駆除したが、その時クマが空き家に2、3日滞在していたと聞いた。近年でもタヌキなどいろいろな小動物が住み着いている。手が付けられない状況であり、空き家対策も含めて、個人の所有物なのでどの程度地区で介入していいのか聞かせていただきたい。

★建設下水道課長

建設下水道課が中心となって、住まい・まちづくり計画で空き家対策を担当している。古

〔 10.野中地区 〕

くて危ない、動物が住み着いているということもあるし、反対に十分使える空き家をどう有効活用していくか、対策を練っている。話にあったように、空き家に関しては個人の所有物であることが1番問題となる。それに対して町が介入できるかについては、町の独自の条例がなく、ルール化を1度きちんとしていこうと考えている。町で空き家に対する適正化条例を作ることで、町から所有者に対して指導、勧告、最終的には命令ができるように、制定に向けて動いていきたい。空き家の実態調査についても、市街地と集落を中心に今年度調査している。野中に限らず、他地域からもいろいろな悩み相談を受けている。所有者が分かれば地域の皆さんが、危ないので何とかしてよと声かけをしているとも聞くが、なかなかスムーズに前に進まない状況でもある。町では、老朽化した家の取壊しにはお金がかかるので、助成制度を設けており、そういうものも活用しながら、危険性の高い老朽化した空き家については撤去の方向に向かっていければと考え、いろいろと検討しているところである。

★農水商工課長

あくまで民地であり、非常に手を出しにくい部分も現実的にある。勝手に撤去などなかなかできない。草が生い茂っているなどは、持ち主の理解を得て地元の方で草刈りなどしていただくのが良いのではと思う。緊急的や危害を加える可能性があるという場合については、市街地地区では銃を撃てない、家が近いとダメ、道をまたいではいけないなどいろいろな制約がある中で、要請があれば罾の設置や、有害鳥獣駆除隊の緊急パトロールで対応するというのを現実的にはやっている。ただ、緊急措置的に民地に立ち入ったところ、勝手に入るなど過去にクレームを受けたこともあった。デリケートな部分もあるが、危ない時はそういうことも言ってもらえないので、ぜひ連絡や相談をしていただきたい。

☆住民

今の件についてももう少し詳しく言うと、中沢地区に手を付けられない空き家が2軒ある。1軒はもう相続する人がいないということで、国庫帰属になった住宅だと思う。相続人が放棄しているからもうどうしようもないのかもしれない。もう1軒は所有者が東京にいて、自分では管理しきれないので、買ってくれる人がいれば何とかしてほしいと言われている。屋敷の中に、木が生え、葛葉が生え、そこにクマが2、3日逗留して最終的には駆除されたという実態がある。個々の状況はいろいろあるが、また相談に乗っていただきたい。

★建設下水道課長

空き家の実態は、それぞれ理由があって手を付けられないということだと思うが、区長の話のようにそれぞれの状況や実態が違うので、そういう悩み事があれば役場に相談していただきたい。

（４）その他

☆住民

今年からJAの結婚相談員をしているが、婚活パーティーも開いているがなかなか男女が集まらない。町長が言われたように、町の方でも結婚相談員を置くということで、お互いに

連携し、まずはJ A職員と役場職員の独身の方々から先にお願いしたい。1組でも結婚していただき、少子化の対策にもなればと思うので、協力をお願いしたい。

★町長

ありがとうございます。先日、職員の結婚式に招かれて行ってきた。来月も1組あるということで大変うれしく思っている訳だが、そういった件数を増やししながら、それぞれの場ではぜひともお子さん3人目をとまでお願いしている。もっと、町職員もそうであるしJ A職員もそうだと思うが、それだけではなく他にも裾野を広げながら、またJ Aの相談員の方と町が新しく作る組織と連携を取りながら、1組でも多く結婚に結び付けられるカップルが誕生すればと思っているので、ご協力をお願いしたい。

☆住民

青色回転パトロールの件で、昔なら町で認可をもらっていたが、2年程前から青色回転パトロールをしようと思っても、富山まで行かなければ認可がもらえないと聞いている。そのため役場に相談したら、自分の実費で行ってきてくれと言われた。安全・安心なまちづくりという中で、行こうと思っている方に対して、なぜ実費で行かせて費用が出ないのかということを知りたい。野中地区は特に田舎なので、青色パトロールが回っても何の意味もないかもしれないが、防犯という意味で回っている。せめて電車賃くらいは出せないか。自分で行きなさいとなると、なかなか増えないのではないか。何か対策してもらえれば、一人でも増えるのではないか。西中地区でも2人申請していたが、富山まで行かなければならないなら辞めたとされた。ボランティアなのであまり言えないのだが、何とかなればと思っている。

★総務課長

青色回転灯防犯パトロールの皆さんには、地域の安全・安心を守っていただき感謝している。青色回転灯パトロール車については、町ではボランティアでパトロール隊を結成し、車を指定しながら、回転灯を点けて地区を守っていただいている。警察で講習を受ければ県警から登録証が来るのだが、車両と一致しなければいけないということで、車検証とパトロール隊を認証するために、富山に行って確認作業を行うという手間がかかっている。それに対して、ボランティアでやっているのになぜという意見も確かにある。せめて実費でも出ないかということについては、今のところないのが実情である。少し検討して、手当が出るかどうか、もう少し簡易な方法で地元の皆さんがパトロール隊に取り組めるようにならないか、警察等にもかけあっていきたい。

☆住民

私は野中地区の防犯パトロール隊の事務局をしている。私も青色パトロールに登録するため、車を運転して私の分ともう1人の2人分の写真と車検証を持って行った。本人が行かなくても大丈夫であり、役場に行って写真をとって申請し、1カ月ほどしたら書類と車検証を持っていけば大丈夫である。

☆住民

役場で申請を受けた後に、取りまとめて富山に行ってくればこういう話は出てこない。自分で行きなさいとしか返答がないから、こういう話が出てくる。初めの頃はずっと役場がやってくれていた。それから3年ほどしたら自分で行きなさいという話になったから、せっかく申し込んでも辞めてしまうことになってしまう。

★総務課長

周知が悪いようなので、もう少し皆さんに分かりやすいようにして、取りやすい方法がなければ検討したい。

★町長

指摘があったように、皆さんにいろいろと迷惑をかけながらも協力していただいている。金銭的な面で皆さんに迷惑をかけることは、あってはならないことだと思う。今までできた代行が今もできるのか、しばらく調査をさせていただきたい。また、どういう方法ならできるのかと考えた上で、富山までどうしても行かなければならないのであれば、それなりの対応をしっかりとしながら、皆さんに周知し、またご協力をお願いすることになると思うので、よろしくお願いしたい。

☆住民

この前の運動会の時に町長も来られたが、雨でグラウンドでの運動会ができなかった。できれば運動会なので、皆さんの力を出すためにも運動場でやった方がいいと思う。地区の運動場もせっかく良くしてもらったのだが、水はけが悪いので、何か暗渠排水等の対策をとっていただけないか。

★町長

先日は、運動会に参加させていただき、楽しませていただいた。当日、舟見地区は外でやっていたし、野中地区も外で行われていると思いながら来たが、グラウンドの状態を見ると、若干水というか湿気がまだあったようで、暗渠の対策はされていないと実感した。小学校や中学校など、学校のグラウンドについては、暗渠対策がしてある。授業にも影響するので、雨があがった段階ですぐに使えるようにということで対応しているが、それ以外の場所はなかなか対策が講じられていないのが実態である。費用的な面もあるが、なるべく外でできるように、今後予算的な面も含めて検討させていただきたいので、よろしくお願いしたい。

【2】懇談会

11. ご意見カード

～皆様からの主な意見・提言～

回収総数・・・ 172 件

【人口減少】	○未婚の若者が増えている。様々な社会的要因もあるが、人と人の結び付きが弱まっている。結婚も含めて大いに少子化対策に取り組んでほしい。 ○子宝支援金を拡充してはどうか。 ○人口減少対策として、企業誘致を推進してほしい。
【防 災】	○防災訓練は地域自らが行うことが大切なことは理解できるが、町が中心となってきっかけを作してほしい。 ○地震や津波など、災害はいつ起こるか分からない。防波堤の整備、避難場所の確保、防災マップの作成などを早急をお願いしたい。
【交 通】	○近隣市町との交通網整備の協力体制を確立し、公共交通の充実を。交通弱者へのケアが足りないし、町外から訪れる人との交流にも必要である。 ○あいの風とやま鉄道の利便性を、ＪＲの時より落とさないようにしてほしい。 ○通学路や踏切の拡幅、歩道の整備など、歩行者の安全確保をお願いしたい。
【防 犯】	○通学路をはじめ、防犯灯の整備をしてほしい。 ○不審者対策をお願いしたい。
【高齢化】	○高齢者の見守り組織について、もっと実効性がある制度をお願いしたい。 ○バスに乗れない高齢者が移動しなくてもよい、移動商店などどうか。
【子育て】	○学童保育の開所時間を延長してほしい。 ○保育所の迎えの時間は、普通に働く者としては少しでも遅くしてもらいたい。 ○保育料を１人目から無料化するなど、若い世代を支援する施策を。
【観 光】	○北陸新幹線開業に向けて町としてどうアピールしていくのか。 ○町のホームページに、観光も含めて各行事などを詳しく解説するページを設け、細かく更新できないか。
【環 境】	○防潮林でマツ枯れ被害が目立つので、早めの防虫対策を検討してもらいたい。 ○ＪＲからあいの風とやま鉄道へ移行しても、線路の法面の草刈りや除草剤散布など、従来どおりかそれ以上の環境管理に努めるよう要請してほしい。 ○老朽化したごみステーションの更新への助成や、看板の取り替えを。
【その他】	○空き家が年々増えている。対策をもっと進めてほしい。 ○近所の人でも空き家の持ち主が分からない場合が多い。役場から空き家バンク登録促進の文書を送るなどしてはどうか。 ○現在の米価では生活できない。先の見える農政を行っていただきたい。 ○地区の伝統文化を末永く伝えていくために支援をお願いしたい。 ○消防団員の確保が少子高齢化で難しくなっているが、何か良い案はないか。 ○入善乙女キクザクラの苗木の配布や販売の予定はないか。 ○地域のインターネット活用として、facebook を利用した住民間のコミュニケーションや情報発信、公民館ホームページの活性化はどうか。 ○まちづくり懇談会は、マンネリ化しているのではないか。 ○まちづくり懇談会には、若い人の意見を引き出す工夫が必要である。役場側の説明の場にならないよう、住民の声を聞く場として発展させてほしい。



入善町
NYUZEN MACHI

まちづくり懇談会の記録誌は、入善町ホームページ上にも掲載されています。

【URL】<http://www.town.nyuzen.toyama.jp/>